

319
349



始



319
349

木村中尉著

中隊(密集)教練之小言

全

東京 兵事雜誌社

緒言

今初年兵カ第一期教育ヲ終了シタカラト言ツテ第二期ニ屬スル中隊教練ヲ直ニ實施シタ所ガ到底満足ニ出來ルモノデナイ、凡テ物ニハ順序ヤ秩序ガアル即チ中隊教練ヲ準備スル小隊教練ヲ實施スルニ先ツテ之カ編入ノ準備タル分隊教練ヲ施行シナケレバナラナイ、尙ホ分隊ノ動作ヲ教習スルニハ單簡ナル基本ノ動作タル伍或ハ列ノ動作ニ依ツテ前後列ノ關係或ハ基準翼ニ連繫スル動作ヲ豫メ綿密ニ且ツ懇切ニ教育スルノガ至當デアル是等ガ略ホ出來ル様ニナツテカラ逐次ニ伍數ヲ增加シ或ハ列ノ編合ヲ多クシ部隊的意識ト感念トヲ與ヘ又秩序及連繫ノ保持ニ習熟スル様ニナタレテ分隊ニ移リ進ンテ小隊ノ教練ニ移リ然ル後、中隊教練ヲ實施スル様ニスルノガ教育ノ順序デアル

凡ソ軍隊ニ限ラズ社會ノ總テハ何事デモ簡ヨリ繁ニ入り疎ヨリ密ニ漸進スルノガ原則デアル即チ操典ニモ次ノ様ニ示サレテアル。

「中隊教練ヲ準備スル爲伍及分隊、小隊ヲ以テ教練ヲ行フ可シ」ト。

勿論初年兵ト雖、第一期末ニ於テ分隊教練ハ勿論小隊教練ノ若干部分ハ教習スルガ併シ新古兵相合

結言

大正
4. 5. 21
内交

シテ部隊教練ヲ未ダ實施シナイ爲ニ、互ニ所謂調子ナルモノガ知レナイ、故ニ初、二年兵ヲ相合シテ分、小隊教練ヨリ、更ニ開始スル必要ヲ認メラレル、此ノ如クニシテ漸次ニ中隊教練編入ノ準備ヲナシ然ル後、中隊長ハ中隊ヲ指揮シテ號令或ハ命令ヲ以テ部下ヲ驅ツテ一團トナシ雨ノ如ク飛ヒ交フ砲彈ノ中、霏ノ様ニ降り來ル小銃彈ノ中ニモ從容トシテ笑ヲ含ンデドシ、敵ニ肉迫シ且ツ如何ナル場合デモ中隊長ノ意圖ノ趣ク所、整々堂々、確實ニ恰モ舉止一體ノ如ク、頭腦ノ反映ガ手足ノ動作ニ現示サレル様ニ、如何様ニデモ運動或ハ動作ガ實行セラレテ立派ナ戰鬥ノ單位ニ耻ヂナイ志氣ノ結合シタ恰モ金城鐵壁ノ如キ中隊ヲ形成シ其ノ向フ所戰ツテ勝タザルナク攻メテ奪ハザルナク中隊長ノ死屍ノ上ニハ部下カ相重疊シテ奮死スル様ナ中隊ニ、又教育ノ單位デアリ且ツ融々和樂ノ温情ガ發露シテ居ル家庭的ノ極メテ穩健ナル名實相副フ所ノ中隊ニ仕上ル決心ヲ以テ、中隊長ハ勿論部下將校以下モ亦此ノ覺悟ヲ以テ教育ニ從事シナケレバナラナイ。

抑モ各個教練ハ部隊教練ノ基礎デアルト言フコトヲ充分ニ了得シテ居テ第一期間ハ、滅多ニ練兵場ニ臨場シナイデ事務室ニノミ閑居シテ居ル中隊長ヲ往々見受ルガ第二期ニハ直接自己ノ意圖ノ如ク、使用シ得ル様ニ教育訓練シテ何處へ押シ出シテモ後レヲ取ラナイ様ナ立派ナ中隊ニ仕上ゲナケレバナラナイノニ拘ハラズ其基礎タル各個教練ヲ少シモ顧ミルコトナク、第二期教育ニ從事ス

ル様ニナツテ如何ニ中隊長ガ朝カラ晩迄聲ヲ溜ラシテ部隊教練ヲ實施シタ所ガ先ツ正々堂々ト自己ノ意圖ノ如ク、出來ナイノハ當然デアラダラウ。

苟クモ中隊長タルモノハ自己一人ノ力ヲ以テ中隊附ノ將校以下全部ヲ教育訓練シテ自己ノ意圖ニ合セシムル位ノ絶大ノ抱負ト精力ト努力トヲ以テ率先シ躬行以テ模範ヲ示シ操典ノ明示スルガ如キ堅確ナル中隊ヲ構成シ一朝有事ノ日ニハ此ノ中隊ヲ提ケテ國難ニ殉ジ君國ヲ保護シ國家ヲ泰山ノ安キニ置クノ決心ト覺悟トヲ以テ之ガ責ニ任シ教育ニ將タ訓練ニ從事シナケレバ不忠不義此ノ上モナイモノト言ハザルヲ得ナイ。

又中隊附將校以下モ此ノ心ヲ以テ心トシ中隊長ノ一指ノ指サス所水火ヲモ辭セズ眼球ノ活動ニ因ツテモ東奔西走シ願使ニヨリテモ亦其意圖外ニ逸シナイ様ナ、動作ガ出來ル位ニ上下一致シテ王事ニ勤勞スルノ決心ト、覺悟ト處置トヲ具備スルニ非ザレハ國家ガ希望スル様ナ至猛ニシテ至強ナル軍隊ヲ訓練スルコトハ到底覺束ナイダラウト思ハレル。

又下士ノ如キモ平、戰、兩時トモ殊ニ戰時ニ於テハ小隊長ノ職ニ當ルコトガ多イノデアアルカラ能ク平時ニ於テ小隊長トシテノ動作ヲ細心注意シテ研究シ事ニ臨ミ職ニ當ルニ及ンデ躊躇逡巡スルコトノ無い様ニ心懸テ置カナケレバナラナイ。

緒言

本書ハ中隊附各位ノ爲ニ中(小)隊密集教練ニ於ケル諸種ノ動作着眼及修正ニ關スル細部ノ事項ヲ摘録シテ以テ中隊教育ノ資料ノ一端ニ供スル目的デ草シタルモノデアアルカラ各位ガ參考ノ資料ニ供セラレタナラバ著者ノ幸之ニ若カズト爾云。

大正四年五月

著者識す

中隊(密集)教練之小言目次

緒言

一 部隊教練ヲ實施スルニ先ツテ注意事項ノ摘録	一
二 號令ニ就テ	六
三 編成ニ就テ	九
四 隊形ニ就テ	一三
五 集合ニ就テ	一六
六 整列ニ就テ	一九
(甲) 正面ヨリ觀タル部隊	一九
(乙) 側面ヨリ觀タル部隊	二一
七 伍及併立ノ動作ニ就テ	二三
八 分(小)隊ノ整頓ニ就テ	二三
目次	

九 中隊縦隊ノ整頓ニ就テ……………二五

一〇 擔銃及立銃……………三八

一一 捧銃及立銃……………三九

一二 閱兵ノ動作ニ就テ……………四〇

一三 着 脱 劍……………四二

一着 劍……………四二

二脱 劍……………四三

一四 裝填及抽彈……………四四

一五 横隊々形ヨリ右(左)向……………四六

一六 四列側面縦隊ヨリ三列ニ、三列ヨリ四列ニ爲ス動作……………四七

一七 側面隊形ヨリ横隊々形ニ成リシ際ノ動作……………四九

一八 後向ケ(停止間)……………五一

一九 後向ケ(行進間)……………五一

二〇 直 行 進……………五二

二一 步 調 止 ヲ……………六九

二二 側面縦隊ノ行進……………七〇

二三 中隊横隊ノ行進……………七二

二四 併立縦隊ノ行進……………七四

二五 中隊縦隊ノ斜行進……………七五

二六 方向變換及隊形變換ニ關スル一般要領……………七七

二七 中隊縦隊ノ方向變換(停止間)……………七八

二八 中隊縦隊ノ方向變換(行進間)……………八一

二九 横隊ノ方向變換(停止間)……………八三

三〇 横隊ノ方向變換(行進間)……………八四

三一 側面縦隊ノ方向變換……………八四

三二 併立縦隊ノ方向變換(停止間)……………八六

三三 併立縦隊ノ方向變換(行進間)……………八八

三四 小角度ノ方向變換……………八八

44

三五	中隊縦隊ヨリ横隊ノ編成(停止間).....	八九
三六	中隊縦隊ヨリ横隊ノ編成(行進間).....	九一
三七	中隊縦隊ヨリ一翼ニ横隊ノ編成(停止間).....	九一
三八	横隊ヨリ中隊縦隊ノ編成(停止間).....	九二
三九	横隊ヨリ中隊縦隊ノ編成(行進間).....	九三
四〇	横隊ヨリ一翼ニ中隊縦隊ノ編成.....	九四
四一	側面縦隊ヨリ横隊ノ編成(停止間).....	九五
四二	側面縦隊ヨリ横隊ノ編成(行進間).....	九六
四三	側面縦隊ヨリ同方向ニ中隊縦隊ノ編成(停止間).....	九七
四四	側面縦隊ヨリ同方向ニ中隊縦隊ノ編成(行進間).....	九八
四五	側面縦隊ヨリ同方向ニ併立縦隊ノ編成(停止間).....	九九
四六	側面縦隊ヨリ同方向ニ併立縦隊ノ編成(行進間).....	一〇〇
四七	一側ニ併立縦隊ノ編成.....	一〇〇
四八	併立縦隊ニ於ケル小隊間隔ノ伸縮ニ就テ(停止間).....	一〇一

45

四九	併立縦隊ニ於ケル小隊間隔ノ伸縮ニ就テ(行進間).....	一〇一
五〇	又 銃.....	一〇三
五一	解 銃.....	一〇五
五二	解 散.....	一〇六
五三	行進間、障碍物ニ遭遇セシ場合ニ就テ.....	一〇六
五四	突 撃.....	一〇七

中隊(密集)教練之小言目次 終

目次

中隊(密集)教練之小言

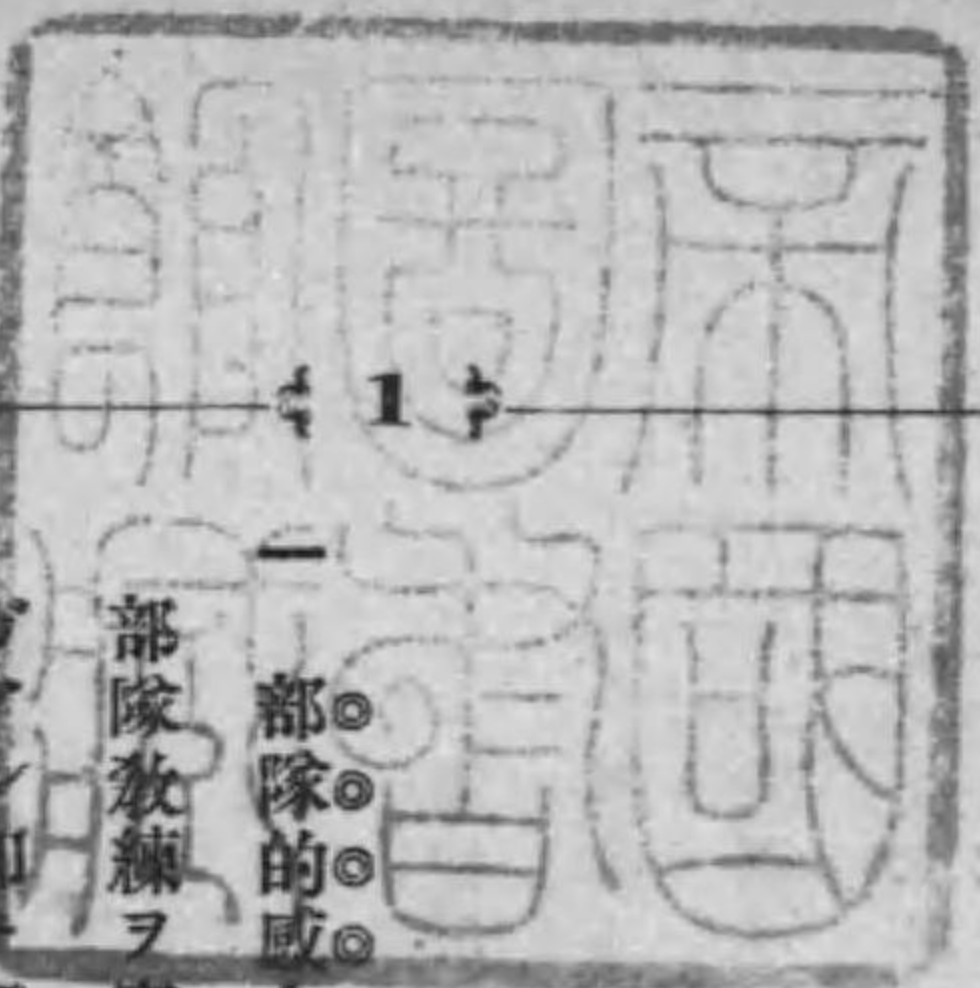
木村 中尉 著

一 部隊教練ヲ實施スルニ先ツテ注意事項ノ摘録

一 部隊的感念ヲ傾注スルコト

部隊教練ヲ實施スルニ先ツテ兵卒ニ充分ニ部隊的感念ヲ注入的或ハ啓發的ニ教育シテ置ク必要ナルコトガ、部隊ヲ編合シテ教練ヲ實施スルニ際シ、整正確實ニシテ齊々ヲ害セナイ様ニ極力微細ノ點マデ注意ヲサセルコトガ必要ナル、如何ニ隊伍ガ整正堂々ト威風四面ヲ壓シテ其動作ハ確實デアツテモ、茲ニ一名タリトモ軍紀的動作ノ破壞若クハ部隊的動作ヲ紊亂スルモノガ現在シタナラハ此ノ部隊ハ訓練ニ將タ教育ニ未ダ充分ナルモノトハ認メ難イノデアル、故ニ兵卒ニハ此等ノ感念ヲ十分ニ感銘サセテ置ク必要カアル。

部隊教練ヲ實施スルニ先ツテ注意事項ノ摘録



二 ◎◎◎◎◎◎◎◎◎◎◎◎◎◎◎◎
部下ノ過失ヲ寛容セザルコト

苟クモ部隊ヲ編成シ之レカ指揮官トシテ指揮スルニ際シテハ自己ノ欲スル所ハ躊躇逡巡スルコトナク、實施スル様ニシナケレバナラナイ、之ガ爲メ指揮官タル者ハ嚴格ナル態度ト、堅確ナル意志ノ發露トニ依ツテ部下ニ臨ミ部下ノ過失ハ一歩タリトモ寛容セス自己ノ意圖ノ欲スルマデ訓練シナケレバナラナイ、往々兵卒ノ動作錯亂シ隊伍ハ支離滅裂ニナル事ガアル、然ルニ之ヲ無言ノ裡ニ看過シテ其整頓スルヲ待ツテ再ヒ其動作ヲ繼續シテ居ル様ナ事ガ往々アル、斯ノ如クニシテハ指揮官タル者ハ部下ヲ掌握シタリトハ勿論謂フ事ハ出來ナイシ又教練ノ目的タル嚴格ナル軍紀的精神ヲ養成スルノ主旨ニモ合セナイ、

殊ニ精神上ノ過失ハ一毫一絲モ之ヲ許サス嚴カニ其精神ヲ責メ之ヲ戒シメナケレバナラナイ、然ルニ習得セシ諸制式ノ實行上ニ於ケル過失ハ大部分精神上ヨリ生スルモノガ多イ指揮官タルモノハ大ニ此ノ點ニ留意シテ其戒飾ヲ嚴ニシナケレバナラナイ、

三 ◎◎◎◎◎◎◎◎◎◎◎◎◎◎◎◎
指揮官ハ同時ニ教官タル事ニ意ヲ用ユルコト

指揮官ハ同時ニ教官デアル故ニ指揮中ト雖モ教育ノ意義ヲ念頭ヨリ片時モ去ツテバナラナイ、之ガ爲メ、指揮ノ研究ハ部隊ノ運用ノミニ止メズ如何ニセハ監視監督ヲ便ニシ得ルカ、如何ニセハ

過失ノ矯正ヲ便ニシ得ルカ、如何ニセハ其進歩發達ヲ期シ得ヘキヤ等ニ思フ馳セナケレバナラナイ、然ルニ往々部隊ノ運用ニ汲々トシテ更ニ其他ヲ顧ミナイ者アルヲ認メル事アリ斯ノ如キ指揮官ハ訓練ノ意義ヲ無視シテ居ルモノト言ハナケレバナラス、

夫レ教育ハ先ツ教ヘ、次ニ正シ時ニ戒シムルノ順序ナリ、教ユルニハ懇篤ヲ旨トシ、正スニハ成ル可ク、緻密ヲナクテバナラナイ、又戒ムルニハ極メテ嚴ナルヲ要ス、故ニ此ノ主旨ニ合スル爲ニハ先ツ説明ニヨリ、或ハ模範ニヨリ或ハ實施ニヨリ種々ナル方法手段ニヨリ、懇切ニ教ヘ習熟スル迄ハ緻密ニ矯正シ反覆其勞ヲ惜マナイ様ニシナケレバナラナイ、

往々教育ノ目的ヲ以テ練兵終了後、注意事項ヲ總括シテ一場ノ訓示ヲ與ヘルモノヲ見受ケルガ、斯ノ如キハ比較的效力ノ薄イモノデアル即チ一度ニ澤山ノ注意ヲ與ヘラレタトテ到底兵卒ハ之ヲ消化シ得ル事ハ覺束ナイコトニ想到シナケレバナラナイ、故ニ其過誤ヲ發見スル都度必ス之ガ注意或ハ訓戒ヲ與ヘ再ヒ其動作ヲ實施シテ兩度其誤リナカラシメン事ヲ圖ルカ如ク教育スルハ上述ノ趣旨ニ合スル以所テアル、

夫レ兵卒ノ頭腦ハ簡單デアリ且ツ平凡デアアル故ニ一ツツ教育スル時ハ其印象モ深ク記憶モ亦從ツテ確實デアアルカラデアアル、

部隊教練ヲ實施スルニ先ツテ注意事項ノ摘録

四 教練ハ實行ヲ確實ナラシムベシ

部隊ヲ編成シテ教練ヲ實施スルト兵卒ノ動作ハ各個教練ノ場合ト全然違ツテ來ルモノガ多イ即チ姿勢ノ威嚴ヲ欠キ態度ノ嚴格ヲ失シ動作及操作ノ不確實トナル事等是デアアル、若シ斯ノ如キ者アルコトヲ發見シタル場合ニハ成シ得レハ隊伍ヲ解散シテ各個教練ヲ施行スルカ或ハ此ノ種ニ屬スルモノ又ハ動作ノ不充分ナル者ノミヲ選出シテ之ヲ矯正シ或ハ教育シ或ハ嚴ニ戒飾シ然ル後、再ヒ部隊教練ヲ實施スル様ニシナケレバナラヌ若シ此ノ如キ事ヲ等閑ニ附シ置ケバ部隊の秩序ヲ破壞シ、軍紀ノ嚴肅ヲ害シ教練ノ目的ニ添ハナイノミナラス、兵卒ノ動作ハ體操用、練兵用、野外演習用等ノ裝用區分ヲ生ジ、精神上ノ弊風ヲ醸シ教練ノ進歩ヲ皮想ニ陥ラシムル様ニナルカラ特ニ注意スルノ必要ガアル。

五 過度ノ要求ヲ避クルコト

困苦ト缺乏ニ堪ヘ克ツノ精神ヲ養成スルノ目的ヲ以テ演習ニ過度ノ要求ヲナスコトハ教育上固ヨリ肝要デアアルガ往々其必要ヲ認メズシテ不齊地ニ於テ或ハ泥濘ノ地ニ於テ正規ノ步調ヲ要求シ或ハ不要ノ場合ニ永ク不動姿勢ヲ要求シ或ハ眼ヲ轉スルコトヲ許サズシテ現物ニ就テ説明シ或ハ風アル場合、顔面ヲ轉セシメズシテ説明ヲ與フル等其他之ニ類スル過度ナル要求或ハ無理ナ

六 部隊ノ整々ヲ要求スル件

ル要求ヲ爲スコトカ指揮官ノ往々ニ犯シ易キ過失デアアルガ之ガ爲メ兵卒ヲシテ知ラズノ間ニ軍紀ヲ破ラシムルノ動機ヲ與フルニ異ナラナイ事ニ注意シナケレバナラヌ。

- (一) 各兵卒ハ常ニ嚮導ノ存スル方ニ準スルコト。
- (二) 自己ノ番號及奇(偶)數何レニ屬スルヤヲ知得シアルコト。
- (三) 前後列ノ關係位置及之カ義務ヲ充分ニ知ルコト。

是等ノ諸件ヲ認識シテ居タナラバ諸種ノ動作ハ容易ニ實施スルコトガ出來ル。尙ホ豫令ト動令トノ間ニハ適當ナル或ル若干ノ時間ガ存セラレテ居ルカラ兵卒ハ此ノ豫令ノ間ニ「爲スベキ動作ハ何デアアルカ」「如何ニセバ號令ノ要求スル通り實施スルコトガ出來ルカ」等ノ事ヲ腦裏ニ畫イテ來ルベキ動令ニ依ツテ整正確實ニ動作ヲ實施スル様ニ注意サセレバ練兵ノ齊整タルコトハ疑モナイ次第デアアル。

七 中隊教練ノ整正タル運動、並ニ動作ヲ希望スル根底ハ小隊教練ヲ嚴格且ツ精密ニ實施シ得ル様

部隊教練ヲ實施スルニ先ツテ注意事項ノ摘録

ニナラナクテハナラナイ、中隊ノ運動トハ謂ヘ皆ナ小隊ノ連結ニ外ナラナイ、其連鎖タル小隊ノ動作ガ活氣ニ富ミ動作嚴肅且ツ運動整然タラバ中隊ノ教練ハ期セズシテ其結果、良好タラズンバアラズ然ルニ往々中隊長ニシテ中隊教練ノ實施ニ焦慮シテ緊要ナル分、小隊ノ教練ヲ度外視シ其運動意ノ如クナラザルヲ怪シムガ如キ者アルヲ見ル、小隊教練拙劣ニシテ中隊教練ノ優秀ヲ希望スルガ如キハ恰モ木ニ縁テ魚ヲ求メルト同様デアル。

八 中隊教練ニ於テ指揮官及兩翼分隊長ハ部隊ノ正面幅及深サノ步數或ハ米突數ヲ充分ニ會得シナケレハ整正ナル運動ヲ要求スル事ハ困難デアアル即チ目標ヲ與ヘラレタル時ニ自己ノ目標ノ撰定或ハ方向或ハ隊形變換等ニ於テ直ニ痛切ナル必要ヲ感ズルコトガ多イカラ、豫メ自己ノ屬スル部隊ニ就テハ步測或ハ目測シテ置カナケレハナラナイ。

二 號令ニ就テ

一 號令ハ神聖ナモノデ兵卒ニ絶對的之ニ服從ヲ要求スルモノデアアルカラ餘程注意シテ間違ノナイ様ニシナケレハナラナイ、操典ニモ。

「號令ハ能ク部下ヲ驅ツテ水火ヲモ辭セザラシムルモノナルヲ以テ堅確ナル決意、嚴肅ナル態

度明快ナル音調ヲ以テ發唱セサル可ラス」ト、アル。

二 豫令ト動令トノ間ニ適當ナル時間ヲ存セサル爲メニ隊伍ガ混亂スルコトガ屢々アル指揮官タルモノハ須ラク注意シナケレハナラナイ。

三 動令ヲ活潑ニ下サナイテ恰モ繪デ見ル幽靈ノ裾ノ様ニ消エ去ル如ク更ニ其要旨ニ合セナイモノガアル。

四 號令ノ活氣ヲ帶フルト否トハ直ニ兵卒ノ動作ニ影響スルモノデアアル、故ニ指揮官タルモノハ此ノ點ニ留意シテ須ラク生氣充滿セル活音ヲ以テ號令シナケレハナラナイ、獨逸步兵操典ニモ次ノ様ニ記載サレテアル。

「號令緩慢ナルトキハ隨ツテ動作緩慢トナル故ニ號令ハ活音ヲ以テ下ササル可ラス然レトモ目的ノ要求以外ニ高聲ナラザルヲ要ス」ト。

五 部隊ヲ指揮スルニハ別ニ規定セラレタル位置ガアル譯デハナイガ然シ、通常左ノ要件ヲ具備スル位置ヲ占ムレバヨイノテアル。

イ 指揮スル部隊ガ自己ノ視界ノ内ニアル位置。

ロ 兵卒全般ノ動作ヲ監視シ得ル位置。

號令ニ就テ

ハ 號令ガ能ク部下ニ徹底スル位置。

而シテ是等ノ要求ヲ滿ス爲ニハ通常己レノ指揮スル部隊ノ長サヲ底邊トシテ正三角形ヲ作り其頂點附近ニ位置スレハ宜イノテアル。

是ハ視界ノ及ブ範圍ノ略ボ最小限ヲ基準トシテノ論デアアル。

故ニ此ノ基準ヲ適當ニ應用シテ風向或ハ光線等ヲ顧慮シテ位置スルコトガ緊要デアアル。

六 號令ヲ下スニ停止シテ擔ヘ銃ノ儘マ號令シテ居ル者ノアル事ヲ往々見受ケルガ此ノ如キ際ニハ立銃シテ不動ノ姿勢ヲ號令スルノガ至當デアアルト思フ。

帶刀本分者モ亦肩刀ノ儘々號令ヲ下ス可キカ否カニ就テハ大ニ注意スヘキ事タト考ヘル。此ノ如キハ所謂態度ノ嚴肅ヲ缺クト謂ツテモ宜シイ。

七 自己ノ號令拙劣ニシテ且ツ明快ヲ缺キ或ハ動令ヲ下スベキ時機ヲ誤ル爲メニ兵卒ノ動作ノ齊一ヲ缺キ或ハ所望ノ運動ノ實施ヲ見サルガ如キ場合ニ際シ單ニ兵卒ヲシテ其責任ヲ負ハセテ叱咤怒號スル者ノ往々アル事ヲ見受ケルガ此ノ如キ場合ニハ更ニ自己ノ號令ヲ顧ミル必要ガアル勿論兵卒ノ不注意ニ基因スルコトモアルガ其多クノ場合ニ於テハ號令ノ徹底不充分ナルニ起因スル様ニ思ハレル。

八 指揮官ノ不注意ノ結果號令ヲ度々間違ヘル者カアルガ此ノ如キハ號令ノ神聖ヲ害シ併セテ自己ノ威信ヲ失墜スルカラ十二分ニ注意シナケレハナラナイ、若シ差シ支ヘガナカツタナラバ其號令ヲ遂行シテ然ル後ニ所望ノ運動ヲ實施スル様ニスルガ宜シイ。

諸子ヨ諸子ハ須ラク朝夕號令ノ調聲ヲ行ヒ、操典ノ明示スル要領ニ合スル様ニ努力シ尙ホ前各項ノ諸注意ヲ顧慮シテ巧ミニ號令ヲ以テ部隊ヲ運用シ得ル様ニ熟達シナケレハナラナイ。

三 編成ニ就テ

一 中隊ハ之ヲ三小隊ニ分チ中(少)尉ヲ以テ小隊長ト爲ス。

其兵員ヲ三等分スルコトガ出來ナイ場合ニハ第三小隊ノ人員ヲ少クシ次ニ第二小隊ノ人員ヲ減スル様ニスルノデアアル。

中隊ヲ編成スルニハ次ノ二様ガアル。

(イ) 當日ノ出場人員ノ全部ヲ身幹順序ニ整列セシメテ之ヲ三等分スルモノ。

此ノ方法ハ自然的ニ生ジテ來ル普通ノ編成法デアツテ各中隊トモ概シテ此ノ編成法ヲ採用シテ居ル即チ中隊ノ業務ハ極メテ多忙デアアルカラ工卒及ヒ諸當番卒其他ノ特業兵ハ各週一回乃

至二回練兵ニ出場スルノミデアアルカラ缺員ヲ生スルコトガ頗ル多イ故ニ編成ヲ規定シテモ其通り實施スルコトハ困難デアアル從ツテ此ノ方法ヲ採用サレルノデアアル。

(口) 中隊全兵員ノ身幹順序ヲ調査シテ之ヲ逐次各小隊ニ配當シ中隊ノ整列ニ際シテハ既ニ中隊ノ編成ガ出來テ居ル様ニ豫メ其編成ヲ定メテ置クモノ。

此ノ如ク豫メ小隊ノ編成ヲ規定シテ之ヲ實施スルコトガ出來ルナラバ訓練ハ「タシカ」ニ容易デアアル然シ前項ニ述ヘタ通り、中隊内ノ事務其他ノ勤務ハ甚タ多忙デアアルケレド是等ノ諸勤務工卒、特業兵及ヒ使役卒等ヲ各小隊ヨリ平均ニ割リ當テル様ニ注意スレバ常ニ其概略平均數ヲ得ル事カ出來ル嘗テ此ノ編成法ニヨツテ中隊ヲ固定ノ小隊ニ編成シ小隊長モ分隊長モ、固定的ニシテ其小隊教育ノ責任ヲ負擔サセテ練兵ヲ實施シタ事ガアツタガ其成績ハ良好デアツタ、然シ是ニ伴フ利害ハ又多デアアル。

勿論、平時ニ於テ此ノ如ク小隊編成ヲ爲ス可キモノデハナイガ是レ亦教育ノ一方便トシテ實施シタ事ヲ摘録シテ置ク次第デアアル。

- 二 小隊ハ兵卒ノ身幹順序ニ從ツテ二列ニ排列ス。
- 其前後ニ立ツ二名ヲ伍ト言フ。

兵員若シ奇數ナルトキハ左翼ノ第二列ヲ缺ク、此ノ如キ場合ハ之ヲ缺伍ト言フ。

- 三 小隊ノ各伍ハ第一列ニ於テ右ヨリ左ニ番號ヲ附ス之ヲ小隊ノ正面ト言フ。

- 四 小隊ノ正面ニ於テ各伍ノ前方ノ兵ヲ通シテ第一列ト言ヒ後方ノ兵ヲ連ヌル線ヲ第二列ト稱ス、而シテ第一列或ハ第二列ノ稱ハ譬へ、背面スルトキト雖モ變ルコトナシ。

各伍ニ於ケル前方ノ兵ヲ通スル線ヲ前列ト言ヒ、同様ニ後方ノ兵ノ線ヲ後列ト稱ス、今若シ背面スルトキハ最初正面セル時ノ前列兵ハ後列トナリ、後列兵ナリシモノハ前列兵ト變ス。

故ニ第一、第二列ノ稱ハ固定的デアツテ前後列ノ稱ハ隊列ノ向キニ由ツテ變化スルモノデアアルコトヲ記憶シテ置カナケレハナラナイ。

- 五 距離トハ縦方向ニ於ケル尺度數ヲ表ス。

間隔トハ横方向ニ於ケル尺度數ヲ示ス。

- 六 前後列ノ距離ハ前列兵ノ背若シクハ背囊ヨリ後列兵ノ胸迄七十五珊米デアアル。

夫レテ此七十五珊米ト定メラレタノハ一步ノ歩幅ニ等シク兵卒ノ記憶ヲ容易ナラシムルコトカ出來又行進ノ場合ニ前後列互ニ相撞着スルコトヲ免レシメンガ爲メデアアル。

- 七 各兵卒ノ間隔ハ左手ヲ腰ニ當テ肘ヲ側方ニ張りタルトキ輕ク左隣兵ノ右臂ニ觸ル、位デアアル。

此ノ間隔ハ銃ノ使用ト各兵卒ノ動作ヲ相互ニ妨害シナイ範圍ニ相接近スルガ宜シイ、然シ此ノ要求ニ合スル爲メニハ操典ノ規定スル此ノ方法ガ最小限ノ單位デアアル。

八 小隊ヲ更ニ分ツテ若干ノ分隊トスル、而シテ之ガ長ニハ軍曹(伍長)ヲ以テ任ズル。其分隊ハ右翼ヨリ第一、第二……分隊ト稱ス。

分隊ノ兵員ハ四伍乃至八伍デアアル。

九 小隊ノ兩翼ニハ各々、其翼ノ分隊長ヲ置キ其他ノ分隊長ハ分隊ノ中央後ニ重ナリ、後列兵ヨリ二歩ノ處ニ位置ス之ヲ押伍ト言フ。

一〇 小隊ヲ分隊ニ分ツ時、小隊ノ兵員ヲ等分スルコトガ出來ナイ場合ニハ第一、二ト順次ニ伍數ヲ多クシテ最左翼ノ分隊ノ兵員ガ他ノ分隊ニ比シテ減少セル様ナ分ケ方ヲスルモノガアルガ兩翼分隊ハ分隊長ノ古參ノ者ガ任セラレルノデアアルカラ先ツ第一分隊ニ一伍ヲ増加シ次ニ最左翼分隊ニ伍數ヲ増加シ他ノ分隊ノ兵員ヲ少ナクスル様ニシナケレバナラナイ、然ラザレバ古參者ノ兵員ガ少クテ新參者ノ伍數ガ多イト言フ奇妙ナ現象ニナルカラ注意シナケレバナラナイ。

一一 小隊長タル將校ニ缺員アルトキハ特務曹長若クハ古參ノ下士ヲ以テ任ジ分隊長タル下士ニ缺員アルトキハ上等兵ヲ以テ之ニ代フルモノデアアル。

一二 中隊ヲ編成シタナラバ各小隊ニ器具ノ分配ヲ平均ナラシメ尙ホ手旗其他ノ特業兵ノ案排ヲ巧ニシテ小隊ガ分離サレテモ差シ支ヘガ無イ様ニシナケレバナラナイ、分配サレタル器具ハ小隊長ガ之ヲ各分隊ニ平均スル様ニ亦更ニ分配サレナケレバナラナイ。

四 隊形ニ就テ

一 密集隊形ヲ分ツテ二トス。

(イ) 正規隊形……………中隊縱隊

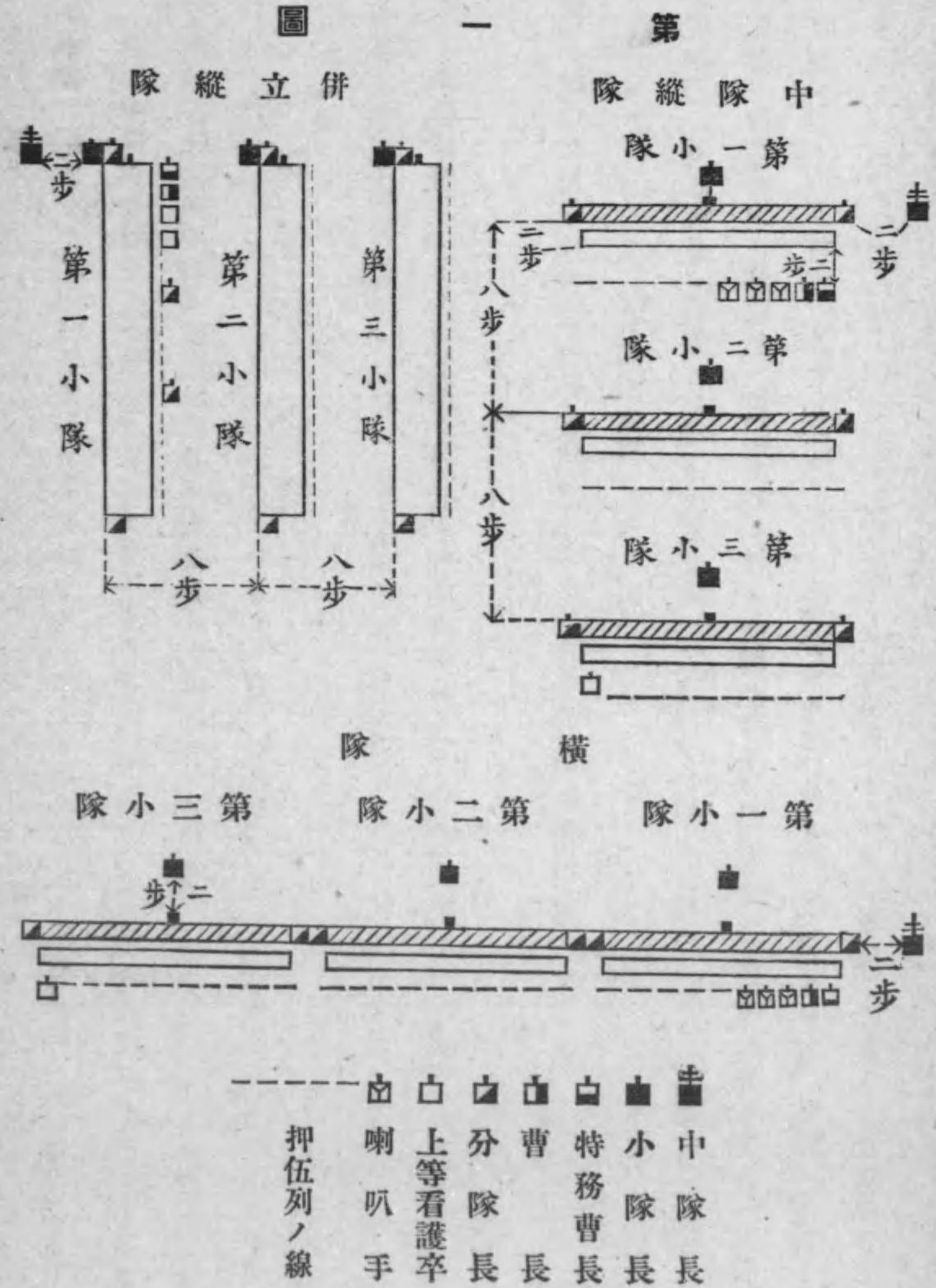
併立縱隊

(ロ) 應用隊形……………横 隊

側面縱隊

正規隊形ハ整正ニ且ツ嚴格ニ演練シテ密集隊形ノ本旨ヲ發揮スル様ニスルノカ目的デアアルガ、應用隊形ハ敏捷ニ之ヲ實際的ニ適用シ得ル様ニ演練スルノガ目的デアアル併シ、正規隊形ホトニ整正ヲ要求シナイトハ言ヘ、隊伍ノ整正ヲ欠ケル場合ニモ之ヲ答メナイ者ガアルガ、整正ニ運動ガ出來ナケレバ敏捷ナル動作ハ望ムコトガ出來ナイ、指揮官タルモノハ敏捷ト整齊トカ相關連スルコ

隊形ニ就テ



トヲ承知シナケレバナラナイ。
 今各種隊形ヲ圖示シタラバ第一圖ノ通りデアアル。
 二 正規ノ中隊縦隊ニ集合スル際ニハ通常建制順序デアアルガ中隊長ノ意圖ニヨリテ小隊ノ順序如何ニ拘ハラズ重疊セシムルコトガ出來ル之ガ爲ニハ小隊番號ヲ示セバ其順序ニ集合スルノデアアル。
 又横隊ノ集合隊形ハ普通二列デアアルガ一列トスルコトモアル。
 中隊縦隊ノ隊形ニ於テ小隊固有ノ番號ヲ稱ヘズ先頭(中央)(後尾)小隊ト呼ンデモ差シ支ヘハナイ。
 又同様ニ横隊隊形ニアリテハ右翼(中央、左翼)小隊ト呼ンデモ宜シイ。
 三 中隊縦隊ニ於ケル小隊間ノ正規ノ距離ハ八步デアアルガ地形其他敵情等ニヨリテハ號令或ハ命令ヲ以テ八步ノ距離ヲ伸縮スルコトガ出來ル。
 四 特務曹長、曹長、喇叭手ハ常ニ第一小隊ト行動ヲ共ニスルモノデアアル。
 五 併立縦隊ハ中隊縦隊ヲ側面向キトナシタル隊形デアアル、此ノ隊形モ小隊ノ關係順序ハ一定シテ居ナイ。

隊形ニ就テ

- 六 横隊ハ三小隊ヲ一線ニ併列シタ隊形デアツテ是亦其併列ニハ別ニ小隊ノ順序ハナイ、然シ右翼ヨリ建制順序ニ併列スルノガ普通デアアル。
 - 七 側面縦隊ハ横隊ヲ側面向キニシタ隊形デアアル、即チ側面向キノ小隊ヲ前後ニ重疊シタルモノデアアル、此ノ隊形モ建制順序ニナルノガ普通デアアルガ併シ中隊長ノ考次第デ順序ハ勝手ニスルコトガ出來ル。
 - 八 各種隊形ニ於ケル小隊長ノ位置ハ圖示シタ通りデアアルガ横隊ニアリテハ小隊ノ中央前二歩ニ併立及側面縦隊ニアリテハ其先頭分隊長ノ外側ニ接シテ位置スルノデアアル。
- 小隊ノ人員若シ奇數ノ場合ハ正シク中央ニ位置スルコトガ出來ルガ偶數ノ場合ハ右翼ニ近キ方ノ伍ニ重疊スル様ニ心懸ケレバ宜シイ。

五 集合ニ就テ

- 一 「集レ」ノ號令ガ下ツタナラバ右翼分隊長ハ中隊長ノ前ニ來リ、中隊縦隊ノ定位置ニツク。
- 定位置ハ別ニ明示サレテ居ナイガ併シ通常、中隊長ノ正面八歩前トシテアル、是レ中隊縦隊ニ於ケル各小隊ノ距離ガ八歩デアアルカラ其印象ヲ深カラシムル目的デアアル。

- 二 兵卒ハ其左ノ方ニ番號ノ順序ニ從ヒテ二列トナリ整頓ス。

(イ) 兵卒中往々番號順序ニ集合シナイモノガアル、之ガ爲メ爾後、運動ヲ實施スル時ニハ再ビ番號ヲツケナケレバ伍ノ重複分解ノ出來ナイ場合ガアル。

此ノ如キハ兵卒ノ動作トシテモ宜シクナイガ、又此ノ如キ過失ヲ犯サシムル様ニシタ罪ハ之ヲ寬過シテ幾度デモ番號ヲ附スルニ吝ナラザル無能ノ隊長ガアルカラデアアル。

即チ兵卒ハ集合後ニ於テハ必ず番號ヲ附セラル、モノトノ印象ヲ與ヘラレタカラ何デモ速ニ集合シ大シタ間違ガナケレバ宜シイトノ感念ヲ抱ク様ニサセタカラ從ツテ此ノ如キ過失ヲ敢テ犯ス様ニナツタノデアアル。

(ロ) 集合後兵卒ハ整頓スル感念ニ乏シキモノガ多イ、即チ只單ニ集合シテ佇立シ上官ノ注意ヲ受ケテ後初メテ整頓スル者ガ多イノデアアル。

此ノ如キハ上官ガ集合ノ都度其整頓ノ可否ヲ見ス直ニ「右(左)へ準へ」ノ號令ヲ下シテ無意味ナル整頓ヲ命ズルニヨリ兵卒ハ集合後必ず整頓ノ號令アルモノト自覺シ強ヒテ自カラ集合後ノ整頓ヲ行ハナイ様ニナルノデアアル、故ニ此ノ如ク兵卒ヲシテ自働的ニ過失ヲ犯サシメル様ニ教育シタノハ上官ノ責任モ亦少クナイ様ニ思ハレル、然シ兵卒自身モ大ニ注意シナケレバナラ

ナイ。

(ハ) 集合ニ際シテ概シテ兵卒ノ動作ハ喧噪デアアル。

三 又銃ヲナシ解散シアルトキハ各兵卒ハ直ニ又銃ノ所ニ集リ靜ニ己レノ位置ニ就ク。

(イ) 又銃ハ四兵卒ノ協力ニヨリ成立スルモノデアアル、兵卒ヲシテ各自ニ其又銃ニ觸レシムルコトヲ許セバ忽チ其轉倒ヲ來タス故ニ先ツ最初ノ定位置ニ集合シテ解銃ノ號令ヲ待ツノデアアル。

(ロ) 集合ノ際往々又銃ニ觸レテ銃ヲ轉倒セシムルモノガアルカラ此ノ點ニ充分注意シナケレバナラナイ。

四 翼分隊長及押伍列ニ在ル者ハ其銃ヲトル

要スルニ集合ハ極メテ迅速且靜肅ニ出來ナケレバナラナイ上述ノ如ク番號ノ順序ニ集合シナイノハ併合デアアル。

殊ニ夜間ノ集合ハ集合ノ要旨ニ合セナイ場合ガ多イカラ大ニ演練ヲ要スル。

尙ホ第一期教育ニ於テ集合解散ノ科目ヲ設ケテ實施シテ居ルガ其目的タルヤ眞ノ集合解散ニアラスシテ只單ニ一種ノ運動即チ、足慣ラシ、或ハ身體ノ柔軟或ハ動作ノ敏捷ヲ圖ル目的ヲ以テ實施シテ居ルモノガ多イ様ニ思ハレル。

實ニ集合解散ノ遲速ハ戰鬪ニ影響スルコト多大ナルコトニ想到シタナラハ決シテ遊ビ半分ニ教育スヘキモノデナイコトニ留意シナケレバナラナイ。

六 整列ニ就テ

(甲) 正面ヨリ見タル部隊

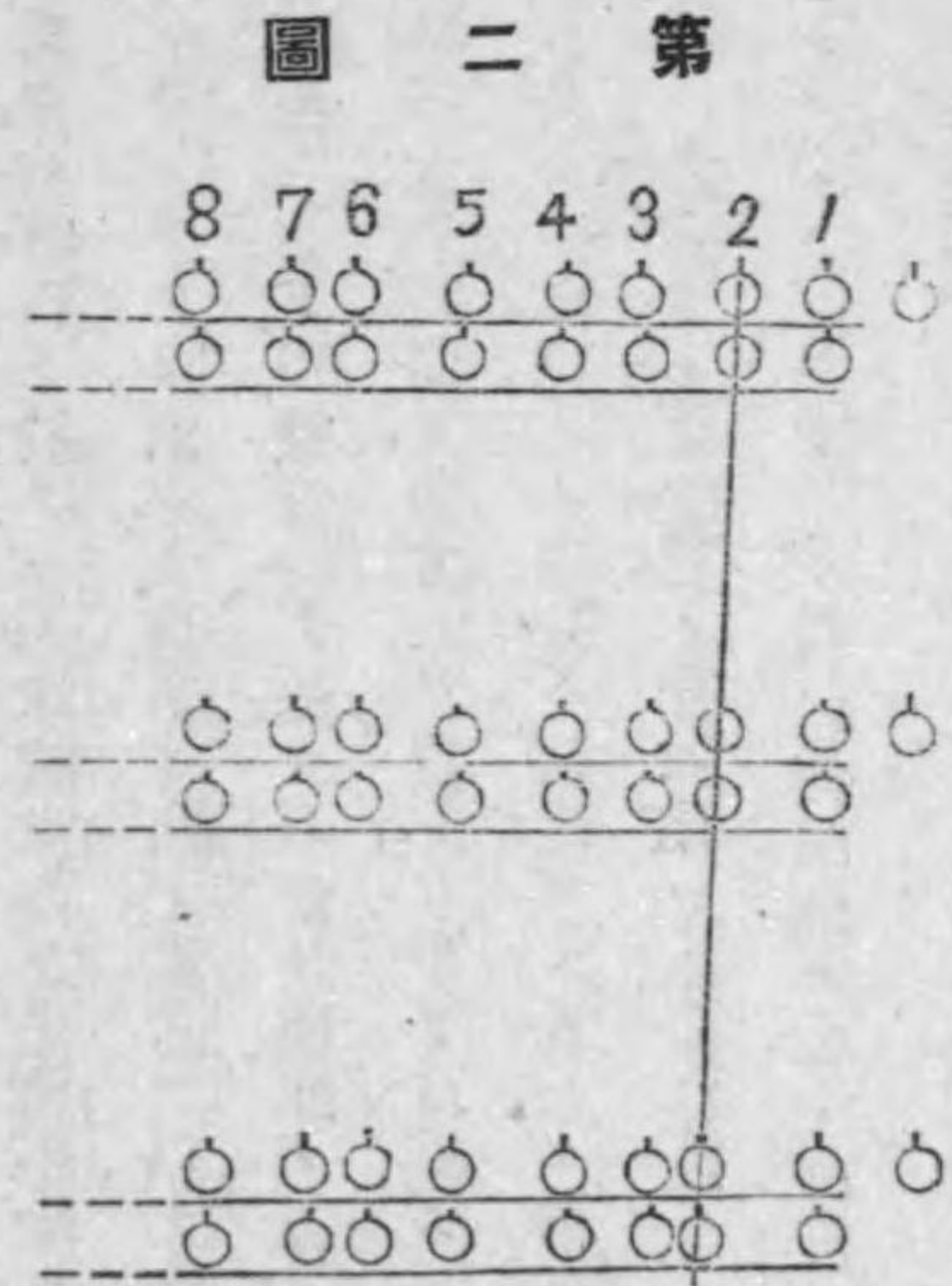
一 舊操典時代ニ於テハ大隊縱隊スラ先頭中隊ヨリ後尾中隊ニ至ル迄、恰モ重箱ヲ重ネタ様ニ相重疊スルコトヲ要求シ又兵卒モ此ノ感念ヲ以テ宜シク努メタモノデアアル、嘗テ大庭閣下ガ近歩二ノ聯隊長トシテ在職當時ノ如キハ當該聯隊ノ各中隊長ハ勿論大隊長ニ至ルマデ列兵ヲ重疊サセル爲ニ多大ノ時間ト努力トヲ費シタ事ヲ目撃シタガ併シ今日デハ之ホド迄ニ八ケ間敷ハ要求シナイガ苟モ中隊位ノ小部隊ハ何時デモ正シク相重疊スルコトガ出來ナケレバナラナイ。

(イ) 之ガタメ整頓翼ノ分隊長ハ先頭分隊長ニ正シク重ナリ列兵ハ定規ノ間隔ヲ保持スル様ニシタナラバ若干ノ差異ハ勿論免レナイガ併シ期セズシテ大體ニ於テハ相重疊スルコトガ出來ル筈デアアル。

先頭小隊ノ前後列ニハ多大ノ注意ヲ拂ハナケレバ後尾小隊ニ非常ナル誤差ヲ生スルコト左圖

整列ニ就テ

ノ如クデア



合モ兵卒ノ非常識ナル結果ハ圖ノ如キ有様トナリ尙第六伍ノ様ニ間隔ニ廣狹ガアルト大ニ美觀ヲ害スル事ニナル。

兎角先頭小隊ニ於ケル伍ノ重ナリハ其過誤極メテ微少デアラカラ、一寸氣ノ附カナイ事ガ多イ、其レガ爲メニ僅カ三個小隊ヲ重疊セシメル爲メ非常ニ苦心スル様ナ場合ガ随分アル。

(□) 列兵ヲ重疊サセル爲ニハ各小隊ノ同シ伍ヲ通シテ捧銃ヲ爲サシメ修正ヲ加ヘル方法モア

例ヘバ第二伍ニ於ケル如ク先頭小隊ノ前列兵ガ足ノ位置正シカラザル爲カ或ハ上體ノ振レテ居タ爲カ左肩ガ前方ニ出タ場合後列兵ガ之ニ正シク重ナラン爲メニハ自然定規ノ間隔ヨリハ若干左方ニ位置スル筈デア

ル其差ハ極メテ些少デア

ルガ、之ニ第二、第三小隊ヲ重疊セシメタナラバ圖ニ示サレタ通りデア

ル又第五伍ノ様ニ後列兵ガ正シク重ナラナイ場

ルガ此ノ手段ハ大體ノ重ナリハ出來ル、併シ列兵ノ捧銃ガ正シケレバ比較的良好ナ結果ヲ得ルニ相違ナイガ若シ列中ニ於テ不完全ナルモノガアレバ到底重疊ヲ望ムコトハ出來ナイ譯デア

(ハ) 各小隊ヲシテ左手ヲ腰ニ當テシメ殆ンド定規ノ間隔ヲ保持サセテ先頭及後尾小隊ノ二點ヲ連結セシメ其線内ニ中央小隊ヲ重疊セシメル様ニスルノガ今日迄ノ經驗ニヨルト一番容易ニ且ツ正シク比較的速ニ重疊サセルコトガ出來ル様ニ思フ。

(乙) 側面ヨリ觀タル部隊

一 整頓ヲ爲シテ一線上ニ兵卒ヲ併立サセタ時ニハ生キタ障壁ガ築カレタ如ク之ヲ側面カラ觀タ場合ニハ幾十人、幾百人居テモ、姿勢、銃ノ保持其他床尾飯ノ位置等ニ至ルマデ恰モ一人ノ側面觀ノ様デナクテハナラナイ今側面カラ觀タ若干ノ注意ス可キ點ヲ列舉シテ見ルコトニスル。

(イ) 如何ニモ立派ニ整頓ガ出來タト感心シテ眼ヲ轉ジテ踵ノ線ヲ注視スルト驚ク可シ恰モ鋸ノ齒ノ如シト言フ様ナ整頓デア

ルコトガ随分多イ。抑モ部隊教練ノ基礎デア

ル所ノ不動ノ姿勢亦軍人基本ノ姿勢デア

ル所ノ不動ノ姿勢ニ對シテ何等部隊の感念ヲ含有セスニ教育シタ結果ハ此ノ如クデア

又檢閱或ハ儀式等ノ際繩ヲ張ツテ踵ノ線ヲ一致サセテモ整頓ガ出來ナイ、故ニ甲ハ胸ヲ張レ、乙ハ臀部ヲ引ケトカ漸クノ思ヒデ整頓ヲサセタト思フテ暫クシテ再ヒ不動ノ姿勢ヲトラセルト忽チニシテ凸凹ノ整頓ニ化シテ居ル。

苟クモ胸ノ線ニ修正ヲ加ヘタナラバ踵ノ線ハ期セズシテ一致スル位同型ニ教育サレナケレバ完全ナル各個教練ノ教育ト謂フコトハ出來ナイ。

(口) 床尾鉸ノ位置、修正デナイコトガ多イ。

(ハ) 銃口ノ位置又然リ、殊ニ着劍シタ場合ニ於テハ甚シク其不整ガ認メラレル。

(ニ) 銃ヲ保持スル右手ノ齊一デナイ部隊ガアル、即チ手首ノ曲ツテ居ルモノ或ハ手首ノ伸ビテ居ルモノ等アリテ甚シク其美觀ヲ害スル。

(ホ) 着眼點ノ齊一デナイ部隊ガ頗ル多イ、甲ハ眞直ニ乙ハ天空ヲ丙ハ地面ヲ凝視シ所謂各人勝手ノ方向ヲ睨視シテ居ル、是亦、各個教練ノ際、極メテ粗雑ナ教育ヲナシタ結果ノ現示ニ外ナラナイ事ヲ深ク銘セナケレバナラナイ。

七 伍及併列ノ動作ニ就テ

一 元來此教練ヲ實施スルトキ其眼目ニ對スル注意力足リナイ様ニ思ハレル。

(イ) 即チ伍ノ教練ニ於テ其重疊及前後列ノ距離ニ就テ嚴格ニ修正シテ然ル後所望ノ動作ヲ實施スルモノガ極メテ少ナイ。

只單ニ伍ノ動作ヲ教示スルニ止マルカ故ニ從ツテ部隊ヲ編成シタ場合、列兵トシテ其重疊及距離ノ感念ニ乏シク且ツ其動作ガ拙劣ニナルノデアアル。

(ロ) 列ノ動作ニ於テモ亦タ然リ、其間隔、整頓及上體ノ向キ等ヲ矯正シテ動作ヲ實施スルモノ幾人カアル、之ガタメ部隊ヲ編成シタ際ニハ列ニ於ケル所要ノ感念ヲ缺ク爲ニ整正ナル整頓及行進等ハ亦隨ツテ劣等ニナルノデアアル。

苟クモ此ノ如ク各個的動作或ハ基本ニ屬ス可キ教練ヲ教習セシムル場合ニハ殊ニ細微ナル注意ト滿腔ノ懇切トヲ以テ教育ヲ施サレナケレバナラナイ。

八 分(小)隊ノ整頓ニ就テ

伍及併列ノ動作ニ就テ 分(小)隊ノ整頓ニ就テ

一 分隊ハ嚮導即チ兩翼分隊長ナルモノハ無イ筈デアアル、所ガ分隊教練ニ於テ分隊長ニ整頓ヲ命ズルト直チニ兩翼へ上等兵カ若クハ古參ノ兵卒ヲ分隊長ノ位置ニ設ケテ然ル後整頓ノ教練ヲ開始スル。

此ノ如キハ小隊教練ノ準備演習カ若クハ小(中)隊長ヨリ斯克セヨト命セラレタル場合ハ論外トシテ抑モ分隊長ガ分隊ノ性質ヲ誤解セルカ或ハ斯克セザレバ整頓ハ爲シ得ザルモノトノ曲解ニ基因スルノデハナイカト思考セラレル。

分隊トシテ嚮導ヲ存セズ整頓スル方法ハ二、三アル。

(イ) 銃ヲ提ケテ何歩カヲ前進セシメ停止セシ際整頓ヲサセテモ此ノ目的ハ達セラレル。

(ロ) 右(左)ノ二乃至三伍ヲ、或ハ兩翼ノ一乃至二伍ヲ所望ノ歩數丈ケ前進セシメ之ヲ基準線トシテ分隊ノ列兵ヲ整頓サセテモ實施スルコトガ出來ル。

(ハ) 其位置ニ於テ整頓ヲサセテモ宜シイ。

二 小隊ノ整頓ハ中隊教練ニ於ケル整頓ノ第一(先頭)小隊ニ準シテ實施スレバ宜シイ。

三 整頓ニ關スル細部ノ注意事項ハ中隊ノ整頓ノ項ニ述ベル事ニスル。

九 中隊縱隊ノ整頓

一 整頓ノ方法ヲ區別スルト二種アル

(甲) 基準線ヲ設ケテ其線ニ列兵ヲ整頓セシムル場合。

(乙) 信地整頓即チ其場ニ在リテ其線ニ整頓スル場合。

共ニ整頓デアアルガ之等ハ地形ト時機ト他隊ノ關係等ニヨリテ何レヲ採用ス可キカヲ判斷シテ決定シナケレバナラナイ。

甲、一、中隊縱隊ヲ整頓セシムルニハ「嚮導(何)歩前へ」ノ號令ヲ下ス、然ルトキ先頭小隊ノ兩翼分隊長ノミ銃ヲ擔ハズシテ示サレタル歩數丈前進シ然ル後中隊長ハ其位置ヲ正ス。

(イ) 此際兩翼分隊長ハ直進シナレバナラナイ、若シ左右ニ偏スル時ハ小隊ノ間隔ニ廣狹ガ出來テ隊伍ガ分離シ或ハ兩翼下士ノ間ニ列兵ガ全部整頓シ得ナイコトガ出來ルカラデアアル。

(ロ) 銃ノ下ケ方ガ宜シカラザル爲メニ銃口ノ前方ニ出ルモノガアル。

(ハ) 前進ノ際ニ歩調ヲ取ラナイモノガアル。

(ニ) 中隊長ガ分隊長ノ位置ヲ正ストキニ、胸ノ線ノミ見テ矯正スルモノガアル、爲メニ整頓ノ

中隊縱隊ノ整頓

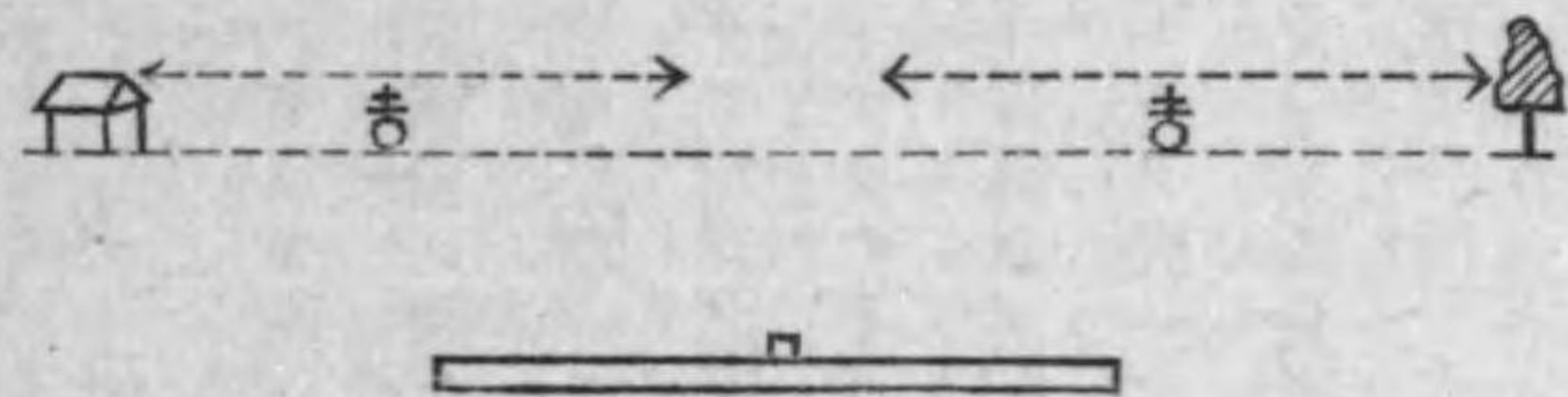
出來ナイ場合が多い即チ肩ノ前後ニ無頓着デアルカラデアアル、肩ノ線ガ一致シナケレバ正シキ
整頓ハ到底望ムコトハ出來ナイ、然ルニ往々分隊長ノ修正不充分ニシテ一見立派ナ整頓ガ出

來ナイコト明瞭デアル場合ニ「今ノ整頓ハ不充分デアアル」ト言フモノガ
アルガ決シテ不充分ナノデハナイ、却ツテ分隊長ノ姿勢カラ論及シタ
ナラバ當然デ且ツ寧ロ良好ナ整頓デアルコトガ多い。

夫レデ肩ノ前後ハ上體ノ振レタ爲カ或ハ兩足ノ位置正シカラサル爲デ
アル、故ニ必ズ整頓翼ノ分隊長ノ正面ニ位置シテ兩足ノ位置及姿勢ヲ
矯正シ然ル後側面ニ行ツテ更ニ兩踵ノ線、及姿勢ヲ修正シ左翼分隊長
ヲ其同線内ニ一致セシメル様ニシナケレバナラナイ。

(ホ) 兩翼分隊長トシテ整頓ニ際シ列兵ヲ整頓線上ニ位置サセルノニ注
意ノ足りナイモノガ多い、即チ次ノ如キ注意ヲシナイ爲ニ整頓ノ修正
ガ困難ナ場合ガアル、兩翼分隊長ハ示サレタル歩數丈ケ前進シテ右翼
分隊長ハ左翼分隊長ヲ通スル線上ニ某目標(譬ヘバ一軒家ノ右角)左翼
分隊長ハ右翼分隊長ヲ通視スル線上ノ某目標(譬ヘバ獨立樹ノ梢)ヲ選

第三圖



定シ置ク事ガ必要デアアル併シ此ノ目標ハ低イモノデアルト列兵ニ妨ケラレテ第二目標(假標)
ハ通視スルコトガ出來ナクナルカラ成ル可ク高ク目標ヲ撰定シナケレバナラナイ。

列兵ノ整頓ガ整頓線ヲ踏ミ越エタ場合ニ於テハ忽チ整頓ヲ修正スルニ標準ガナクナル、即チ
外翼分隊長ハ通視スルコトガ出來ナイ、從ツテ整頓ヲ修正スルコトハ困難デアアル、若シ此場合
ニ高イ目標ヲ撰定シテ置イタナラバ、他翼ノ分隊長ハ見エナクツテモ、其目標ヲ基準トシテ後
退サセテ畧ホ速ニ整頓線上ニ就カシメルコトガ出來ル理窟デアアル、故ニ必ズ高イ第二目標ヲ
確定シテ置ク必要ガアル。

右(左)へ準へ

二 動令ニテ中隊ハ銃ヲ擔ハズシテ前進シ最後ノ一步ヲ縮メ少シク整頓線ヨリ後方ニ止ル。

兵卒トシテノ動作

(イ) 前項(イ)、(ロ)、(ハ)、ニ準ジテ注意スルヲ要ス。

(ロ) 最後ノ一步ヲ縮メテ少シク整頓線ノ後方ニ止マルトアルガ舊操典ニハ約半歩後方ニ止マ
ル様ニ教示サレテアツタ、今日デモ之ニ則ツテ多クノ場合ハ最後ノ一步ヲ縮メテ半歩位ニスル
様ニ教育シテ居ル、此ノ歩幅モ大畧ノ基準ヲ示シテ置カナイト最後ノ一步デ停止シタ際ニ恰

中隊縦隊ノ整頓

モ列兵ガ鋸齒狀ニ凹凸デアル様デハ迅速ニ且ツ完全ニ整頓スルコトガ困難デアル、故ニ最後ノ一步モ之ヲ規定シテ停止シタ際ニハ其列兵ノ關係位置ハ畧ボ一線上ニアル様ニ注意教育シナケレバナラナイ。

三

次ニ頭ヲ右(左)ニ廻シ肩ヲ屈グルコトナク小歩ニテ靜カニ整頓線ニ就キ銃ヲ下ス。

(イ) 停止スルト同時ニ頭ヲ右(左)スルモノガアルガ恰モ舉動ノアル様ニ停止シテ次ニ同時ニ全部頭ヲ廻スコトニ注意シナケレバナラナイ。

(ロ) 停止シタ際ニ自己ノ兩足ノ位置ガ正シキヤ否ヤヲ視ル爲メニ下方ニ俯向クモノガアル、此ノ注意スル精神ハ宜シキモ兎ニ角下方ヲ視ルコトガ宜シクナイ、兩足ヲ視ナケレバ、自己ノ位置ガ決定出來ナイ様ナ不信任ナ又斯ノ如キ教育程度デハ到底完全ナ部隊教練ヲ施行スルコトガ出來ナイ。

(ハ) 一般ニ列兵ハ停止シテ後方ノ脚ヲ前脚ニ引キツケルト同時ニ摺歩ニ移ルガ、之レモ舉動ノアル様ニ頭ヲ廻シテ後更ニ此ノ動作ニ移ル様ニシナケレバナラナイ。

(ニ) 兵卒ノ摺足ハ概シテ肩ヲ屈スルモノガ多イ爲メニ摺足ノ歩幅廣キニ失シテ整頓線ヲ踏ミ越エテ整頓ヲ破壊スルコトガ屢々アル。

實ニ摺足ノ巧拙ハ整頓ニ著シキ影響ヲ與フルモノデアルカラ、各個ニ充分教育シナケレバナラナイ。

(ホ)

摺歩ノ際兵卒ノ左手ガ側章カラ離レルモノガアル。

(ヘ)

銃ヲ腰ニ支ヘテ居ナイ爲メニ往々靴デ銃床ヲ蹴飛バスモノガアル。

(ト) 前列兵ハ隣兵トノ間隔保持及整頓ニハ責任ヲ以テ注意シナケレバナラナイ、即チ後列兵ハ之ニ重疊スル義務ヲ有スルカラデアアル。

(チ) 前列兵ハ各人共ニ小隊間ノ距離ヲ了得シ同時ニ前方小隊ノ後列兵ヨリ七歩ノ所ニ位置スレバ宜シキ事ノ感念ヲ以テ整頓スレバ整頓モ大體ニ於テ大シタ間違モナク迅速且ツ容易ニ出來ル譯デアアル。

四

但シ後列及押伍列ニアルモノハ正シク前方ノ兵卒ニ重リテ距離ヲ取り右(左)ノ方ニ整頓ス。

(イ) 後列兵ハ正シク前列兵ニ重リテ、規定ノ距離ヲ保持スルコトニ留意スレバ後列兵ノ整頓ハ大體ニ於テ出來ル譯ダガ若シ此等ノ仕事ガ了ツテ尙ホ「直レ」ノ號令ノ下ラナイ場合ニハ頭ヲ右(左)ニ廻シテ整頓ヲ完全ニスルノデアアル。

然ルニ後列兵ハ前列兵ニ重ツテ距離ヲトル感念ガ極メテ乏シイ爲メニ停止スルト同時ニ前列

兵ト同ジ様ニ頭ヲ右(左)ニ廻シテ整頓スルモノガ甚ダ多イ。

五 整頓完全ナルトキハ各兵卒ハ整頓線上ニ正シキ姿勢ヲトリ、頭ヲ右(左)ニ廻ストキ右(左)ノ眼ヲ以テ右(左)隣兵ヲ視、他ノ眼ヲ以テ全線ヲ通視スルコトガ出來ルノデアアル。

六 兵卒整頓線ニ就クトキハ頭、肩又ハ上體ヲ前後ニ出スコトナク正シキ姿勢ヲ以テスルヲ要ス、若シ足ノ位置正シカラザルトキハ之ガタメ兩肩整頓線ニアラズシテ其害自己ニ止マラズ必ズ隣兵ニ及ブモノデアアル。

(イ) 各個教練ノ部ニ一寸述ベテ置イタガ兩足ノ位置正シクナイモノガアルト之ガ爲ニ肩ノ線ハ整頓線上ニナイカラ自然整頓ニ困難ヲ生ジ其害ハ自己ノミデナク必ズ隣兵ニ波及スルモノデアアル。

即チ若シ列中ニ左肩ノ出ル様ナモノガアツタトスレバ右整頓ニ於テハ其兵ヨリ左翼ハ概シテ突出スルノガ通弊デアアル此ノ如ク上體ノ整頓線上ニアラザル際ハ整頓ニ故障ヲ生ズルカラ充分注意シナケレバナラナイ。

(ロ) 兵卒中ニハ整頓ノ際上體ヲ前方ニ屈シテ整頓線ヲ視ルモノガアルガ此ノ如キハ整頓ヲ妨害スルモノデアアルカラ深ク戒メナケレバナラナイ。

七 「直レ」ノ號令ニテ兵卒ハ頭ヲ正面ニ復ス。

(イ) 兵卒中ニハ未ダ「直レ」ノ號令ノ下ラナイ中ニ頭ヲ正面スルモノガアル。

(ロ) 「直レ」ノ號令ガアツタナラバ未ダ整頓ガ充分デナクトモ直ニ其號令ニ應ジナケレバナラナイ、然ルニ此ノ號令ガ下ツテモ尙ホ整頓ヲ正サントシテ頭ヲ廻シテ居ルモノガアル。

八 分隊長トシテノ動作。

(A) 整頓翼ノ分隊長ハ速ニ整頓ノ基礎ヲ定ムル爲メ反對翼ノ分隊長ヲ目標トシテ先ヅ己レニ近キ二三兵卒ノ位置ヲ正ス。

(イ) 反對翼ノ分隊長ヲ目標トシテ整頓ヲ修正ス可キコト明文ノ如シト雖ドモ細部ノ注意トシテハ已ニ述ベシ如キ方法ヲ採用シ置クヲ可トス。

(ロ) 先頭小隊ノ兩翼分隊長ハ「準ヘ」ノ動令ト同時ニ頭ヲ右(左)シテ兵卒ガ摺歩シテ前進シ來ルモノヲ新線上ニ速ニ整頓シ得ル様ニ指導スルノ責任ガアル、之ガタメ兩翼分隊長ハ己レニ近キ兵卒ヲ兩三名、新線上ニ整置スルコトガ必要デアアル、尙整頓ヲ容易ナラシメント欲セバ列兵中整頓線ヲ踏ミ越ユルモノヲ抑制スルコトガ緊要デアアル、所ガ燈臺下暗シノ類デ一般

ノ分隊長ハ自己ニ近キ兩三名ノ兵卒ガ正シク整頓線内ニ位置セザルコトガ極メテ拙劣ナモノガ多イ、爲メニ整頓ノ完全ヲ期スルコトガ出來ナイ場合ガ從ツテ多イ。

整頓ニ關シテハ殆ンド全責任ヲ負擔シテ居ル翼分隊長ハ此點ニ就テハ餘程注意ヲシテ熟練シナケレバ完全ナル整頓ハ要求スルコトガ出來ナイ。

(ハ) 分隊長ガ兩翼ノ兩三名ヲ正シク整頓線内ニ導イタニモ拘ハラズ全般ノ整頓良好ナラザル場合ハ寧ろ罪ハ列兵ニアリト謂ツテモ宜シイ、併シ次ノ様ナ明文ガアルカラ強ガチ罪ヲ列兵ニ負ハセル譯ニモ行クマイ。

(B) 要スレバ逐次ニ整頓ヲ正ス。

(イ) 兩翼分隊長ハ兩三名ヲ整頓線内ニ整置シタナラバ我事終レリトスルコトハ出來ナイ、若シ時間ノ餘裕ガアツタナラバ全般ノ整頓ヲ修正スル義務ヲ有スルノデアアル。

(ロ) 分隊長ガ中央附近ノ兵卒ヲ修正スルニ當リ頭ヲ突き出シテ番號ヲ逐次數ヘテ「何番後、(前)へ」ト言ツテ整頓ヲ正シテ居ルガ、ソナ勘定ヲシテル内ニハ「直レ」ノ號令ガ下ルカラ大概ノ目算ヲ以テ「何番前(後)へ」ト先ヅ矯正シ之ヲ基準トシテ所望ノ兵卒ヲ速ニ新線上ニ置ク様ニ爲ナケレバ時間ノ餘裕ヲ得テ整頓ヲ完全ニスルコトハ覺束ナイ。

(ハ) 嚮導ノミナラズ其他ノ兩翼分隊長ハ一度自己ノ位置ヲ決定シタナラバ列兵ノ整頓ガ如何様デモ決シテ其位置ヲ變ヘテハナラナイ、若シ位置ヲ變ズル様ナコトガアルト前後ニ於ケル分隊長ノ距離ハ伸縮シ或ハ他隊ト連繋セル場合ノ如キハ整頓ヲ害スル様ニナルカラデア、往々分隊長中殊ニ甚シキハ嚮導ガ列兵ノ整頓線中ニ位置センガ爲メニ前進(後退)スルモノアルヲ認メルコトガアルガ右ニ述ベタ様ニ距離其他整頓等ニ多大ノ迷惑ヲ及ボスコトヲ考ヘテ充分ニ注意シナケレバナラナイ。

(ニ) 最初ノ整頓ニ於テ間隔過狹ナリシ爲メカ、或ハ嚮導ノ前進法ノ誤マリカニ依ツテ兩翼分隊長ノ中間ニ全列兵ガ整頓シ得ナイ場合ガアル、此ノ如キ場合ニハ整頓線内ニ位置シ得ル丈ケノ兵員ヲ位置セシメ殘部ハ其後方ニ殘置シ、整頓終了後正シク横方向ニ避ケ全部ヲ始メテ整頓線内ニ位置セシムル様ニナルノデアアル、所ガ往々分隊長ニハ全列兵ヲ速ニ整頓線内ニ位置サセル目的ヲ以テ直ニ側方ニ避クルガ如キモノアルヲ認メルコトガアルガ、此ノ如キコトヲスルト折角定メラレタ基準線ハ何ノ効モナク、從ツテ指揮官ノ所望ノ線上ニ整頓スルコトガ出來ナクナルカラ是亦大ニ注意ヲ要スル次第デアアル。

(C) 後方小隊ノ整頓翼ノ分隊長ハ正シク距離ヲ取り前方小隊整頓翼ノ分隊長ニ重ナルモノト

ス。

(イ) 兩翼分隊長ハ前方小隊ヨリ正シク八歩ノ距離ヲ測定シテ位置スルノ絶對的責任ヲ有スルモノデアル。

(ロ) 整頓翼ノ分隊長ハ距離ヲトルト同時ニ前方小隊ノ分隊長ニ正シク重ナルノ義務ヲ有ス、若シ分隊長ガ重疊シナカツタラバ自然列兵ハ先頭小隊ニ重疊スルコトモ出來ナイカラデアル。

「準へ」ノ動令ニテ前進スル際、整頓翼ノ分隊長ハ勿論列兵モ前方小隊ノ兵卒ニ重疊セントスル感想ヲ以テ前進シ停止シタ場合ニハ前後ノ重疊ハ已ニ充分デアツテ只單ニ距離ノ保持ダケニ注意スレバ宜イ様ニ細心意ヲ用フル様ニスレバ少シデモ整頓ノ爲メニ力ヲ傾注スルコトガ出來且ツ迅速ニ實施スルコトガ出來ル譯デアル。

(D) 整頓ヲ修正シ了ツタナラバ頭ヲ正面ニ復ス。

(イ) 「直レ」ノ號令ガ下ツタナラバ如何ニ整頓ガ拙劣デアツテモ、修正スルコトヲ中止シテ頭ヲ正面ニ復セナケレバナラナイ。

然ルニ往々此ノ號令ガ下ツタ後ニモ尙ホ整頓ヲ矯正シテ居ルモノガアル。

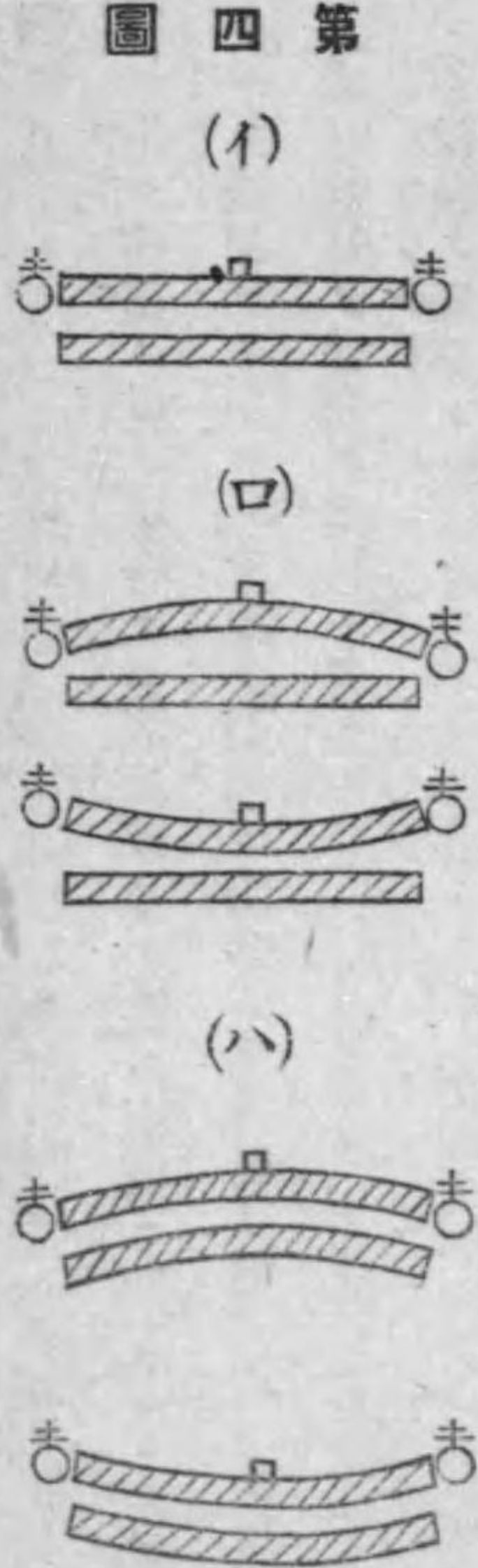
(E) 整頓ノ巧拙ハ實ニ兩翼分隊長ノ手腕ニ相俟ツモノデアルト謂ツテモ過言デナイ、小隊長ニ整頓ヲ修正サレル様デハ未ダ翼分隊長ノ職責ヲ全フシテ居ルモノト認メルコトハ出來ナイ。

九

整頓ヲ點檢スルニ往々中隊長等ノ如キ老練ナ人デモ間違ツタ事ヲ言ハレルカラ青年將校ヤ下士ノ如キハ無理ハナイ話シダガ後列兵ノ整頓ハ全然前列兵ト同ジ形デナクテハナラナイ筈デア

ル、又同ジ形ニ整頓ガ出來タ場合後列兵トシテハ最モ良好デアルト言ハザルヲ得ナイニモ拘ハラズ、前列兵ノ整頓ハ不可、然シ後列兵ハ一直線ニナツテ立派ナ整頓デアルト賞賛ノ辭ヲ與ヘル事ヲ往々耳ニスルガ抑モ其ンナ間違ツタ事ハ無イ筈デアル。

(イ) 今前後列兵共ニ距離間隔ヲ保持サレテ一直線上ニアレバ之レ最モ良好ナル整頓デア



中隊縱隊ノ整頓

(ロ) 前列兵ハ弧形狀ニ凹(凸)シテ居ルニ拘ハラズ、後列兵ガ一線ナル場合ハ前後列共ニ整頓ハ不可デアル。(四)

圖

(ハ) 併シ前項ノ様ナ場合ニ後列兵ガ前列兵ト同様ニ凹(凸)シテ居ルナラバ前列兵ハ整頓不可ナルモ後列兵トシテハ立派ナ整頓ガ出來タト賞賛ノ辭ヲ與ヘテモ決シテ不當デナイト思フ、否ナ寧ロ當然ノ賛辭デアルト考ヘル。

一〇 小隊長ノ動作。

(イ) 小隊長ハ動令ト共ニ後向ヲナシ、整頓ノ不充分ナルモノ或ハ姿勢ノ不可ナルモノ其他間隔ノ廣狹、及重疊等苟クモ視線ニ觸レシモノニシテ矯正ヲ要スベキモノヲ修正シ整頓ヲ完全ナラシムルノデアアルガ整頓ノ修正ハ餘程熟練シナイト其位置カラ實施スルコトハ甚タ困難デアアル。

(ロ) 小隊長ガ中央伍ニ重疊スルノハ甚ダ容易デナイ、之ガタメ往々小隊長ノ重疊ニ關シテ講評ガアル次第デアアル故ニ後方小隊長ハ前方ノ小隊長ニ注意ヲ與ヘル様ニスル必要ガアル。

勿論正シク伍ニ重疊シテ正確ナル後向ケヲナセバ其重疊ハ當然デアアルガ、餘程注意ヲシナイト正シク重ツテ居ナイ事ガ多イ。

(ハ) 小隊長ガ往々中央前ニ在ツテ眼ヲ兵卒ノ胸ノ附近ニ持ツテ來テ整頓ノ可否ヲ視ル者ガア

ルガ此ノ如キハ兵卒ノ整頓動作ヲ妨害スルコトニ注意シナケレバナラナイ。

一 整頓ヲ分類スルト次ノ様ナ種類ガアル、今之ヲ良好ナルモノカラ述べタナラバ次ノ様ナ順序ダロウ。

(イ) 整頓ノ尤モ良好ナルモノハ一直線ナルモノデアアル。

(ロ) 整頓線ヲ踏ミ越エザル整頓。

是レ整頓ヲ修正スルニ極メテ容易デアアルカラデアアル。

(ハ) 鋸齒狀ヲナセルモノ。

是レ大體ニ於テ一線ヲナセルモノダカラデアアル。

(ニ) 整頓線ヲ踏ミ越エタル凸狀形ノ整頓。

之レヲ修正センガ爲メニハ先ヅ新線ヨリモ後退セシメ更ニ整頓線上ニ位置セシメザル可ラザルヲ以テ最モ多大ノ時間ト勞力ヲ費スニ非ザレバ整頓ヲ完全ナラシムルコトガ出來ナイカラ不充分ナル整頓ニ於ケル諸種ノ隊形中最劣等ニ位スルモノト認メラレル次第デアアル。

乙、一二、其位置ニ於テ整頓セシムル爲ニハ單ニ「右(左)へ準へ」直レ」ノ號令ヲ下ス。

一三 中隊教練ニ於テ右翼半大隊ハ殊ニ左翼整頓ニ習熟シナケレバナラナイ、大隊教練ヲ開始サレ

中隊隊ノ整頓

ル様ニナルト左整頓ノ切要ナルコトヲ感スルカラデアアル。

一〇 擔銃及立銃

一 擔銃ノ要領ハ各個教練ニ準ス、然シテ部隊ニ於テ實施スル場合ハ指揮官ノ一號令ノ下ニ整々トシテ齊一ニ行ヘレバ宜シイノデアアル。

(イ) 所ガ各個教練ニ於テ部隊の感念ナク教育セラレタルモノハ決シテ齊一ニ出來ル筈ガナイ。齊一ヲ希望スル唯一ノ根底ハ各個教育ニ於ル速度ノ規則デアアル尤モ速度ハ速歩ニ準スルトアルガ、其速歩ノ速度ガ極メテ怪シイモノデアアル、要スルニ此點ニ意ヲ用ヒナケレバ決シテ齊一ヲ期待スルコトハ不可能デアアル。

(ロ) 兵卒中ニハ往々號令ヲ間違ヘタリ、或ハ操作ヲ誤マルモノ等ガアルガ斯カル場合ニ兵卒ヲシテ誤魔化シテ動作ヲサセタリ、又兵卒自身モ指揮官ノ目ヲ眩マサントスル様ナ動作ヲシテハナラナイ。

誰デモ、間違ヒハアルモノデアアルカラ、コンナ場合ニハ立銃ヲサセテ然ル後整々堂々ト立派ニ動作ヲスル様ニサセナケレバナラナイ。

(ハ) 第四動ノ手ノ取り方ガ緩慢ダト銃ノ操作ハ一見活氣ヲ失フモノデアアル。

(ニ) 各伍ノ重疊及列ノ整頓ガ正シクナイトキハ正面或ハ側面カラ觀タ場合ニ其外觀美ヲ沒却スルコトニ注意シナケレバナラナイ。

(ホ) 右前臂、床尾飯及銃口ノ位置等ヲ齊一ナラシメル様ニ注意ヲ拂フコト。

(ヘ) 其他ノ注意ハ予ノ著「各個教練修正ト着眼」ヲ参照サレタイ。

一一 捧銃及立銃

一 捧銃ニ關スル諸注意事項ハ前項ニ準ス。

殊ニ此ノ動作ハ敬禮ニ屬スルヲ以テ其齊一ト森嚴トハ擔銃ト同一視シテハナラナイ。

(イ) 左手ノ位置齊一ヲ欠クトキハ頗ル外觀ノ美ヲ損ス。

(ロ) 銃把ヲ握ル左手首ノ屈伸モ亦然リ。

(ハ) 銃口及床尾飯ノ位置ニモ注意シナケレバナラナイ。

(ニ) 捧銃ノ姿勢デ暫ク佇立サセテ置クト下腹部ヲ突き出スモノガ澤山アル。

一二 閱兵ノ動作ニ就テ

一 此ノ項目ハ捧銃ト密接ノ關係ヲ有シ殊ニ第二期ニ於テ檢閲等ヲ受クル場合ガアルカラ、殊更此處ニ摘記スル次第デアル。

二 捧銃ノ要領ニ準シテ尙ホ頭ヲ右(左)ニ廻シ目迎、目送ヲスルノデアル。

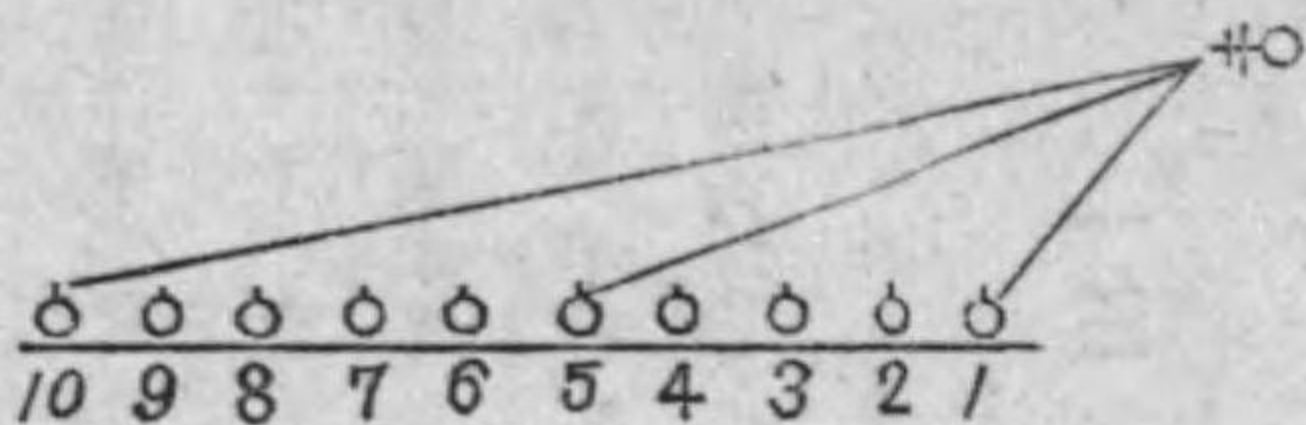
(イ) 頭ヲ右(左)スルトキ節度ノ調ハザルモノガ多イ、之ガタメ整一ヲ害スルコトニナル、即チ第二動ト同時ニ頭ヲ廻スモノガアルガ第三動ニ於テ頭ヲ右(左)ニスル様ニシナケレバナナイ、禮式ニ操法終リタル後、頭ヲ右(左)ニ向ケ受禮者ニ注目スルモノタルコトヲ明示シテアル。

(ロ) 頭ノ廻シ方不充分ナル爲ニ或ハ過度ノ要求ノ爲ニ眼球ト頭ト一致シナイモノガアル。兵卒ノ動作ニ欠點ノアルコトモアルガ、又教育者其者ノ不注意カラ起ル場合モアル。

即チ吾人ノ頭ハ四十五乃至五十五度位迄ハ廻スコトガ出來ルガ然シ是レ以上ニハ普通ノ者ニハ不可能デアル。

然ルニ往々中隊長ナドガ刀ヲ舉ゲテ部隊全般ニ注目サセテ最左翼ニアルモノマデニ注目ヲ促

第五圖



シ其横目ヲ叱シ頭ノ廻シ方不充分ナルヲ責ムルモノガアルコトヲ見ルガ夫レハ却ツテ教育ヲ破壊スルモノト言ハナケレバナラナイ、今之ヲ圖示シタナラバ次ノ如クデアル。

右翼若干伍ノ部分ハ受禮者ニ注目スルコトガ出來ルダロウガ、最左翼附近ノモノ、角度ヲ檢シタナラバ到底吾人ハ之ヲ責ムルコトハ出來ナイコトガ明瞭デアル、若シ強イテ注目ヲ要求スルナラバ横目ニナラザラントシテモ免レナイ現象デアル、故ニ之ヲ責ムルハ教育者ノ罪デアツテ決シテ兵卒ノ過失デモ故意デモナイコトガ分明デナケレバナラナイ。

又軍隊ハ形式ト齊一ヲ尙ブガ故ニ頭ノ廻シ方等モ其角度畧ボ一定サセル必要ガアル之ガ爲メニハ多クノ兵卒中頭ヲ轉シ得ル平均角度ヲ基準トシテ教育シナケレバナラナイ、其平均角度ナルモノハ即チ約四十五度デアル、故ニ此ノ角度以外ニ受禮者ヲ認メ得ル様ニナラナケレバ決

シテ教育者ガ要求シ得ル如クニ注目スルコトハ不可能ノ事デアル。

目送スルニ際シテモ、此ノ基準角度ヲ超過シタナラバ既ニ正式ノ目送ハ到底出來ナイ。

閱兵ノ動作ニ就テ

故ニ若シ此ノ如クニシテ尙ホ目迎、目送不充分ナリトノ妄言ヲ彼等列兵ノ頭上ニ加フルハ頭ト眼球ノ一致ヲ破壊シ部隊ノ齊一ヲ害スルト謂ツテモ過言デハアルマイ、教育者ハ之等ノ點ニ充分ニ顧慮シナケレバナラナイ。

(ハ) 頭ヲ右(左)ニシタ時ニ頸或ハ頭ヲ前方ニ突き出スモノガ多イ。

(ニ) 頭ヲ右(左)ニ轉シタ時左(右)肩ガ前方ニ出易イカラ注意ヲシナケレバナラナイ、尙ホ注目ニ過度ノ要求ヲスルト自然肩ヲ突き出ス様ニナル。

(ホ) 目迎、目送ノ際、頭ト眼球ト一致シナイモノガアル。

(ヘ) 目迎、目送ヲ爲ス際ニ銃口ノ位置ガ甚シク錯亂スルカラ此點ニ注意シナケレバナラナイ。

(ト) 立銃ニ際シテ頭ヲ正面スルノト銃ノ操作ノ第一動トヲ同時ニ行フモノガアル。

一三 着 脱 劍 (停止、行進間)

一 着脱劍ノ動作ハ各自ニ行フモノトス。

(一) 着 劍

(イ) 要スルニ齊一ヲ望ムニ非ラズシテ迅速ニ且ツ確實ニ箴着スルコトガ出來レバヨイノデア

ル。

(ロ) 途歩ニ非ザル限りハ第三動迄ハ必ズ齊一ニ出來ナケレバナラナイ理窟デアアルガ此ノ動作迄整々ヲ缺ク場合ガ多イ。

(ハ) 銃劍ノ箴着不確實ナ爲メニ往々劍ヲ失墜シ隣兵若クハ後方ノ部隊ニ迷惑ヲ及ホスコトガアル。

(ニ) 箴着スルトキニ歩ヲ縮メテ後方ノ兵卒ニ迷惑ヲ及ボシ部隊ノ整頓ヲ紊スモノガアルカラ決シテ歩幅ヲ縮メナイ様ニシナケレバナラナイ。

(ホ) 擔ヘ銃ノ動作ハ實ニ不確實ナモノガ多イ。

(ヘ) 着劍後歩調ガ暫ク調ハナイ。

(二) 脱 劍

(イ) 前項(イ)ニ準シ要ハ速ニ劍ヲ脱スルニアル。

(ロ) 是亦速歩行進ニ於テハ第三動迄ハ齊一ナル動作ヲ爲シ得ルニ拘ハラズ動作ハ紊亂ヲナナスコトガ多イ。

(ハ) 劍ヲ脱シテ速ニ劍柄ヲ握ル時ノ動作極メテ粗漏ナルモノガ多イ。

着脱劍

(二) 劍鞘ニ挿入スル時、上體ヲ甚シク屈スル爲メニ隣兵ニ接着シ歩度ヲ遲緩スル爲メニ他兵ト撞着シ或ハ直行進ヲナシ能ハザル爲メニ隊伍ノ混亂ヲ來スコト甚シキ場合ガアル。

一四 裝填及抽彈

一 裝填スルニハ後列兵ハ約一步右前ニ閉テ動作終レバ舊位ニ復ス。部隊ノ大小ヲ論セバ横隊隊形ニ於テハ其要領皆同シデアル。

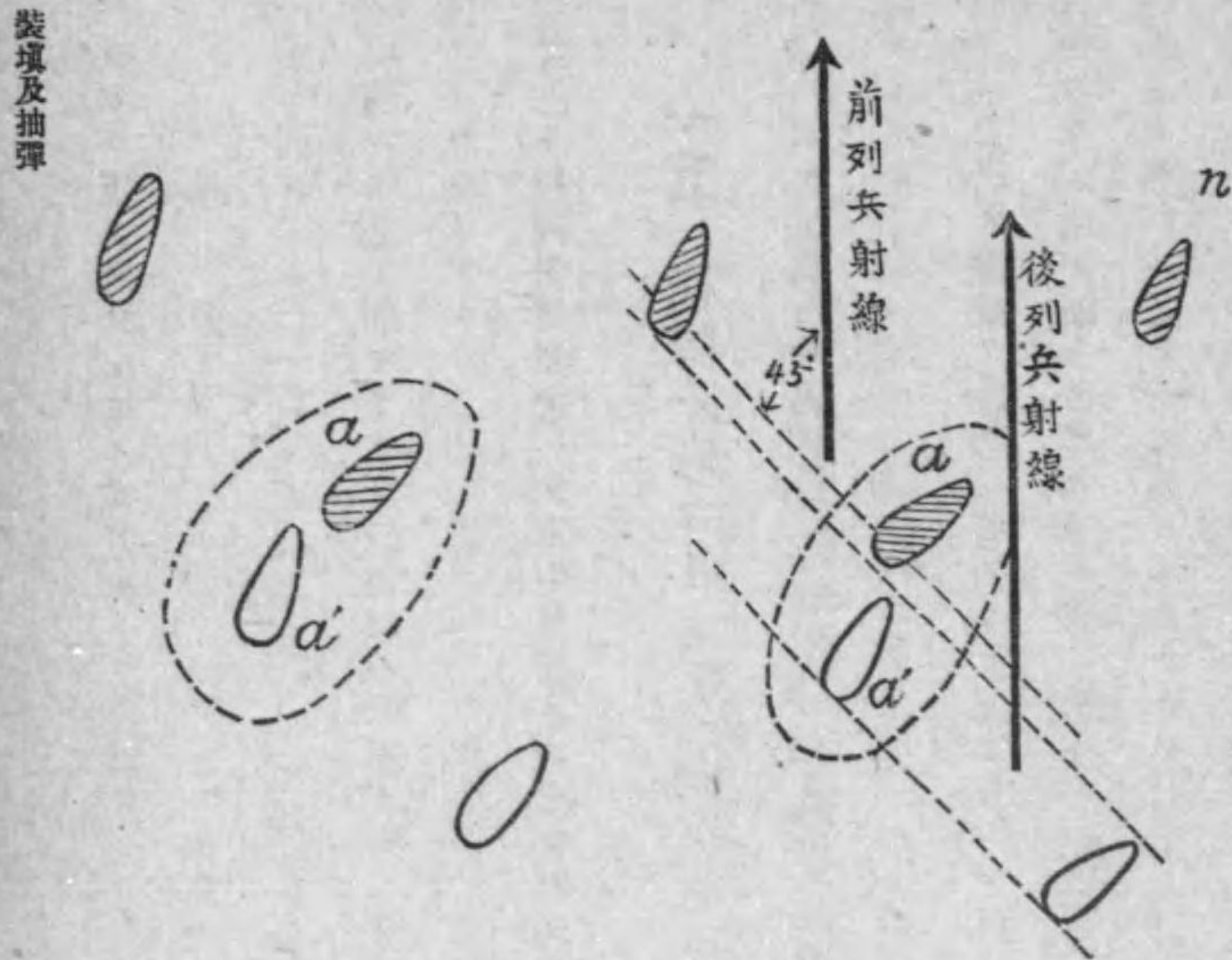
(イ) 右前ニ閉テキ兵卒中ニハ往々地面ヲ見ルモノガアル。

(ロ) 前列兵ノ右足ト後列兵ノ左足トノ關係ハ各兵ノ體格等ニヨツテ一定スルコトハ出來ナイガ第六圖ノ如キ關係位置ガ良好デアル様ニ思ハレル。

今後列兵ガ右前ニ閉テ過ギレバ前列兵ガ右足ヲ踏ミ開イタトキニ其動作ノ妨害ヲナシ且ツ左足ヲ踏ミ付ケラレルコトガ多イ。

故ニ後列兵ノ右前ニ閉テル程度ノ基準ハ前列兵ノ兩踵ヲ連結シタ線上ニ後列兵ノ左足尖ガ觸レル程度デ其對角線ノ附近ヲ遠ザカラナイ點ニ位置スル様ニ閉テルノガ最大限デアル様ニ思ハレル之ガタメニハ第六圖ニ示シタ様ナ關係位置ニナル場合ガ多イ。

第六圖



夫レデ約一步右前ニ閉ツルト前列兵ノ動作ノ妨害ヲスルノミナラズ右前列兵ノ背囊ノ爲メニ銃ノ操作ヲ妨ケラレ且ツ正面ニ正シク銃口ヲ指向スルコトハ出來ナイ。

(ハ) 後列兵ハ前列兵ヨリモ一舉動後レル筈デアアルニ拘ハラズ、同シ速度ニ實施セントスル傾向ヲ有スル場合ガアル、斯ノ如キ場合ニハ列兵ノ動作及銃ノ操作ハ自然省畧セザルヲ得ナクナルシ又舉動ニ於テモ勿論、不確實タルヲ免レナイ、故ニ一步右前

裝填及抽彈

ニ閉チナガラ銃ヲ構フルモノガアル。

抽 彈

- 一 要領ハ前ニ同ジ。
- 二 抽彈ノ場合ニ彈藥ヲ抽キ了ツタ後立銃ノ際極メテ不確實ナルモノガ多イ、即チ銃ヲ立テナガラ舊位ニ復スルコトデアル。
- 三 「打方止メ」ト抽彈トヲ間違ヘテ安全装置ニスルモノガ往々アル。

一五 横隊々形ヨリ右(左)向ケ

- 一 中隊右(左)向ケヲ爲セバ偶數兵(奇數兵)ハ奇數兵(偶數兵)ノ右(左)ニ出デ伍ヲ組ミ四人相併ヒ側面向キトナル。
- (イ) 兵卒ハ自己ノ番號ヲ失念シ爲メニ重複ヲ忘却シ整々ヲ欠クモノガ多イ。後列兵ニハ殊ニ此ノ如キ兵卒カ多イ様ニ思ハレル、要スルニ前後列ノ關係ガ如何ニ重要デアルカヲ充分ニ了得シテ居ナイ結果ニ外ナラナイ、即チ前列兵ガ番號ヲ附シテ居ル時ニ唯ダ呆然トシテ佇立シテ居ル爲メニ此始末デアル。

(ロ) 右(左)ヲ向クトキ一般ニ其動作カ不確實デアリ且ツ概シテ胴ヲ屈ケルモノガ多イ其他左足尖テ旋廻スルモノガアル。

(ハ) 伍ヲ組ム際ノ出方ハ活潑デ且ツ伍ヲ組ムダ後ニハ畧ホ四人ガ併立シテ整頓ガ出來テ居ル様デナクテハナラナイ。

(ニ) 伍ヲ組ム時往々兵卒中ニ其出ル方向ヲ誤ルモノガ多イ、必ズ部隊ノ面シテ居ル方向ニハ出ルモノデナイコトヲ充分ニ注意シタラバ此ノ如キ誤リハ犯サナイ事ニナルダロウ、換言スレバ横隊ヨリ右(左)向ケノ動作ハ其動令ト同ジ方向ニ伍ヲ組ム様ニ心懸ケサセレバヨイノデア

(ホ) 迅速ナル動作ヲ要求スル爲メニ兵卒中ニハ往々右(左)ヲ向クカ向カナイ内ニ或ハ向キナガラ伍ヲ重複スルモノガアルガ恰モ舉動ノアル様ニ節度ヲ設ケナケレバナラナイ。

(ヘ) 伍ヲ組ンダ際各列ニ於ケル各兵ノ間隔ハ少ナクモ臂々相摩シテ居ナクテハナラナイ。

(ト) 小隊長ハ正シク右(左)向キヲシテ駆歩ニテ先頭分隊長ノ側方ニ位置スルノデア

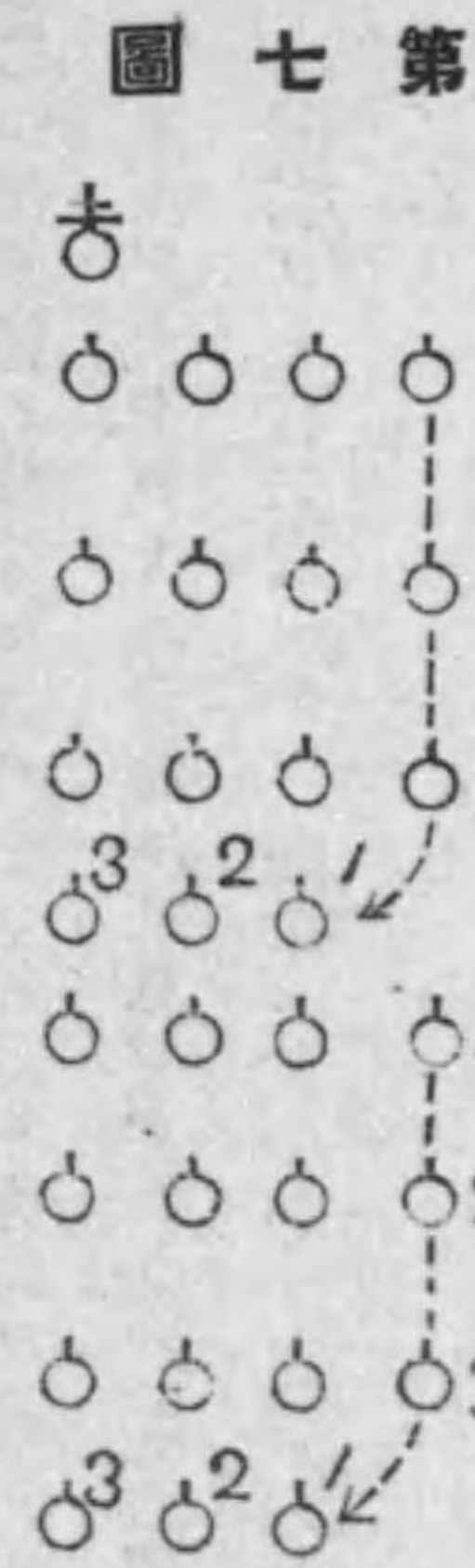
一六 四列側面縱隊ヨリ三列二三列ヨリ四列ニ爲ス動作

横隊々形ヨリ右(左)向ケ 四列側面縱隊ヨリ三列二三列ヨリ四列ニ爲ス動作

一 道路ノ景況及路幅、其他炎熱等ノ爲ニ四列側面縱隊ヨリ三列ヲ構成スルコトガアル此際ニハ、

「三列作レ」ナル號令ヲ下ス

然ルトキハ四人相併列セル其外翼兵三名宛ニテ一列ヲ作ラシメテ第三列目毎ニ之ヲ配置スル様ニ爲セハヨイ此時押伍ニ位置セシ下士ハ此ノ動作ヲ迅速ニ實施セシムル目的ヲ以テ補助シナケレバナラナイ、今之ヲ圖示シタナラバ次ノ如クデアアル。



今三列ニ編成シタ時ニ横隊ニスル爲メニハ成シ得レバ先ヅ四列トシテ舊隊形ニシ然ル後號令ヲ下セバ隊伍ハ整正タルコトヲ得ルモ此ノ儘デ横隊ニサセルト兎角混亂シ易イ、夫レデ四列ニサセル爲メニハ

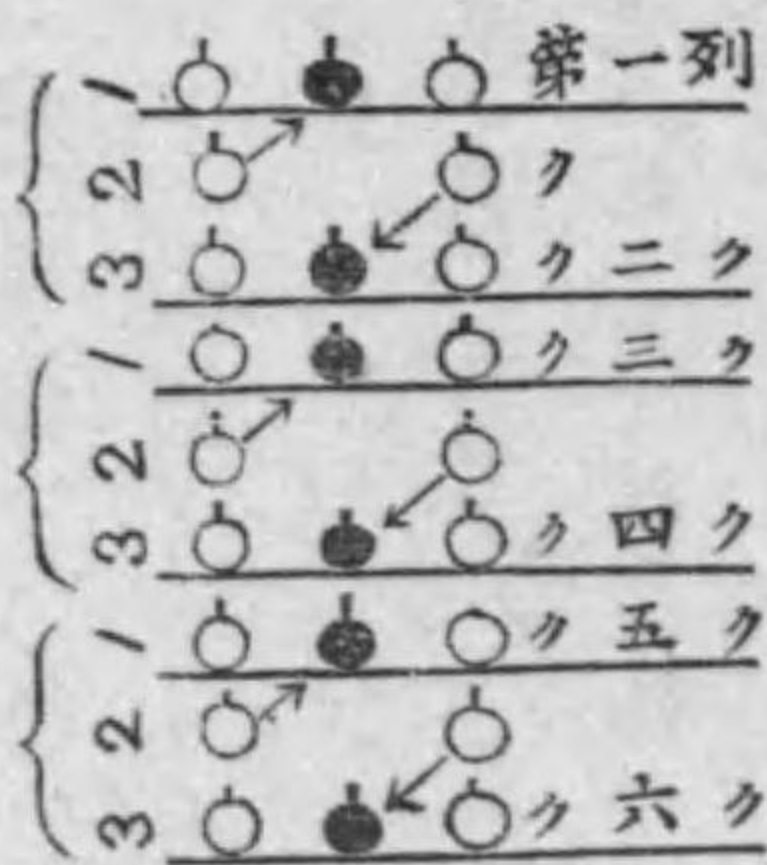
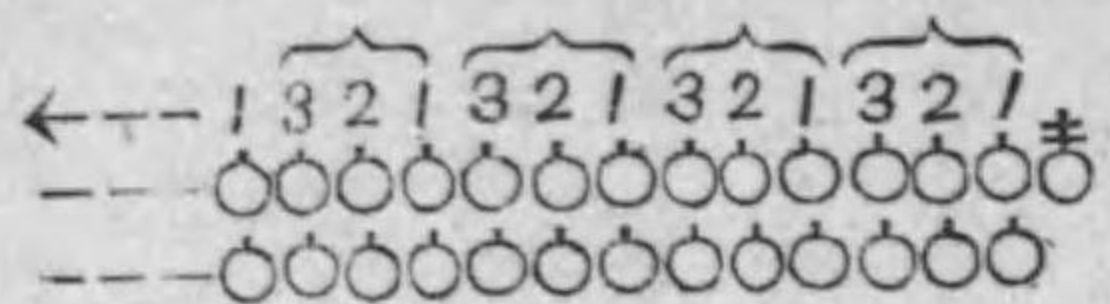
「四列作レ」ノ號令ヲ下ス

其時三名ニテ一列ヲ形成シタ兵卒ハ駈歩ヲ以テ舊位ニ復歸スレバヨイノデアアル。

二 終迄三列行進ヲ要求セラルルカ若クハ路幅及道路ノ景況四列行進ヲ許サナイ場合ハ最初ヨリ三列ヲ形成スルガヨイ、其場合ニハ先ヅ三列番號ヲ附ス、即チ一ヨリ三ニ至ル數ヲ逐次ニ反覆ス

ル番號ヲ附スルノデアアル。

第八圖



然ル後、「三列右(左)向ケ右(左)」ナル號令ヲ下セバ偶數兵ノ前列ハ前方奇數伍ニ、同後列兵ハ後方奇數伍ノ中間ニ位置スル様ニスレバ三列ヲ編成スルコトガ出來ル、此ノ方法ニ依ツテ編成シタ三列ハ横隊々形トナル場合ニ極メテ容易デアアル、今之ヲ圖示スルト上圖ノ如クデアアル。

二 翼分隊長及押伍列ニアルモノハ各其位置ニ在リテ右(左)向ケヲ爲ス。

一七 側面隊形ヨリ横隊々隊ニナリシ際ノ動作

側面隊形ニアリテ左(右)向ヲ爲セバ伍ヲ解キ正面向キトナリ兵卒各自ニ右(左)ノ方ニ整頓ス。

(イ) 兵卒中ニハ整頓スルノヲ失念シテ注意ヲ促サレテ初メテ整頓ヲ正スモノガアル。

側面隊形ヨリ横隊々隊ニナリシ際ノ動作

(ロ) 側面隊形ノ先頭デアツタ方ガ常ニ整頓翼デアルコトヲ兵卒ニ教示シテ置ク必要ガアル。

(ハ) 此ノ如キ場合ノ整頓ハ各自ニ整頓シ了ツタナラバ頭ヲ正面ニ復ス可キ筈デアルガ此處ニ注意ス可キハ自己ヨリモ整頓翼ニアル兵卒ガ未ダ頭ヲ右(左)ニ轉ジテ居ル間ハ假令整頓ガ完全デアルト思ツテモ頭ヲ正面シテハナラナイ、必ズ整頓翼ノ列兵ガ頭ヲ正面ニ復シテ後ニ其隣兵ガ頭ヲ正面スル様ニ心懸ケナケレバナラナイ畢竟將棋倒シノ様ニ順々ニ即チ整頓翼ヨリ逐次ニ頭ヲ正面スル様ニスルノデアアル。

如何トナレバ自己ヨリモ整頓翼ノ列兵ガ若シ整頓不充分ト考ヘテ前後シタ場合ニ其隣兵ガ既ニ頭ヲ正面シテ在ツタナラバ之ヲ知ルコトガ出來ナイカラ自然其點カラ整頓ガ破壊サレルコトニナルカラデアアル。

又整頓翼ニ位置スル兵卒ガ頭ヲ正面スルコトヲ忘却スルト之ガ爲メ左(右)隣兵ニ迷惑ヲ及ボスカラ各自此ノ點ニ注意ヲ忘レナイ様ニサセルコトガ必要デアアル。

押伍列ニ位置スルモノハ前方ニ重疊シ尙ホ右(左)ニ整頓ヲスル。

(ニ) 小隊長ハ此際正シク右(左)向ヲシテ駈歩ニテ中央前二歩ノ所ニ位置シ列兵ヲ監視シテ然ル後正面ス。

一八 後 向 (停止間)

一 中隊ノ後向ハ各個教練ニ準ス。

(イ) 部隊ニテ施行スル際ハ兎角動作ノ確實ヲ缺クモノガ多イ。

(ロ) 茫然シタ兵ハ往々「回レ左」ヲ實施スルコトガアル。

二 翼分隊長及缺伍ハ前列ニ移ル。

一九 後 向 (行進間)

一 各隊形共ニ其儘後向ケヲナシ續イテ行進スレバ可ナリ。

但シ兩翼分隊長及缺伍ハ前列ニ移ル。

(イ) 横隊々形ニ於テハ各自ノ間隔狭小ニ過グルトキハ其動作ヲ妨害シテ齊整ヲ害シ或ハ銃器ノ衝撃ヲ來スコトガアル。

(ロ) 服装検査ノ際背囊ノ美錠ヲ内側ニ押シ込ンデ置カナイト往々手指ニ怪我ヲスルコトガアル、大ニ注意シナケレバナラナイ。

後向(停止間) 後向(行進間)

(ハ) 側面隊形ニ於テ往々行進間ノ後向ケテ實施スル指揮官ヲ見受ケルガ此ノ如キ無理ナ動作ハ成ル可ク實施シナイ様ニスルガ宜シト思フ、如何トナレバ側面隊形ニ於テ併列セル各兵卒ハ相互ニ間隔ナク臂々相摩シテ居ル筈デアル、故ニ列兵トシテ此ノ如キ動作ヲ要求セラル、コトハ動作ノ整齊ヲ缺キ且ツ同時ニ苦痛ナノデアアル。
 整齊ヲ希望シ苦痛ヲ免レンガ爲ニハ遂ニ其間隔ヲ擴大シテ動作ノ自由ヲ得以テ指揮官ニ満足ヲ與ヘントスル様ニナル、指揮官タルモノハ大ニ注意スベキコトト思フ。

二〇 直行進

- 一 直行進ハ常ニ右方ニ嚮導ヲ取ル、若シ左方ニ取ルトキハ特ニ之ヲ示ス可シ。
- (イ) 直行進ト言ヘバ通常横隊行進ヲ意味ス。
 - (ロ) 横隊行進ハ行進ト整頓トヲ連結シタモノデアアル。
 - (ハ) 直行進ニアリテハ嚮導ヲ常ニ右方ニ取ルモノト規定セルハ行進ノ度毎ニ嚮導ヲ規定スル面倒臭サヲ省略スル爲デアアル。
 - (ニ) 嚮導ヲ規定スルノ必要ハ行進間整頓ノ基準ヲ示ス爲デアアルガ若シ之ヲ定メナカツタナラ

バ列兵ハ何レノ方ニ整頓シ何レノ方ニ準備シテ行進スレバヨイカラ知ルコトガ出來ナイ、此ノ結果ハ隊伍動搖シ支離滅裂、部隊ノ掌握ナドハ思ヒモ寄ラヌ事ニナルカラデアアル。

二 中隊長ハ號令ヲ下スニ先ダチ通常行進目標ヲ先頭小隊ノ右(左)翼分隊長ニ示スモノトス。

(イ) 先ヅ前進セシメテ然後ニ目標ヲ示ス指揮官ガアルガ勿論急ヲ要スル場合ハ別問題トシテ餘裕ノアル場合ニハ當然最初ニ示サレナケレバナラナイ、併シ此ノ事ハ失念シ易ク又順序ヲ誤リ易イカラ注意シナケレバナラナイ。

(ロ) 行進目標ハ部隊ノ正面ト直角ニ選定スルノガ普通デアアルガ必シモ部隊ト直角デナクテモ差シ支ヘハナイ、併シ部隊ガ整々堂々ト行進シ得ルノハ直角ノ場合デアツテ正面ト直角ナラサル場合ハ隊列ノ行進状態極メテ混亂シ或ハ隊伍分離スル様ナコトモアル。

目標ヲ示サル理窟上カラ論スレバ如何ナル目標ヲ與ヘラレテモ整正ニ運動ガ出來ル筈デア
 ルガ其處ガ所謂平凡ナ頭腦ヲ有スル兵卒ノ悲シサデアアルカラ努メテ目標ノ撰擇ヲ直角ニスル
 ガ宜シイ。

(ハ) 目標ヲ示スニハ次ノ様ナ方法ガアル。

(一) 指揮官ガ其場ニ於テ目算ヲ以テ概畧ノ目標ヲ決定シテ與フル場合。

直行進

此場合ニ於テハ目標ト部隊ノ爲ス角度ハ概算デアルカラ直角デナイ場合ガ多イ、併シ熟練シテ來ルト大概ハ正面ト直角ニ近イ目標ヲ示スコトガ出來ル様ニナルガ初歩ノモノニハ此ノ方法ハ甚ダ無理デアル。

(二) 分隊長ノ正面ニ位置シテ後向ヲ爲シ目標ヲ與フル場合。

分隊長ニ正シク正面セズ加之後向ノ動作不完全ナル際ハ其示ス目標ノ誤差ハ前項ノ場合ヨリモ尙甚シイガ是亦訓練ニ熟達セルモノニハ大ナル間違ハナイ、要スルニ第一、第二ノ場合ハ老練ナル指揮官ノ採用スル方法デアツテ決シテ未熟ナモノノ學ブ可キ所置デナイ。

(三) 分隊長ノ後方ニ位置シテ分隊長ヲ通ズル線ニヨリ目標ヲ與フル場合。

此ノ方法ハ稍々確實デアルガ、重疊スル際ニ分隊長ノ肩ノ線ヲ一應検査シナイト大ナル誤リヲ生ズルコトガアル。

(四) 第一伍ノ前後列ノ後方ニ位置シ三點ヲ通スル線内ニ目標ヲ定メテ與フル場合。

一線ヲ決定スルニハ少クモ三點以上ヲ連結スルノガ正確デアル故ニ此ノ方法ハ最モ正確ナル目標ノ決定ヲ與フル爲ニ適當ナル方法デアル。

併シ此處ニ注意ス可キ點ハ伍ノ重疊デアアル、若シ此點ニ留意シナケレバ折角最良ノ方法モ何

ノ効果ナク却ツテ間違ノ根本トナル事ガアル。

斯クシテ決定シタ目標ガ遠ケレバ其儘デヨイガ若シ近イ場合ニハ更ニ之ヲ斟酌シテ目標ヲ與ヘレバヨイノデアアル併シ其間隔ナルモノモ極メテ些少デアルカラ論ス可キ限リデナイガ理窟上ヨリ述ブレバ右ノ様ニナルノガ至當デアアル。

(五) 指揮官ノ希望スル地點ニ目標ヲ與フル場合。

希望ノ目標ガ直角デアアルガ若シ直角デ無イ場合ニハ目標ニ對シテ横隊面ヲ直角ニ爲ス様ニ隊列ヲ規定シテ然ル後運動ヲ開始スル様ニスルガ宜シイ。

(二) 目標ヲ示スコトハ指揮官ガ部隊ヲ企圖スル方向ニ基準翼タル下士ヲシテ誘導セシメ列兵ヲシテ之ニ依ツテ各自ノ目標ヲ取り以テ整頓及行進ヲ容易ナラシムル目的デアアル。

所ガ指揮官中ニハ往々此ノ如キ重要ナル目的ヲ有スル目標ヲ示スニハ小聲ニテ單ニ嚮導翼ノ分隊長ニノミ囁キ部下全般ニ徹底スルガ如キ活音ヲ以テ與ヘナイモノガアル、此ノ如キ場合ニ於ケル行進ハ決シテ整々ニ實施サレル理由ガナイ、即チ列兵ハ前進スルニ目標ナク所謂嚮導ノ腰巾着然トシテ無我夢中ニ前進シテ居ルカラデアアル。

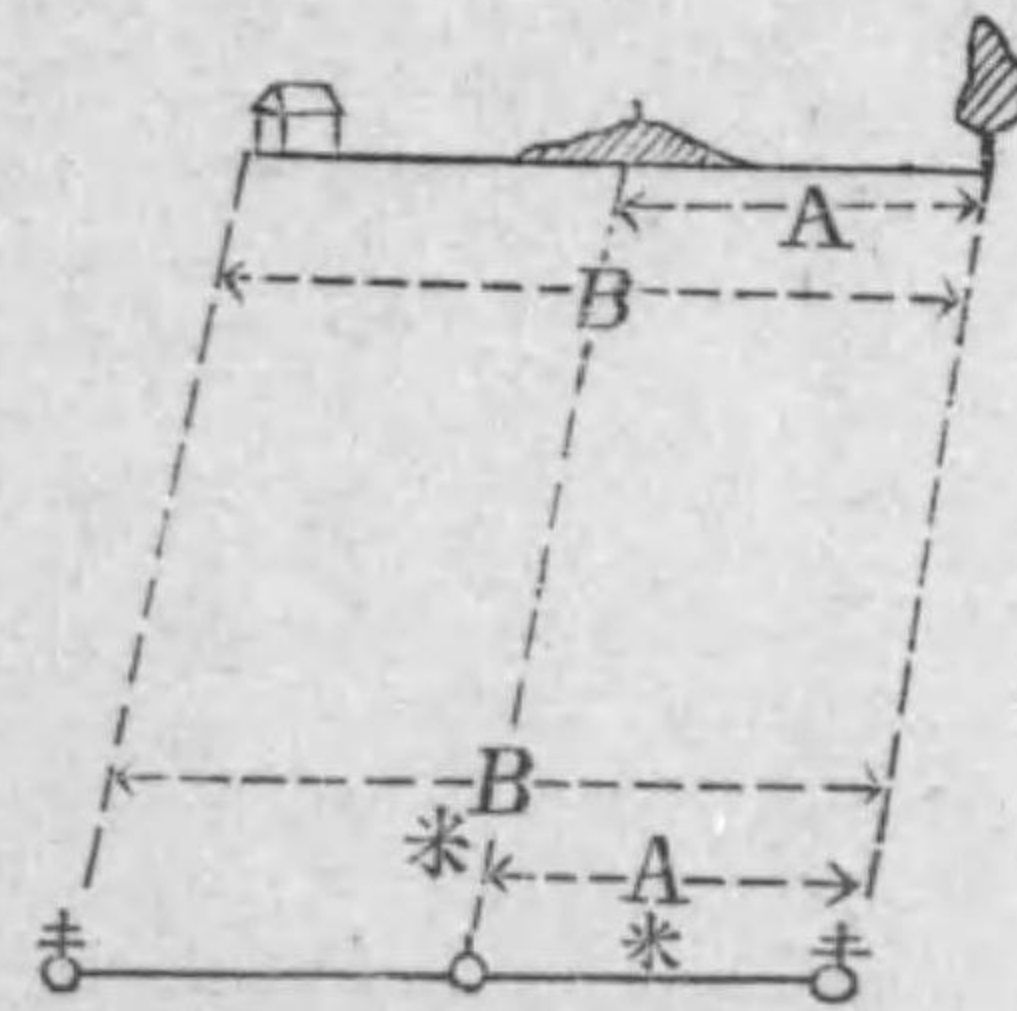
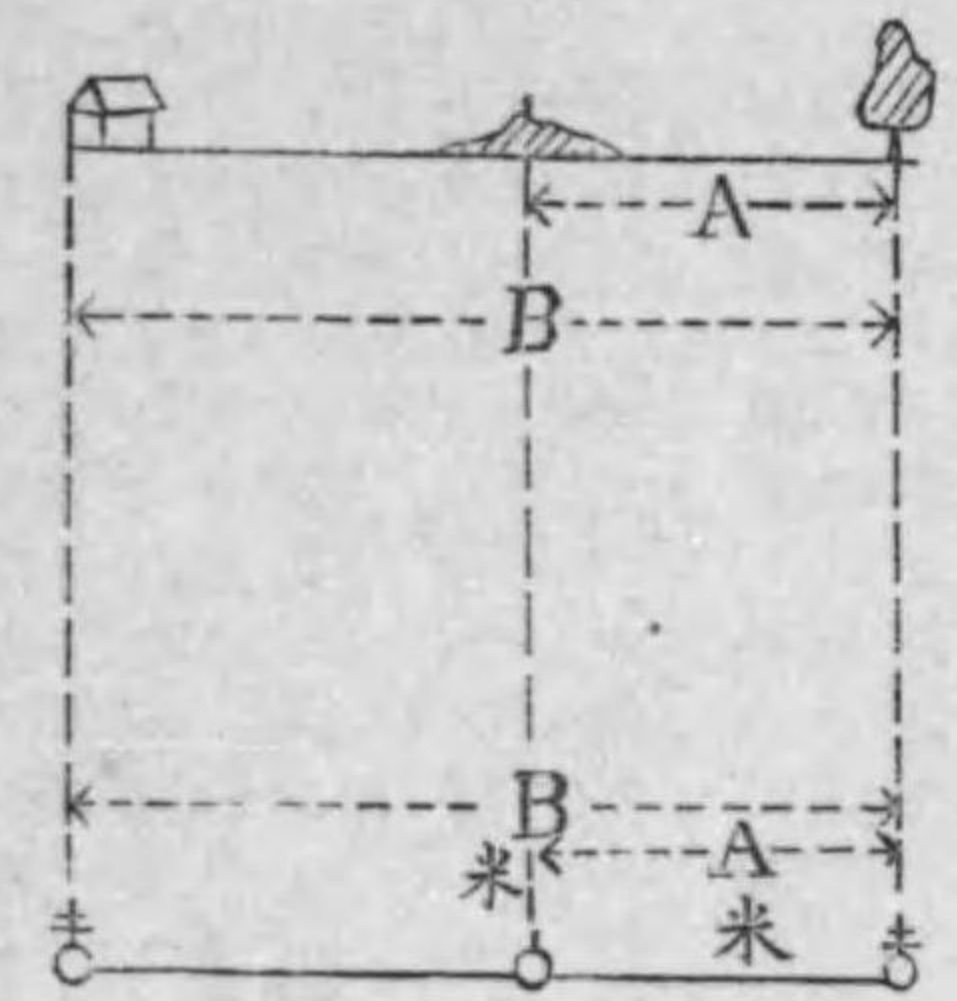
(ホ) 列兵ハ目標ヲ與ヘラレタナラバ聞キ落サナイ様ニ且ツ示サレタ目標ヲ必ズ見テ自己ノ行

直行進

進目標ヲ定メナケレバナラナイ、處ガ兵卒中ニハ往々何ノ爲ニ目標カ與ヘラレルカヲ知ラナイモノガアル、其證據ニハ目標ヲ示シタ後若干ノ兵卒ニ部隊ノ目標ヲ諮問スレハ單簡ナル目標ノ指示カ答解出來ナイモノガアル、故ニ兵卒ニハ目標ニ對スル感念ヲ充分ニ注入シテ腦裏ニ銘刻サセナケレバ完全ナル直行進ハ出來ナイ、又目標ニ對スル感念ノ薄イ結果ハ戰場裡ニ於ケル射撃目標モ輕々ニ聽キ流ス様ナ事ニナル、指揮官カラ目標ヲ與ヘラレタ際ニ於ケル兵卒ノ感想ハ直チニ自己ノ行進方向ノ撰擇ヲナスコトニ馳セナクテハナラナイ。

今之ヲ圖示シタナラバ次ノ様デアル。

圖九第



即チ兩圖ニ示シタ様ニ目標カ直角ナルト否トニ拘ハラズ嚮導ヨリ自己ノ位置ニ至ル距離假令バA米突アリトシタナラバ與ヘラ

レタル目標ヲ基準トシテ其點ヨリA米突ダケ側方ニ行進目標ヲ定メ之ニ向ツテ直行進スル考ヲ持タナケレバナラナイ、此ノ如ク注意スル様ニナレバ目標ガ例ヘ直角タルト否トヲ論ゼズ整正ナル行進ヲ續行シ得ル様ニナル理窟デアル。

又、外翼分隊長ハ同様ニ目標ヲ示サレタナラバ其部隊ノ正面幅B丈ケヲ目算シテ目標ヲ決定シ之ニ向ツテ前進シ兩翼分隊長ノ間ニ列兵ヲ位置セシメ運動ノ整正ヲ保持スル責任ガアル。

三 前進ノ號令下ルヤ中隊ハ一齊ニ行進ヲ起シ嚮導ニ準ヒテ行進シ嚮導ハ列兵ニ關スルコトナク正規ノ歩長ト速度トヲ保チ與ヘラレタル目標ニ向ヒ若クハ正面ト直角ニ行進ス。

(イ) 若クハ直角ニ行進スルノ條項ハ目標ヲ示サレザル場合ニ嚮導ガ前進スル行進法デアル、夫レデアルカラ至短距離ヲ前進シテ停止スル場合或ハ直ニ方向ヲ變換スル等ノ時ハ特ニ目標ヲ示サナイ事ガアル。

(ロ) 嚮導ノ行進ハ目標ニ向ツテ直行進ヲシナケレバナラナイ然ルニ嚮導タル分隊長ガ巧ニ直行進ヲスルモノハ稀デアル、是レ中間目標ヲ撰定スルノ感念ニ乏シキ爲メ或ハ全然中間目標ヲトラナイニ基因スル。

今第十圖ノ如ク嚮導ニ與ヘラレタル目標ヲ獨立樹トシ(A)ナル發起點ヨリ目標ニ至ル線上

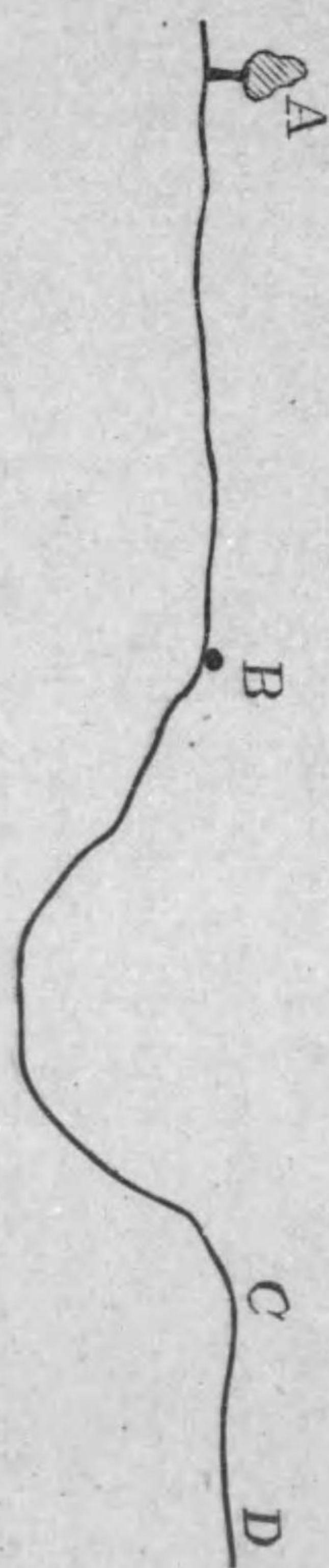
直行進

第十圖



ニ(B)ナル小石(C)ナル草株(D)ナル堆土アリト假定セン。
 目標ヲ與ヘラレルト同時ニ先ツ少クモ中間目標二點(B)(C)ヲ定メテ發進シ先ツ(B)ニ向ツ
 テ前進シ(B)點ニ達シタルトキ(C)ト目標トヲ連結スル線内ニ(D)ヲ設ケテ更ニ(C)ニ前進
 ス此ノ如ク反覆シテ漸次ニ目標ニ對シテ前進スルノデアアル。
 點ガ集合シテ線ヲ形成スルト同ジ理由デ中間目標ヲ成ル可ク多ク設クレバ設ケル程眞直ニ近
 イ行進カ出來ル理窟デアアル。
 即チ(A)點ヨリ點線ノ如キ行進法ヲシテ(B)點ニ達シ又更ニ點線ノ如クニ辿ツテ(C)點ニ達
 シタトシテモ縱令行進法ハ直線式デハナイガ與ヘラレタル目標ニ通スル線上下隔離スル程度
 ハ微少デアアル即チ若干ヲ隔離シテモ亦直ニ舊線上ニ復歸スルカラデアアル、故ニ今尙(A)―(B)
 ―(C)間ニ更ニ中間目標ヲ設ケタ場合ハA・B・C・ナル線ヨリモ尙ホ直線ニ近キ行進ヲ成シ

第十圖



又目標ニ通スル線上ニ益々近接スルコトハ明瞭デアアル。
 次ニ亦不齊地ヲ前進スル場合ニ於テ往々凹地内ニ入りテ目標ヲ失ヒ其行進方向ヲ誤ルモノア
 ルヲ認メルガ是亦目標ニ關スル感念乏シキ結果ニヨルノデアアル即チ其行進方向ヲ誤ラザラシ
 メン爲ニハ次ノ様ニ注意スレバ宜シイ。

即チ右圖ニ於テ目標Aニ向ツテD方向ヨリ前進シタ時C點ニ達シ將ニ凹地ニ入ラントスルニ
 際シテ前方ノ頂界線B附近ニ目標Aニ通スル中間目標ヲ撰定シ之ニ向ツテ行進スルトキハ縱
 令與ヘラレタル目標ハ視界ニナクトモ決シテ其方向ヲ誤ルコトナク又B點ニ達シタルトキハ更
 ニ(A)ニ通スル線内ニ中間目標ヲ撰定スレバヨイノデアアル。
 (ハ) 嚮導ハ列兵ノ歩長ト速度ニ準シテハナラナイ、往々列兵ガ整頓線ヲ踏ミ越エルト速度ヲ伸
 直行進

シ或ハ後退セシ場合ニハ歩度ノ加減ヲシテ整頓ノ維持ニ汲々タルモノガアルガ是レ却ツテ部隊ノ混亂ヲ招ク大原因タルコトニ想到シナケレバナラナイ即チ列兵ハ嚮導ニ準シテ行進スルモノデアアルカラ、歩長ヲ伸縮セバ列兵ハ之ニ準シ速度ヲ加減スレバ列兵亦之ニ從ハザルヲ得ナイ故ニ該部隊ハ不斷兩翼ニ於テ歩長ハ勿論速度モ一致スル時機ガナイ、爲ニ終始整齊ヲ欠キ威容ヲ失ヒ亂雜ナル行進ヲ演ズル様ニナルカラデアアル。

故ニ明文ニアル通り列兵ハ嚮導ニ準スルノデアアルカラ嚮導ハ列兵ニ關セズ正規ノ歩度デ前進シナケレバナラナイ。

(二) 行進ヲ起スト同時ニ最モ吾人ノ視覺ニ映ズルモノハ、

(一) 左手ノ振動ニアル、此事ハ各個教練ニ於テ述ベテ置イタガ其高サヲ規定シナイト各個別々デ其高サガ一定シナイ、爲ニ頗ル外見上整齊ヲ欠ク。

(二) 步調ノ教育ニ於テ整一ヲ欠クトキハ股ノ擧ケ方ニ高低ガアリ又歩ノ運ビ方ニモ遲速ガアル爲ニ步調更ニ不整、頗ル威嚴ヲ損ズルコトニナル。

(三) 擔銃ノ要領ニ準シテ銃ヲ規正シナケレバナラナイ。

四 後方小隊ノ嚮導ハ其前方小隊ノ嚮導ノ足跡ヲ踏ミ常ニ八歩ノ距離ヲ保持ス可シ。

(イ) 「後方小隊ノ嚮導ハ其前方小隊ノ嚮導ノ足跡ヲ踏ミ」トアルハ所謂目標ニ對シテ相重疊シテ前進スルヲ意味スルノデアアル。

然ルニ目標ニ對スル感念ノ乏シキ分隊長ハ與ヘラレタル目標ニ相重疊シテ前進シナイモノガアルノヲ往々認メルコトガアル。

此ノ如キ場合ニハ兩翼分隊長ノ關係ハ錯雜シ列兵ノ整頓ハ困難ニナリ隊伍ハ動搖シ或ハ分離スル様ナ混亂状態ヲ現出スル様ニナル。

故ニ嚮導ハ常ニ指定セラレタル目標ニ相重疊シテ前進シナケレバナラナイ。

(ロ) 後方小隊ノ嚮導ノミデナク外翼分隊長モ前方小隊ヨリ八歩ノ距離ヲ保持ストノ絕對責任ヲ有スルノデアアルカラ之ガ目測ニハ熟達シナケレバナラナイ。

要スルニ此ノ項ヲ遵奉シテ即チ八歩ノ距離ヲ保持シ前方分隊長ニ重疊シテ前進シタナラバ停止ノ際全力ヲ整頓ニ傾注スルコトガ出來ル理窟デアアル。

五 列兵及押伍ノ行進ニ就テ。

(イ) 先頭小隊ノ列兵ノ行進ハ已ニ述ベシ様ニ示サレタル目標ニ基イテ自己ノ行進目標ヲ定メテ前進スルガ尙ホ隣兵トノ間隔ノ保持ニ注意シナケレバナラナイ。

直行進

間隔若シ狭ケレバ列兵ハ動作ノ困難ヲ來シ隊伍ノ動搖ヲ招キ易ク廣キニ失スレバ美觀ヲ害シ
整頓容易ナラズ尙加フルニ是等ノ關係ハ直接ニ後方小隊ニ迄影響ヲ及ボスモノタルコトニ想
到シテ定規ノ間隔ヲ保持スルコトニ努メナケレバナラナイ。

(□) 前後列ノ關係。

後列兵ハ前列兵ノ影法師ト心得テ居レバ間違ヒナイ此感念ヲ失フト直ニ隊伍ノ美觀ヲ損スル
即チ前列兵ノ間隔ニ廣狹アル場合デモ後列兵ハ之ニ準シテ重疊シナケレバナラナイ、其責任問
題ハ前列兵ニアルノデアアルカラ絶對ニ前列兵ニ附隨シテ切テモ切レナイ影法師ノ因縁ヲ實現
スル様ニ心掛ケナクテハナラナイ。

然ルニ往々行進間後列兵ト其行動ヲ共ニシナイデ分離スルモノガアル、又障害物等ニ遭遇セシ
場合、前列兵ハ其右側ヲ通過スルニ拘ハラズ後列兵ハ其左側ニ避クルガ如キ要スルニ前後列ノ
關係ヲ無視シテ居ル、影法師ナルモノハ決シテ其實體ト相離ル可キモノデナイコトヲ銘スル必
要ガアル。

(ハ) 後方小隊列兵ノ行進ニ就テ。

列兵ハ前方小隊ヨリノ距離ヲ測定シテ嚮導ニ準シ前方小隊同番號ノ伍ニ重疊シテ行進スル様

ニ努力シナケレバナラナイ

此ノ心懸ノ不足ガ或ハ皆無ノ爲ニ停止シタ際又更ニ伍ノ重疊ニ就テ少ナカラザル時間ヲ費ス
コトニナル。

(ニ) 押伍列ノ行進ニ就テ。

押伍列モ亦正シク正面ノ伍ニ重疊シテ行進シ後列兵ヨリ二步ノ距離ヲ保持シテ前進シナケレ
バナラナイ。

六 小隊長ノ行進ニ就テ。

(イ) 先頭小隊長ガ隊列ノ中央前二步ニアリテ直行進スルコトハ甚ダ困難ナコトデアアル。

此距離ヲ保持スル爲ニハ小隊長ノ嚮導ノ歩長及速度ガ一致シナケレバナラナイ。
速度ノ一致ハ望ミ得ルモ歩長ノ齊一ハ理論的デアツテ到底期待スルコトハ出來ナイ、故ニ該距
離ノ伸縮ハ自然免レナイ。

免レナイトスレバ伸ビルトモ縮マラナイ様ニ注意シナケレバナラナイ。

前者ハ只單ニ隊列ノ美觀ヲ害スルニ止マルガ後者ハ之ニ加フルニ尙ホ隊伍ノ整頓ヲ破壊スル
ニ至ルカラデアアル即チ距離ガ短縮スルニ從ツテ隊列ノ中央ハ凹字形トナリ極論スレバ隊列ハ

直行進

二分サレル様ナ事ニナル。

又中央前ニアリテ行進スルコトモ甚ダ容易ノコトデナイ小隊長ハ目標ヲ指示サレルト同時ニ自己ノ行進目標ヲ決定シテ直行進スルガ其撰定宜シキヲ得サルカ或ハ嚮導ノ行進状態ノ可否ニ因ツテ小隊長ノ位置ハ中央前ヨリ左若クハ右ニ偏スル様ニナル。

故ニ兩々相俟ツテ目標ノ撰定宜シキヲ得併セテ直行進ニ熟達シナケレバ到底畧ホ中央前ニアリテ行進スルコトハ不可能デアアル。

故ニ小隊長ヲシテ二歩前ニアリテ堂々トシテ行進セシムルガ爲ニハ重疊セル伍ノ前列兵ヲシテ小隊長ニ其位置ヲ小聲ニテ注意セシムル様ニスルガ宜シイ故ニ之ヲ實行セシムル爲ニハ努メテ上等兵ヲ中央伍ノ前列ニ位置スル様ニ編成スルト都合ヨク實施サレル様デアアル。

勿論小隊長ガ後方カラ注意サレル様デハナラナイガ極端ナ場合ニハ隊列ノ外側ヲ恬トシテ行進シテ居ル様ナ事モ認メルコトガアルカラデアアル。

七

各兵卒ハ嚮導ノ方ニ整頓スル爲メ頭ヲ廻スコトナク常ニ隣兵ニ注意ス可シ。

若シ停止間整頓スル様ニ頭ヲ右(左)ニ轉シテ基準ノ方ニ準ハントスル時ハ整頓スル爲ニハ便利デアアルガ行進ノ爲ニ最モ必要ナル行進方向ヲ維持スルコトガ出來ナイ、尙ホ行進路ニ横ハレル

些少ノ地物其他若干ノ凹凸等ノ爲ニ轉倒シタリ或ハ蹣跚トシテ隣兵ニ妨害ヲ與ヘル様ナ事ガ發生スルカラ戒メタノデアアル。

然ラバ如何ニシテ隣兵ニ注意スルカト云ヘバ假令頭ヲ正面ニ保持スルモ側面ノ現象ハ濛朧トシテ視覚ニ映ズルシ又左手ノ振動ニ由ツテモ畧ホ察スルコトモ出來ル或ハ臂ノ相互ノ接觸ニヨツテモ大概隣兵トノ關係位置ヲ認識スルコトガ出來ルノデアアル。

八

一般ニ整頓ハ歩長及速度ノ齊一ト間隔ノ保存トニ依リテ保チ得ルモノデアアル。

此ノ項ハ整頓ヲ理論的ニ要求シタ理想的ノモノデアアルガ尙ホ此他ニ指示サレタ目標ニヨツテ列兵各自ガ目標ヲ撰定シテ直行進ヲナスコトヲ加味シナケレバナラナイ、理論ハ往々實施ト相伴ハナイ事ガアルガ現ニ是等ノ要求ハ機械ニ非サル吾人ハ諸種ノ情實ノ許ニ到底理想ト相一致スルコトハ不可能デアアル。

(イ) 歩長ノ齊一ハ或ル程度迄ハ要求スルコトハ出來ルガ全然常ニ齊一ナル歩長ヲ維持スルコトハ出來ナイ。

初年兵教育當時ハ鐵線ヲ伸長シテ之ヲ七十五珊ニ區劃シ之ガ線上ヲ辿ラシテ歩長ノ齊一ヲ計ル事モアル、ガ決シテ希望スル様ニ齊一ナルコトハ出來ナイ、然シ概畧ニ於テハ畧々近數ヲ得

ルコトが出来ル。

(ロ) 速度ノ齊一ハ諸種ノ手段ニヨツテ求メルコトが出来ル、即チ喇叭ニヨリ樂隊ニヨリ或ハ記號ニヨリ其他視號等ニヨツテ希望スル速度ニ一致セシムルコトハ容易デアアル

(ハ) 間隔ノ保持モ亦各自ガ正當ナル直行進ト癖ナキ速歩行進ニヨツテ望ムコトが出来ル。

癖ナキ速歩行進トハ足ノ交叉セザルモノヲ言フ此ノ事ニ關シテハ各個教練ノ部ニ記述セシヲ以テ畧ス。

九

行進中兵卒ノ守ル可キ要件左ノ如シ。

(イ) 嚮導ハレノ方ニアルモ常ニ頭ヲ正シク保ツコト。

此事ニ就テハ前項己ニ記述セシヲ以テ畧ス。

(ロ) 整頓翼ヨリ押シ來ルトキハ之ニ從ヒ反對ノ方ヨリ押シ來ルトキハ之ヲ支フ。

(一) 列兵ハ總テ基準翼ニ準ス、故ニ間隔モ常ニ嚮導ノ現存スル方ヨリ保持ス可キコト當然ナリ然ルニ往々列兵中目標ノ決定ヲ誤リテ直進ヲ敢テ行ハントシテ外翼ヨリ整頓翼ニ向ツテ押シ來ルコトガアル是等ハ深ク戒メナケレバ隊伍ノ混亂ヲ招ク一大原因トナル。

(二) 列兵中ニ往々見ルコトデアアルガ整頓翼カラ押シ來ツタ時外翼隣兵ヲ無暗ニ押ス爲ニ其

第二十圖



間隔ハ過度ニ開キ最左翼ニ至ルト一米以上ノ間隔ニナルコトモアル此ノ結果外翼ノ方カラ再ビ基準翼ノ方ニ壓迫シテ來テ中央部附近ハ之レガ爲ニ混亂状態ニ陥リ絶エズ押シツツ押サレツシテ隊伍ノ動搖ヲ來ス様ナ原因ニナル。

(ハ) 整頓線ヨリ後レ或ハ進ミ又ハ間隔ヲ失ヒタルトキハ漸次ニ回復スルコト。

(一) 列兵中ニ整頓線ヨリ進ミ(後レ)タルモノアルトキハ外翼ニ位置スル隣兵ヨリ左(右)翼ハ進ミ或ハ後レルノガ當然デアアル。

故ニ進ミ(後レ)タルコトヲ自覺シタ場合ニ急劇ニ整頓ヲ正サントセバ左ニ圖示セル如ク外翼ニ位置スル兵ハ整頓ヲ正ス爲ニ多大ノ勞力ト混雜トヲ要スルカラデアアル。

即チ整頓翼ニ近ク位置スル兵ハ(A)丈前進スレハ可ナリト雖モ外翼ニアル兵ハ(B)ノ距離ヲ閉塞シナケレバナラナイ。

此距離ヲ閉ツル爲ニハ歩長及速度ヲ増加シナケレバ到底望ムコトハ出来ナイ、故ニ其間隊伍ハ一時混亂スル理窟デアアル。

同様ニ間隔モ整頓翼ニ近ク位置スルモノハ極メテ些少ノ距離ヲ回復スレハ済

ムガ外翼ニ在ル者ハ各伍間ニ生ゼシ差額ノ和ヲ閉縮シナケレバナラナイカラ自然隊伍ノ整正ヲ欠ク様ニナル。

故ニ整頓線ヨリノ前進後退及間隔ノ回復ハ急激ニ行ツテハナラナイコトヲ要求サレルノデアアル。

(一) 若シ歩ノ違ヒタルトキハ踏ミ替ヘヲナシ速ニ整頓翼ノ方ナル隣兵ノ歩ニ準フ可シ。

(二) 前項既ニ述ベシ如ク隣兵ニ注意シテ視覚内ニ入ル左手ノ振動ニヨリテ自己ノ歩ガ嚮導翼ノ隣兵ニ準セルヤ否ヤヲ知ルガ最モ良好ナ方法デアアル。

夫レデ左手ヲ振動スル高サハ隣兵ガ頭ヲ正面ニ保持シテ視覚ニ入り得ル最小限ヲ範圍トシテ規定サレルノガ多イカラ兵卒ハ規定セラレタ高サ迄手ヲ振動スルコトヲ努メナケレバ歩ノ整正ヲ期スルコトハ困難デアアル。

(ホ) 兵卒中歩ノ違ヒタルトキ隣兵ノ足ヲ眺メ且ツ自己ノ足元ヲ見ナガラ踏替ヲナスモノガアル。

(ハ) 中隊教練ニ於ケル横隊々形ニ於テ歩ノ整正ヲ得ル最モ迅速ニシテ且ツ正確ナル方法ハ成ル可ク嚮導ガ小隊長ノ歩ニ準シ列兵モ亦小隊長ノ歩ニ準フノデアアル、即チ小隊長ノ歩ニ準スル

コトハ嚮導ノ歩ニ準スルノト違ヒガナイ。

嚮導カラ一人ヅツ踏替ヲシテ全隊ガ一致スル爲ニハ多大ノ時間ヲ要スルニ拘ハラズ小隊長ハ隊列ノ前方ニアリテ行進セル故列兵ハ之ヲ認メ易ク從ツテ僅少ノ時間デ歩ノ整正ヲ得ル理窟デアアル。

(ト) 後方小隊ニ於ケル小隊長以下ハ前方小隊ノ列兵ノ歩ニ準ジテ行進シ若シ前方小隊ノ歩錯亂セル場合ハ矢張り小隊長ノ歩ニ準スル様ニスレバ整々確實ニ且ツ迅速ニ歩ノ一致ヲ望ムコトガ容易デアアル。

(チ) 速歩行進ニ於テ少シク注意スルト踏ミ付ケタル足ガ右足カ或ハ左足デアアルカラ畧ホ察知スルコトガ出來ル、踏ミ付ケル場合ニ力ノ加ヘ具合ハ同様デアアル可キ筈デアアルガ其音響ニ多少ノ差異ガアル故ニ此ノ點ニ注意サセルノモ一法デアアル。

二一 歩調止メ

一 「歩調止メ」ノ要領ハ各個教練ニ準ス。

二 野外ニ在リテハ必ズシモ歩ヲ揃フコトヲ要セズ。

歩調止メ

(イ) 勿論場所及時ノ如何ヲ問ハズ歩武整然タルハ吾人ノ希望スル所デアアルガ到底歩調ノ整正ヲ望ム可ラザル野外ニ於テ上級者ノ監視ヲ恐レテカ徒ラニ速度ノ齊一ヲ計ラント欲シテ能ハザルコトガアルガ何ヲ苦ンデ過度ノ要求ヲスルノデアアルカヲ怪シム様ナ場合ガ随分アル。

(ロ) 又野外ニ出デテ前進ノ號令ヲ下シ兵卒ハ不齊地ノ爲ニ歩調ヲ整フルコト能ハズ、「歩調止メ」ノ號令ニ先ツテ歩調ヲ止メテ行進セルガ如キハ指揮官ノ不注意ニヨリ軍紀ヲ紊ルノ弊習ヲ惹起シ兵卒ハ又當然ノ事ト心得指揮官モ亦之ヲ看過スルハ軍紀上甚ダ宜シクナイ。

要スルニ指揮官ノ腦裏ニ練兵場ト野外トノ區別ヲ劃然トシ徒ラニ兵卒ヲシテ軍紀ヲ紊ラシメズ又徒勞セシメナイ様ニ注意シナケレバナラナイ。

二二二 側面縱隊ノ行進

一 側面ノ行進ニアリテハ各兵卒ハ常ニ舊正面ノ方ニ整頓ス。

(イ) 此際舊正面ノ軸翼ニアルモノハ(所謂伍頭)前方ノ列ヨリ距離ノ保持ニ就テ責任ヲ有ス。同時ニ各兵モ距離ニ對スル念慮ヲ失ツテハナラナイ。

(ロ) 外翼ニ位置スル其他ノ三名ハ軸翼ニ位置スル兵卒ニ整頓シナケレバナラナイ、所ガ此ノ感

念ヲ欠ク爲ニ僅ニ四名ノ併列スラ整頓極メテ宜シカラザルモノヲ認メル。

二 嚮導ノ後ニアル兵卒ハ其足跡ヲ踏ミテ行進シ其他ノ兵卒ハ列中ニアリテハ互ニ重リ直前ニアル兵卒ノ頭ヲ以テ其前方兵卒ノ頭ヲ掩フ如クニ行進ス。

(イ) 兵卒ハ一般ニ直前ノ兵卒ニ正シク重疊スルノ感念ニ乏シク後方カラ見ルト一直線ニ行進シテ居ナイデ蛇ノ様ニ屈曲シテ居ルコトガ多イ。

(ロ) 列中ニアリテ各兵卒ガ相重疊シテ行進セザル可ラズトノ念慮ニ乏シキト尙ホ各列兵ハ動作ノ自由ヲ得ンガ爲ニ若干ノ間隔ヲ設ケ之ガタメ各別ニ廣狹ヲ生ジ外觀甚ダ不體裁デアアル。

三 此ノ行進ニ於テ先頭四兵卒ノ整頓不正ナルトキハ其害各列ニ及ブモノトス。

(イ) 後方ノ列兵ハ先頭ノ四兵卒ニ相重疊シテ行進スル爲ニ若シ先頭ノ列兵ニシテ間隔ヲ設ケルガ如キ事アラバ後方ノ列兵ハ從ツテ間隔ヲ生スル様ニナル。

又整頓不可ナル場合ハ後方ノ列兵ハ前方列兵ヨリ概畧ノ距離ヲ保持スル爲ニ其整頓ハ不正タラザル可ラザル様ニナル。

故ニ先頭ノ列兵ハ大ナル責任アルコトヲ自覺シテ後方ノ列兵ヲ誤ラシメナイ様ニ注意シナケレバナラナイ。

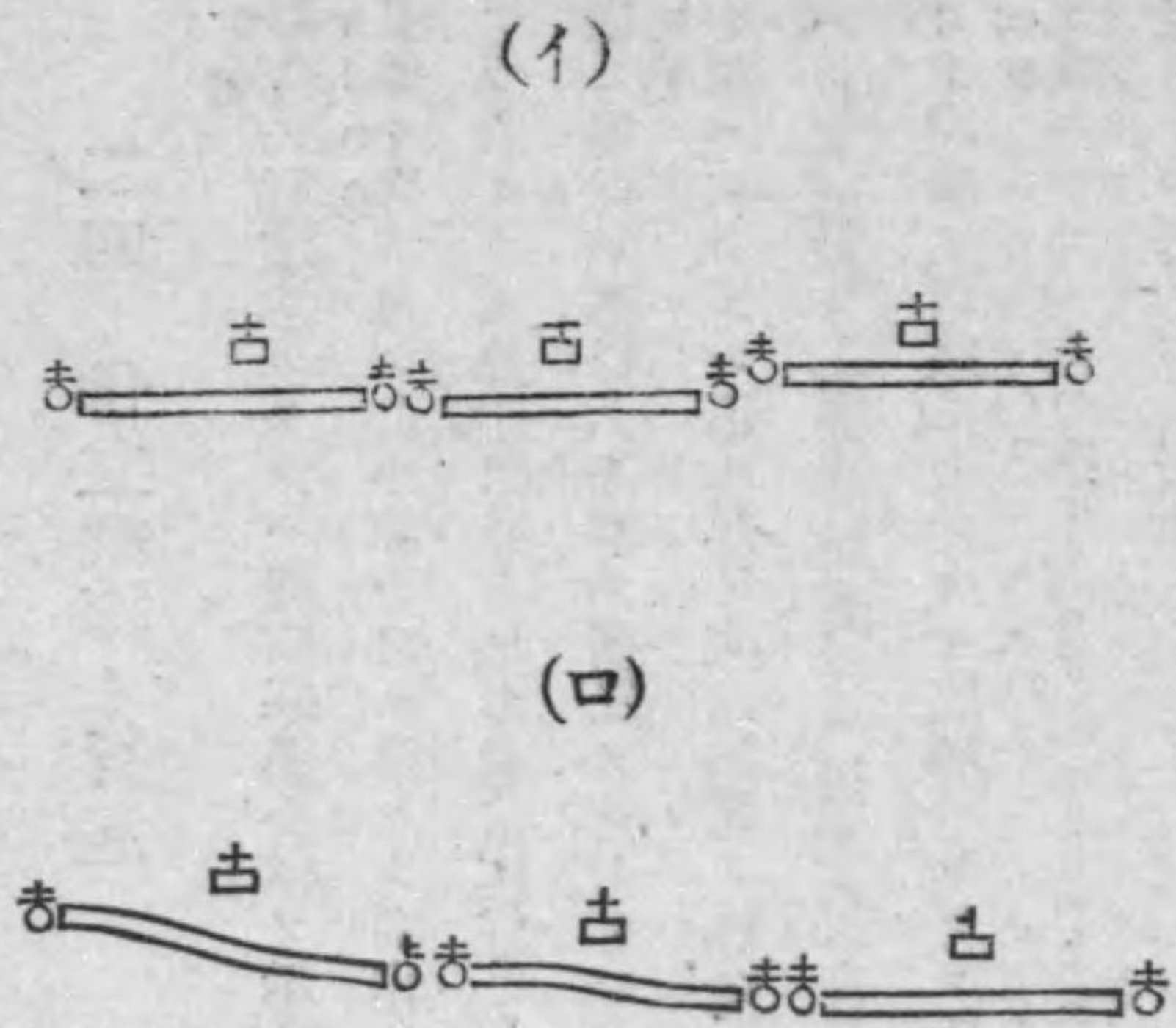
側面縱隊ノ行進

(口) 行進ニ於テ一般ニ各列ノ距離ハ收縮シ易イ之レガ爲ニ横隊ニナル時整頓翼ヨリ外翼ニ流
ルルガ如ク押サナケレバ完全ナル横隊隊形ニナルコトガ出来ナイ場合ガ多イ。
之ニ反シ行軍間ニ於テハ著シク伸張ス。
前者ハ隊伍ノ動搖ヲ招ギ後者ハ行軍長徑ニ影響シ從ツテ戦闘ニ際シ開進ニ當ツテ多大ノ時間
ヲ要スルコトニナルカラ共ニ注意ヲ拂ハナケレバナラナイ。
(ハ) 行進ニ於テ一般ニ認メラレル弊害ハ譬へ先頭ノ列ハ正シク行進スルモ漸次後方ニ至ルニ
從ツテ四兵卒ノ間隔ハ擴大スル。
殊ニ行軍ニ於テ一層明瞭ニ之ヲ視ルコトガ出来ル。

二三 中隊横隊ノ行進

- 一 嚮導ノ方ニ整頓シ且ツ準ジテ行進スルコト前段直行進ニ同ジ。
- 二 各小隊ノ兩翼下士ハ列兵ニ關スルコトナク正規ノ歩長ト速度トヲ保チテ行進シナケレバナラ
ナイ。
- 三 列兵ハ中隊ノ横隊ナドト大キナ考ヘヲ持タナイデ小隊ノ横隊行進ト心得テ當該小隊ノ嚮導ノ

第三十圖



方ニアル翼下士ニ準シテ行進スレバヨイ、併シ外翼小隊ナドノ列兵ハ各自目標ノ撰定頗ル困難ニ

ナルガ已ニ述べタ様ナ要旨ニ基イテ割リ
出セバヨイ、之ガタメ各兵卒ハ中隊ヲ編
成セラレシ際小隊ノ正面幅ヲ承知シテ置
ク必要ガアル。

四 中隊ノ整頓ハ一線ニナレバ最モ良好デ

アルガ若シ其ノ整頓不良ナリトスルモ
(イ)圖ニ示セル様ニ各小隊ハ立派ニ整頓
ガ出来テ居ナケレバナラナイ、斯ノ如ク
デアツタナラバ各小隊歩ヲ調和シ得ル様
ニナレバ一線タルコトヲ望ミ得ルカラデ
アル。

然ルニ(口)圖ニ示セルガ如キニ至リテハ

全然其可否ニ關シテ論ス可キ限リデナイ。

中隊横隊ノ行進 併立縦隊ノ行進

五 小隊長ハ目標ノ撰定不良ナルト直行進不正ナルトキハ時ニ近接シ或ハ甚シク分離スル状態ニナルカラ大ニ注意シナケレバナラナイ。

二四 併立縦隊ノ行進

- 一 併立縦隊ノ行進ニアリテハ通常基準小隊ヲ示スモノトス。
- (イ) 基準小隊ハ他ノ二小隊ガ之ニ準シテ動作シ得ルニ容易ナルヲ第一要件トシテ示サレナケレバナラナイガ其他、目標、地形、及他隊トノ關係等ニヨツテ各々基準ノ撰定ヲ異ニスルカラ時ニ從ヒ場合ニ應ジテ基準ノ撰定ヲシナケレバナラナイ。
- 二 基準小隊ニアラザル各小隊ノ先頭後尾ノ分隊長ハ基準小隊ヨリ常ニ八歩ノ間隔ヲ保持スル責任ヲ有ス、此ノ責任ヲ果サンガ爲ニハ頭ヲ右(左)ニ轉ズルコトナク頭ヲ正面ニ保チ常ニ基準小隊ニ注意シテ現像ノ幻映ト微妙ナル感觸ニヨツテ此ノ間隔ヲ保持シナケレバナラナイ。
- 三 目標ヲ與ヘラレ、次ニ基準小隊ヲ示サレルカラ各小隊ノ先頭分隊長ハ之ニ依ツテ各自ノ行進目標ヲ決定スレバ可イ。
- 四 併列セル三小隊ノ各列ハ基準小隊ノ各列ニ整頓シテ行進ガ出來ル様ニナラナケレバナラナイ。

二五 中隊縦隊ノ斜行進

- 一 斜行進ニアリテハ各兵卒ノ位置正シキトキハ其肩互ニ併行シ右(左)ノ斜行進ニアリテハ各兵卒ノ右(左)ノ肩其右(左)ノ隣兵ノ左(右)肩ノ後ロニアルモノトス。
- (イ) 斜行進ハ甚ダ困難ナ行進法デアアルガ中隊教練ニ於テハ此ノ行進ヲ實施スル場合ガ極メテ多イ、然ルニ概シテ此ノ行進法ハ劣等デアアル。
- 斜行進ハ短距離ニ行ハル可キ行進ノ偏移デアツテ長距離ニ實施スルハ其當ヲ得タルモノデナイ、若シ長距離ノ行進偏移ヲ行ハントセバ豫メ其方向ニ隊列ヲ正面セシメテ直行進スル様ニスルノガ至當デアアル。
- (ロ) 此ノ行進ヲ完全ナラシメンガ爲ニハ各自斜行進ノ角度ヲ誤ラザル様ニシナケレバナラナイ、即チ各個教育ニ於テ半右(左)向ケテ完全ニ教育スル必要ガアル、所ガ各個教育デハ角度ノ正、不正ハ何等影響ヲ與ヘザル爲ニ等閑ニ附セラレルコトガ多ク、又之ニ費サレル時間ハ比較的少ナイ爲ニ從ツテ其動作ハ拙劣デアアルカノ如ク思ハレル。
- 試ニ横隊隊形ニアル列兵ヲ半右(左)向ケテ爲セタナラバ恐ラク、其角度ノ過不足ノ爲ニ各兵ノ

肩ハ相併行シテ居ナイノニ驚嘆スル場合ガ多イダロウト思フ、此ノ如キ状態デ完全ナル斜行進ヲ要求スルコトハ絶対ニ不可能デアアル。

即チ各列兵ノ行進方向及ビ目標ノ交叉ヲ來スコトハ必然デアアルカラ自然隊伍ハ終始動搖シ整然タルコト能ハザルコトハ明瞭デアアル。

二 各兵卒ハ常ニ斜行スル方ニ整頓ス。

(イ) 兵卒中ニハ此ノ條項ヲ知ラナイモノガアル、爲ニ往往隊伍ガ分離シテ混亂ヲ生ズルコトガアル。

(ロ) 斜行進ニ際シテハ行進方向ノ翼分隊長ハ即チ嚮導デアアル、故ニ正シク四十五度ノ角度ニ向ツテ直進シナケレバナラナイ。

若シ此ノ角度ニ過不足アリ直行進不正ナル場合ハ隊列ハ動搖ヲ來スコト直行進ニ於ケル比デハナイ。

(ハ) 若シ四十五度ニアラザル角度ノ斜行進ヲ行フ場合ニハ目標ヲ示サナケレバ是亦隊伍ノ整正ヲ期待スルコトハ出來ナイ。

(ニ) 整頓ヲ要求スルコトハ勿論デアアルガ列兵ハ汲汲トシテ顧慮スルヨリモ寧ロ虚心平氣ニ歩

幅ト速度ノ齊一ニ一層深キ注意ヲ拂フ様ニスルガ宜シイ。

(ホ) 短距離ノ行進デモ往往犯シ易キ過失ハ與ヘラレタル目標ニ向ツテ何時ノ間ニカ方向變換ヲシテ直行進ヲ實施シテ居ル場合ガ多イ。

其他各種隊形ニ於ケル注意ス可キ事項ハ前項記述セシ諸項ニ同様デアラカラ省略スル。

二六 方向變換及隊形變換ニ關スル一般要領

一 方向及隊形ヲ換フルニハ停止間ニ在リテハ銃ヲ擔フコトナク歩度ヲ伸ハシテ行フ。

(イ) 歩度ヲ伸ハスナル語ハ屢耳ニスル語デアアルガ、歩度トハ速度ト歩幅ヲ意味ス、故ニ歩度ヲ伸ハストハ歩幅ヲ擴大シ併セテ速度ヲ増加スルコトヲ謂フノデアアル。

二 若シ駈歩ヲ以テ之ヲ行フヲ要スルトキハ豫令ノ次ニ「駈歩」ナル號令ヲ加フ駈歩ヲ爲ストキハ豫令ニテ劍鞘ヲ握ルモノトス。

(イ) 但シ「駈歩」ノ號令アルモ銃ヲ擔フコトナシ。

(ロ) 駈歩ノ豫令ニテ劍鞘ヲ握ラナイモノガアル。

三 行進間ニアリテハ常ニ駈歩ヲ用フ。

方向變換及隊形變換ニ關スル一般要領

四 方向或ハ隊形變換ヲナセハ常ニ動作後ニ於テハ其軸翼若クハ基準タリシ方ニ整頓スルコト。

二七 中隊縱隊ノ方向變換 (停止間)

一 先頭小隊ノ軸翼ニアル分隊長ハ右(左)向ヲ爲シ其他ハ半右(左)向ヲ爲シ捷路ヲ經テ逐次新線ニ到リテ停止シ其右(左)隣兵ニ整頓ス。

(イ) 軸翼分隊長ノ右(左)向ノ角度ノ正否ハ方向變換ノ度数ノ基準デアルカラ餘程注意シテ正確ニ實施シナケレハナラナイ。

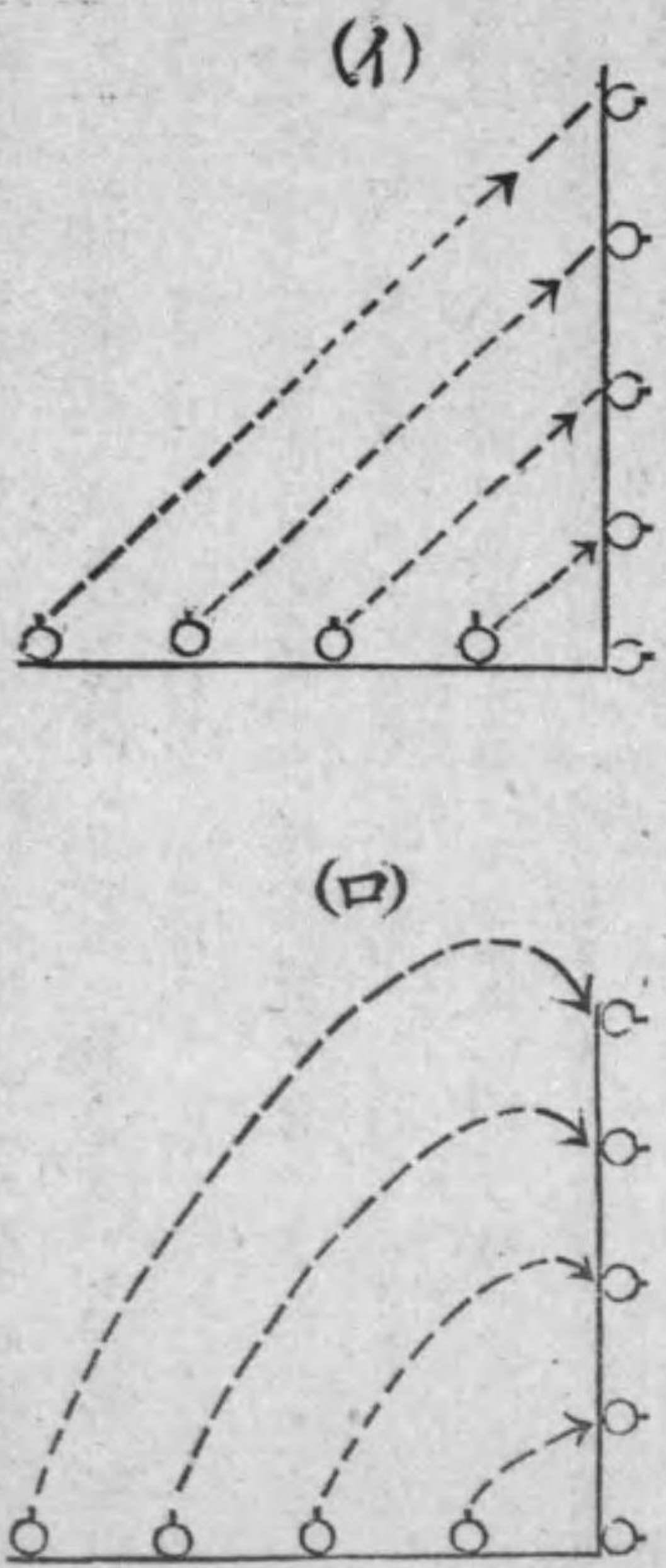
(ロ) 軸翼分隊長ハ新線ニ來ル可キ己レニ近キ數伍ヲ最モ速ニ新整頓線上ニ位置セシメナケレハナラナイ。

是等ノ兵ヲ速ニ新線上ニ位置セシムルト否トハ當該小隊ノ整頓ニ多大ノ影響ヲ與フルコトヲ思ハナケレハナラナイ。

所ガ燈臺下暗シノ類テ己レニ近接セル數伍ヲ新線上ニ正シク位置セシムルコトハ非常ニ困難デアリ且ツ餘程ノ熟練ヲ要ス。

概シテ翼分隊長ノ轉回ノ角度ハ不足カ多ク、從ツテ整頓線ノ引ケル場合ガ多イ。

圖 四十 第



(ハ) 列兵中ニハ半右(左)向ヲ爲シツツ第一步ヲ踏ミ出スモノカ多イガ、轉回ハ第一動ノアル如ク第二動ヲ以テ一齊ニ第一步ヲ踏ミ出ス様ニ心懸ケサセルガ宜シイ。

(ニ) 捷路ヲ經ル爲ニハ一直線ニ自己ノ占位ス可キ位置ニ直進スルノガ宜シイ、即チ、之ヲ圖示シタナラバ(イ)圖ノ如クデアル。

併シ概シテ(ロ)圖ノ様ニ弧形狀ニ新線ニ到ルモノガ多イ。

(ホ) 新線ニ至リ停止スル爲ニハ整頓ノ際述ヘシ様ニ約半歩前ノ地點ニ停止シ然ル後摺リ歩ヲ

中隊縱隊ノ方向變換(停止間)

以テ整頓スル如クスルガ宜シイ。

此際往往新線ヲ踏ミ越ユルモノガアルガ概シテ外翼ニ至ルニ從ツテ新線ニ遠サカリ、甚シキハ新線ヨリモ三四歩後方ニ停止シテ整頓ニ着手スル場合カ多イ之ガタメ整頓ハ甚シク遅緩ス

(ヘ) 一般ニ停止スル以前既ニ頭ヲ右(左)ニ轉シテ整頓ニ移ルモノガアルガ停止シテ然ル後、頭ヲ轉シ、次ニ摺リ足ノ順序ニナラナクテハナラナイ。

(ト) 整頓終ラバ逐次整頓翼ヨリ、頭ヲ正面ニシ恰モ將棋倒シノ様ニナラナクテハナラナイ、自己ヨリ、整頓翼ノ隣兵未ダ頭ヲ正面セザル間ニ頭ヲ正面セバ其後ニ於ケル整頓ノ修正ハ知ルコトガ出来ナイ、故ニ整頓翼ノ隣兵未ダ頭ヲ正面セザル時ハ己レモ頭ヲ轉シテ居ナケレバナラナイ、此點ハ各列兵共注意ヲ要スルコト已ニ前述ノ通りデアル。

(チ) 外翼分隊長ハ此際基準線ヲ構成スルノデハナイカラ列兵ト其動作ヲ共ニシ右(左)隣兵ニ整頓スルノデアル。

二 後方小隊ハ兵卒各自ニ己レノ占ム可キ位置ニ到リ、右(左)ノ方ニ整頓ス。

(イ) 後方小隊ニ屬スルモノハ常ニ豫令ト反對ノ方向ニ半左(右)向ヲ爲シテ運動ヲ起スノデア

ル。

(ロ) 右翼分隊長ハ前方小隊ノ右翼分隊長ノ後方八歩ノ位置ニ直進シテ先ツ前方分隊長ニ重疊シ然ル後、列兵ノ整頓ヲ正ス。

(ハ) 外翼分隊長ハ成ル可ク、速ニ己ノ占位ス可キ位置ニ至リ整頓線形成ノ補助ヲ爲ス考ヲ持タナケレバナラナイ。

(ニ) 列兵ハ新線ノ後方約半歩ノ附近ニ至リ、停止シテ整頓スルコト先頭小隊ノ如シ。(小隊ノ方向變換ハ先頭小隊ニ準ス)

二八 中隊縱隊ノ方向變換 (行進間)

一 行進間ニアリテハ先頭小隊ハ方向ヲ換ヘ續キテ行進ス。

(イ) 軸翼分隊長ハ動令ト共ニ右(左)向ケ前ヘヲ行フ。

(ロ) 豫令ニテ列兵ハ劍鞘ヲ握ルノデアアルガ、往往之ヲ實施シナイ兵卒ガアル。

(ハ) 豫令ト同時ニ軸翼ニ近キモノハ歩幅ノ加減ヲナシ隊勢已ニ若干ノ方向變換ヲ爲セルコトガ屢アル。

中隊縱隊ノ方向變換(行進間)

(ニ) 行進間ニ於ケル此ノ動作ハ殊ニ捷路ヲ經テ直進スルコト困難デアツテ一般ニ外翼ノ方ニ偏スル者ガ多イ是レ所謂圓心力ノ作用ヲ止ムヲ得ナイガ此點ニハ餘程意ヲ拂ツテ教育シナケレバナラナイ。

(ホ) 駆歩ノ歩度ガ概シテ早駆ノ如クニナル、殊ニ外翼ニ於テ然リ、是レ軸翼ニ近キモノト同様ニ速ニ新線上ニ到ラントスル誤解カラ來ルノデアルカラ此ノ如キ失態ヲ演ズルノデアル、故ニ教育者ハ軸翼ニ近キモノヨリ逐次ニ新線ニ到達ス可キモノタルコトヲ充分ニ會得サセナケレバナラナイ。

(ヘ) 停止間ニアリテハ新線ノ後方ニ停止スル様ニ言ツタガ行進間ハ之ニ反シテ新線ヲ少シク蹈ミ越エテ速歩ニ移ラナケレバナラナイ、是レ後方ニ於テ速歩ニ移レバ整頓スルニ歩度ヲ伸バサナケレバナラナイカラ非常ニ困難ヲ感ズルカラデアル。

(ト) 嚮導ノ方ニ整頓シ亦歩モ準シナケレバナラナイガ、此ノ步調ガ齊一ニナル爲ニハ多大ノ時間ヲ費スコトガアル故ニ此ノ際ノ如キモ速ニ小隊長ノ歩ニ準スル様ニスレハ其整正ヲ得ルコトニ困難ナコトハナイ。

(チ) 小隊長ハ速歩ニ移ルト嚮導ノ歩ニ準スルカ或ハ嚮導ガ小隊長ノ歩ニ準フカノ約束アレバ

前項ハ容易ニ實施セラルルノデアル。

(小隊ノ動作ハ先頭小隊ニ同ジ)

二 後方小隊ハ先頭小隊ト同所ニ至リ、號令ナクシテ方向ヲ換ヘ先頭小隊ニ續行ス。

(イ) 兵卒中ニ注意ノ足りナイ者ガアレバ方向變換ノ際駆歩ニ移ルノニ齊一ニ出來ナイ事ガアル、是レ一ハ號令ナクシテ動作ニ移ルノデアルカラデアアルガ、列兵ハ胸中ニ變換迄ニ要スル速度ヲ計算スル様ニスルガ宜シイ。

(ロ) 後方小隊ノ距離伸縮セル場合ニアリテモ、往往八歩ナル語ニ拘泥シテ軸翼分隊長ガ動令ヨリ八歩ノ後、方向ヲ變換スルコトガアル、此ノ如キ場合ハ先頭小隊ト同所ニ於テ方向ヲ轉ズルコトハ不可能デアリ且ツ爾後ノ行進ニ影響シ一時隊伍ノ混亂ヲ來タス事ガアルカラ大ニ注意ヲ與ヘテ置ク必要ガアル。

(ハ) 中隊長カラ目標ガ與ヘラレタナラバ嚮導ノ方ニアル分隊長ハ其目標ヲ掩フ如ク前方小隊ノ分隊長ニ八歩ノ距離ヲ保持シテ續イテ前進スルノデアル。

二九 横隊ノ方向變換 (停止間)

横隊ノ方向變換(停止間)

一 「右(左)ニ方向ヲ換ヘ進メ」ノ號令ニテ中隊縱隊ノ先頭小隊ニ準ジテ之ヲ行フ。
前項先頭小隊ノ諸注意ニ準ス。但シ單獨部隊ノ正面擴大セルモノニ過ギズ。

三〇 横隊ノ方向變換 (行進間)

一 行進間ニアリテハ軸翼ノ者ハ足踏ヲ爲シ其他ノ者ハ駈歩ヲ以テ 逐次新線ニ就キ中隊長ノ號令ニ依リ前進スルモノトス。

(イ) 軸翼ノ分隊長ガ往往足踏ヲ爲スコトヲ失念スルコトガアルガ 此際外翼ニ位置セルモノノ 勢力ヲ顧慮スル必要ガアル。

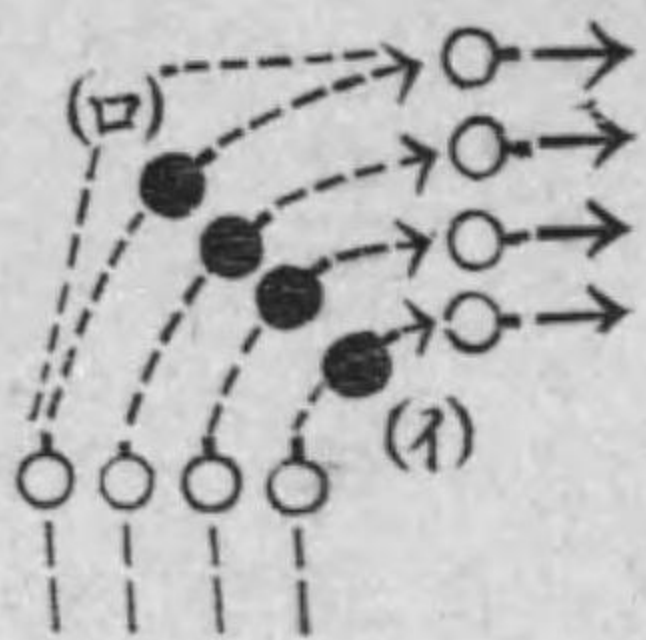
(ロ) 横隊ニ於テ方向變換後軸翼ニ準シテ步調ヲ一致セシメル爲ニハ多大ノ時間ヲ要スルカラ 小隊長ハ嚮導ニ近キ小隊長ノ步調ニ準シ列兵ハ小隊長ノ步ニ準フナラバ殊ニ步調ノ一致ヲ期 待スルコトガ出來ル。

(ハ) 前進ノ豫令ハ概シテ將ニ方向變換ノ動作終ラントスル際下サレテ外翼分隊長ガ新線ニ到 達スルヤ動令ガ下ル事ガ多イノデアアルカラ步調ヲ速ニ一致セシムルコトハ極メテ緊要デアアル。

三一 側面縱隊ノ方向變換

一 先頭伍ハ小ナル環形ヲ步ミ停止間ニアリテハ前進ヲ起スト同時ニ以上ノ動作ヲ爲シ旋回軸ニアル兵卒ハ最初ノ數步ヲ縮メ外翼ニアル兵卒ハ 正規ノ歩長ヲ以テ行進シ常ニ旋回軸ノ方ニ整頓シツ、左(右)ニ方向ヲ換ヘ續イテ行進ス。

圖 五 十 第



(イ) 操典ニ明ニ「小ナル環形ヲ步ミ」最初ノ數步ヲ縮メト示サレテ居ルニ拘ハラズ指揮官中ニハ動令ノ下リシ地點ニ於テ旋回軸ノ兵ニ足踏ヲ要求スル者ガアルガ上圖ノ如ク外翼ノ兵ガ正規ノ步調ヲ以テ旋回軸ノ兵ニ整頓シ得ル範圍内ニ於テ小ナル環形ヲ步ミ步幅ヲ縮メテ行進スル様ニシナケレバナライ、軸翼兵ノ旋回速カナルカ或ハ步幅大ナルカニ依ツテ外翼ノ兵ハ正規ノ步調ヲ以テ之ニ伴フコトハ困難デアアル。

即チ軸翼ノ兵ガ(イ)ノ距離ヲ前進スル間ニ外翼ノ兵ハ(ロ)ノ距離ヲ同時間内ニ行進シナケレバナライカラデアアル。

二 各伍ハ其前ノ伍ト同一ノ所ニ至リ同法ヲ以テ方向ヲ換ユ。

(イ) 同所ニ於テ方向ヲ換フルコトハ稀デアツテ多クノ場合ハ行き過タリ或ハ其位置ニ到着セ

横隊ノ方向變換(行進間) 側面縱隊ノ方向變換

サル内ニ旋回スル。

方向變換ノ動令ヲ下シテ其旋回地點ニ立チ之ヲ注視セバ恐ラク首肯スルダロウ、然シテ此ノ動作ニハ重キヲ置カナイ爲カ之ヲ修正スル教官モ稀デアアル、前項既ニ述ベシ様ニ足踏ヲ要求シテ方向變換ヲ實施スル場合ハ一時隊伍ハ先頭伍ノ後方ニ距離ヲ失シテ停滯スルコトニナル、然ラズンバ動令ト共ニ軸翼ノ兵ハ前方伍ノ旋回シ終ル迄足踏ヲナシテ待ツテ居ナケレバナラナイ。

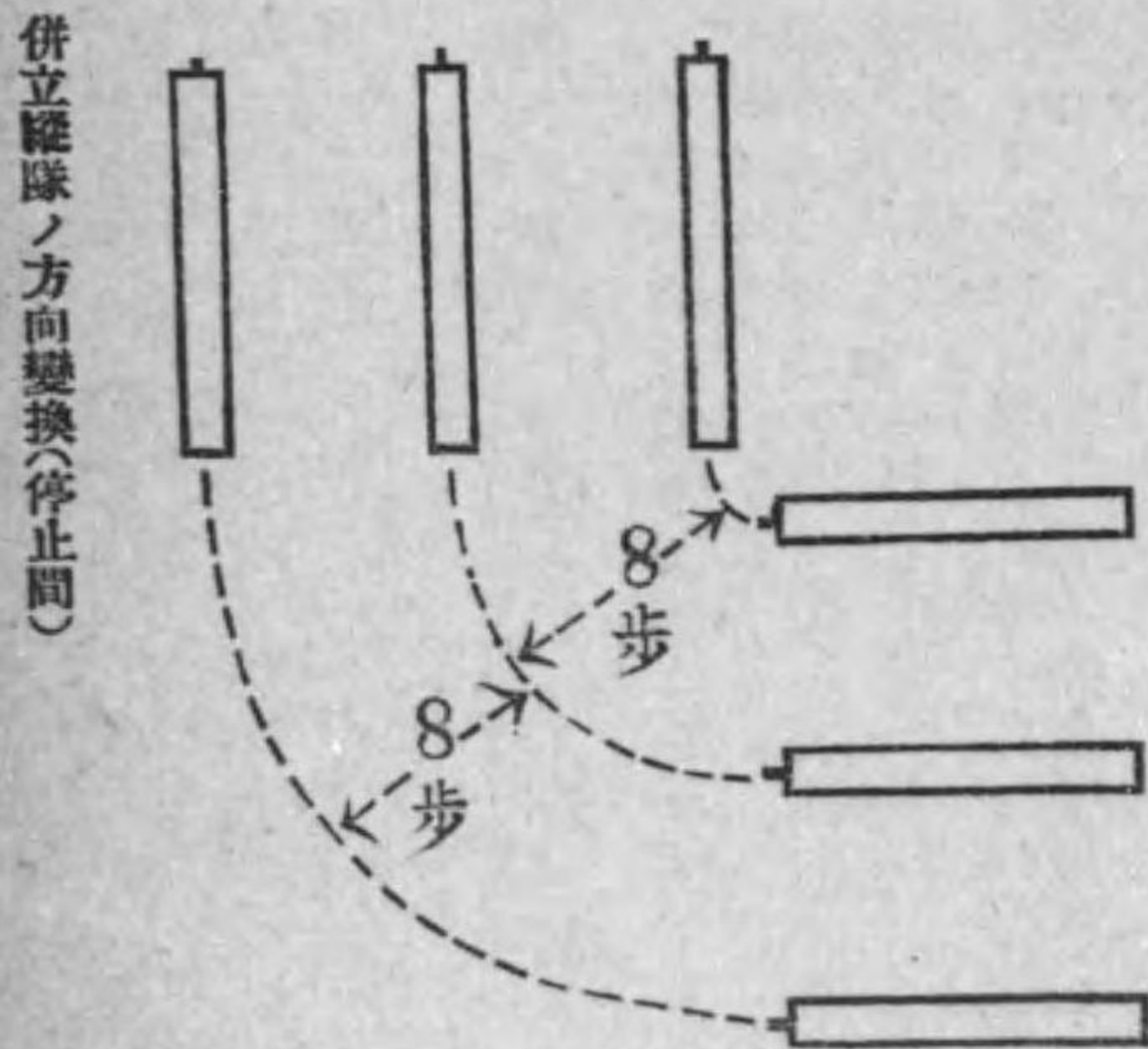
三三二 併立縦隊ノ方向變換 (停止間)

一 停止間ニアリテハ軸翼ニアル小隊ハ伍々右(左)ニ方向ヲ變ヘ小隊ノ深サ丈新方向ニ進ミテ停止ス。

(イ) 此際動令ニヨツテ一齊ニ前進ヲ起ス可キ筈デアアルガ後方ニ位置スル伍ノ兵卒ハ若干後レルモノガアル。

(ロ) 小隊長若クハ分隊長ハ自己小隊ノ深サヲ充分ニ了得セサル爲ニ小隊ノ深サ以上ニ或ハ其以内ニ於テ停止スル場合ガ多イ、深サ以上ニ停止スル際ハ動作ニ影響ヲ與ヘナイガ以内ニ停止

圖六十第



シタ際ハ後方伍ハ前方伍ニ重疊スル爲ニ側方運動ヲ起シ隊伍ノ混亂ヲ生スルコトニ注意シナケレバナラナイ。

(ハ) 停止スル際ハ爲シ得レバ同時ニ停止スル様ニ教育スルノガ理窟デアアル、然ルニ概シテ其停止ハ各個デアツテ外觀極メテ美ヲ欠ク。

(ニ) 停止後各伍ハ直ニ正シク距離ヲ保持スルコトニ注意サセナケレバナラナイ、是レ外翼小隊ハ軸翼小隊ニ整頓スルカラデアアル。

二 他ノ小隊ハ逐次其齊頭ニ至リテ停止ス。

(イ) 左圖ノ如ク圓形狀ニ動令ト共ニ前進ヲ起ス。

往々此ノ弧形狀行進ヲ大或ハ小ニシテ八歩ノ間隔ヲ伸縮シ停止後側方ニ運動シテ距離ヲ保持スルコトガアル。

(ロ) 停止シタナラバ各伍ハ軸翼小隊ノ各伍ト整頓シテ一線ヲ形成スル様ニシナケバナ

ラナイ。

三三 併立縦隊ノ方向變換（行進間）

- 一 行進間ニアリテハ軸翼ニアル小隊ハ前ト同法ヲ以テ方向ヲ換ヘ續イテ行進ス。
- 二 其他ノ小隊ハ逐次其齊頭面ニ到リ續イテ行進ス。
- (イ) 駢歩ヨリ速歩ニ移ル際ハ齊頭面ヨリモ少シク前方ニテ爲スヲ可トス、其理由ハ前述ノ如クデアルカラ省略スル。
- (ロ) 勅令ト共ニ駢歩ニ移ル際其歩度整々ナラサル場合ガ多イ。

三四 小角度ノ方向變換

- 一 少シク方向ヲ換ヘシムルニハ豫メ新目標(方向)ヲ示ス可シ。
 - (イ) 九十度ノ方向變換ヲ行フ爲ニハ別ニ目標ヲ示ス必要モナイガ小角度ノ方向變換ニハ其動作ノ前ニ必ズ新目標或ハ方向ヲ全隊ニ告知シナケレバナラナイ。
- 往々小聲ヲ翼分隊長位ニ新目標ヲ與ヘテ方向變換ヲ爲ス事ガアル、タメニ九十度ノ旋回ト誤リ

テ甚シク隊伍ノ紛亂ヲ醸ス場合ガアル。

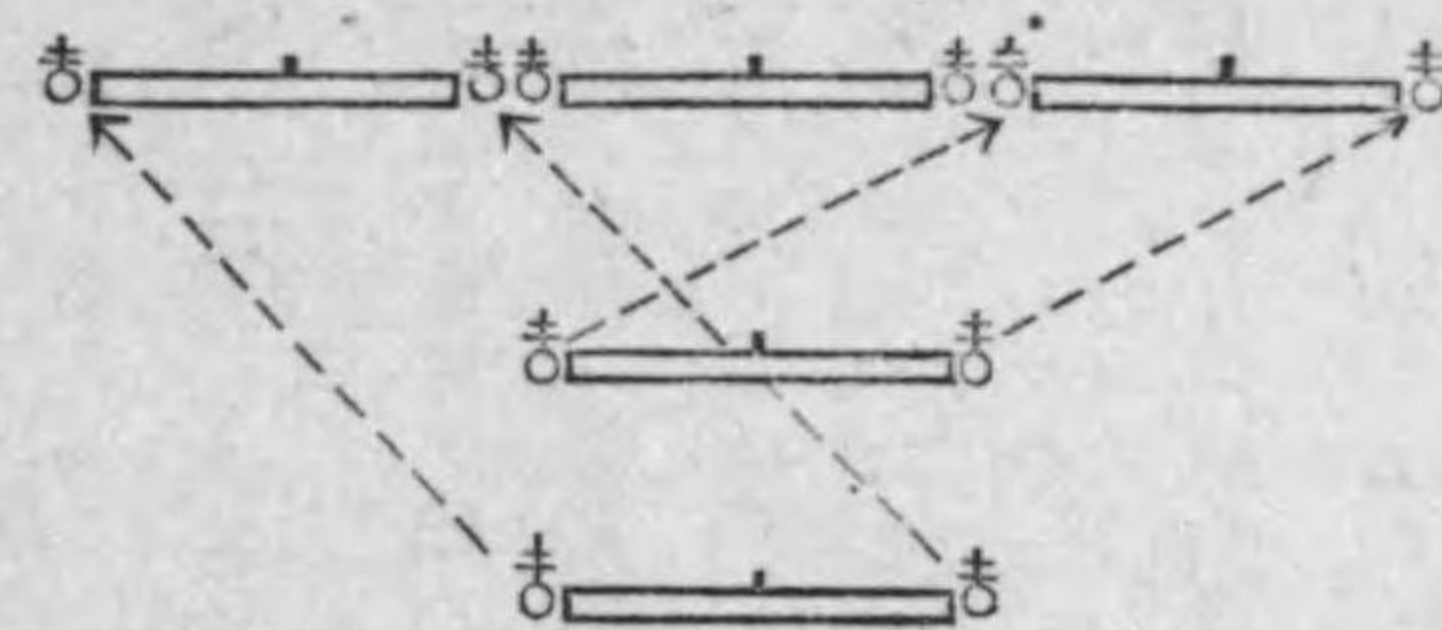
(ロ) 概シテ小角度ノ方向變換ニハ所望ノ度数ヨリモ深キニ失スル事ガ多イ、是レ兵卒中其目標或ハ方向ヲ承知シナイ結果、無暗、無鐵砲ニ駢ケ出スカラデアル此點ハ充分指揮官ガ教育シテ其失態ナカラシメヌ様ニ努メナケレバナラナイ。

三五 中隊縦隊ヨリ横隊ノ編成（停止間）

- 一 中隊縦隊ヨリ横隊ヲ作ルニハ小隊長ノ指示ニ從ヒ、先頭小隊ハ動かズ。
 - 二 中央小隊ハ右斜ニ後尾小隊ハ左斜ニ行進シ先頭小隊ノ線ニ出テ之ニ整頓ス。
 - (イ) 中央小隊ハ勅令ト共ニ半右向ヲナシテ先頭小隊ノ線ニ出ヅ此際半右向ヲ爲シツ、第一歩ヲ踏ミ出ス者ガアルガ、第一動ヲ以テ半右向ヲ爲シ第二動ニテ前進ヲ起ス如ク確然ト區劃ヲ立テナケレバナラナイ。
 - (ロ) 圖ニ示ス様ニ斜行進ヲ同時ニ起シテ同時ニ停止出來ル筈デアアルノニ拘ハラズ齊一ナル動作ガ出來ナイ。
- 是レ第一歩カ已ニ各個的動作ヲ爲スニ基因スルカラデアアル、今右翼小隊ニ就テ言ヘバ概シテ外

併立縦隊ノ方向變換（行進間） 小角度ノ方向變換 中隊縦隊ヨリ横隊ノ編成（停止間）

圖七十第



翼ニ近キ者ガ、比較的速ニ整頓線上ニ位置スルガ、左翼ノ者ハ之ニ反シテ後レ勝デアアル、圖示ニヨレバ當然、整々堂々ト出來ナケレバナラナイ理窟デアアル。

(ハ) 此ノ動作ニ就テハ右翼分隊長ノ誘導ノ巧拙ハ大ナル影響ヲ與ヘルノデアアルカラ、右翼分隊長ハ小隊正面幅ノ目算ニ通曉シテ自己ノ占位スル地點ニ正シク到リ、又兵卒モ自己ノ位置ス可キ地點ト思ハル、所ニ直進シ得ル様ニナラナクテハナラナイ。

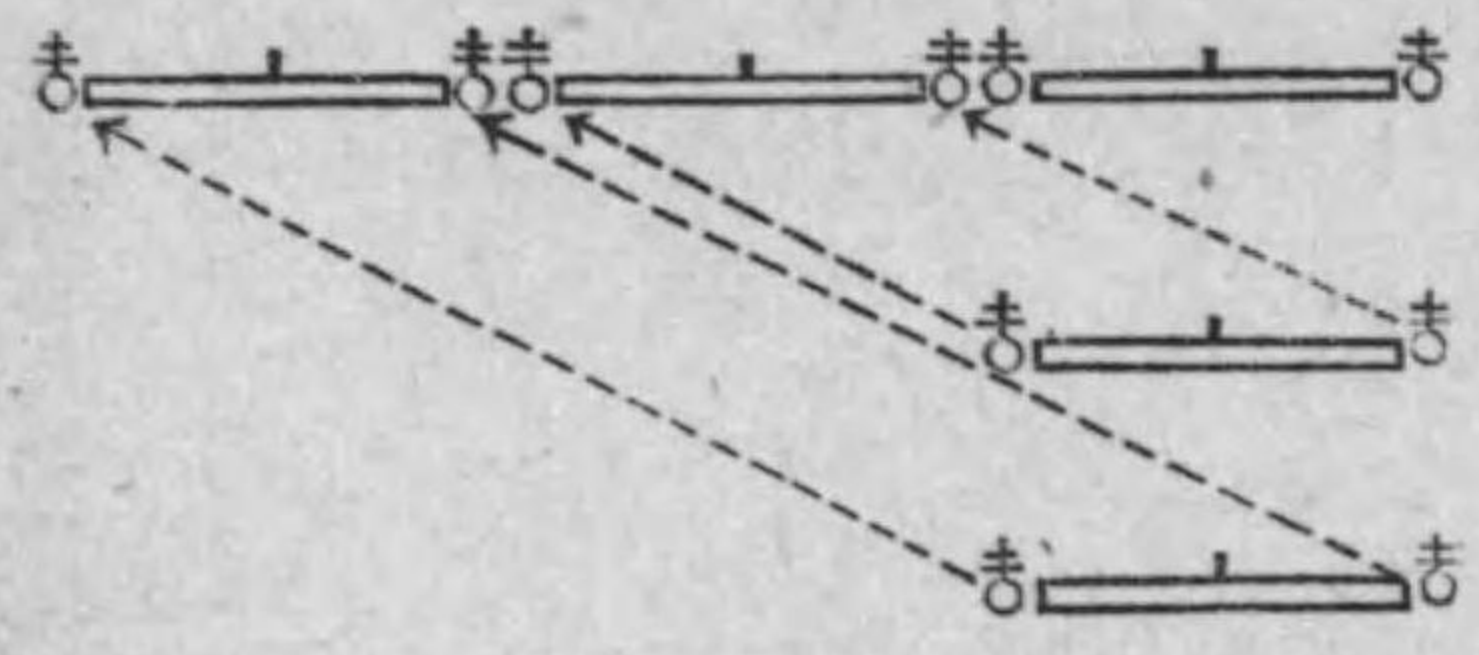
若シ右方ニ偏スルコト過度ナル時ハ小隊ハ何レカニ於テ分離シテ後再ビ側方運動ヲ行ヒ、又小隊ノ正面幅ニ不足ナリシ場合ハ左翼ノ數伍ハ整頓線内ニ位置スルコトヲ得ズシテ共ニ隊ヲナシ。

伍ノ混亂ヲ招ク原因ヲナスカラデアアル。

(ニ) 先頭小隊ノ線ニ到レバ先頭小隊ヲ基準トシテ整頓ヲ爲ス。

三 後尾小隊ハ半左向ヲ爲ス、爾後ノ動作ハ中央小隊ニ準ス。

圖八十第



四 別命ガナケレバ常ニ中央小隊ハ右ニ後尾小隊ハ左ニ横隊ヲ作ルノデアアルガ併シ中隊長ノ意圖ニ依ツテハ號令ヲ以テ中央小隊ヲ左ニ後尾小隊ヲ右ニ位置サセルコトモ出來ル。

三六 中隊縦隊ヨリ横隊ノ編成 (行進間)

一 停止間ノ動作ト同様デアアルガ、只先頭小隊ハ續イテ前進シ他ノ小隊ハ駈歩ヲ以テ先頭小隊ノ線迄前進スル差異ガアル。
(イ) 此際駈歩ノ歩度ガ一致シナイ事ガ多イ、是レモ整々堂々ト普通ノ駈歩ノ要領デ出來ナクテハナラナイ筈デアアル。

三七 中隊縦隊ヨリ一翼ニ横隊ノ編成 (停止間)

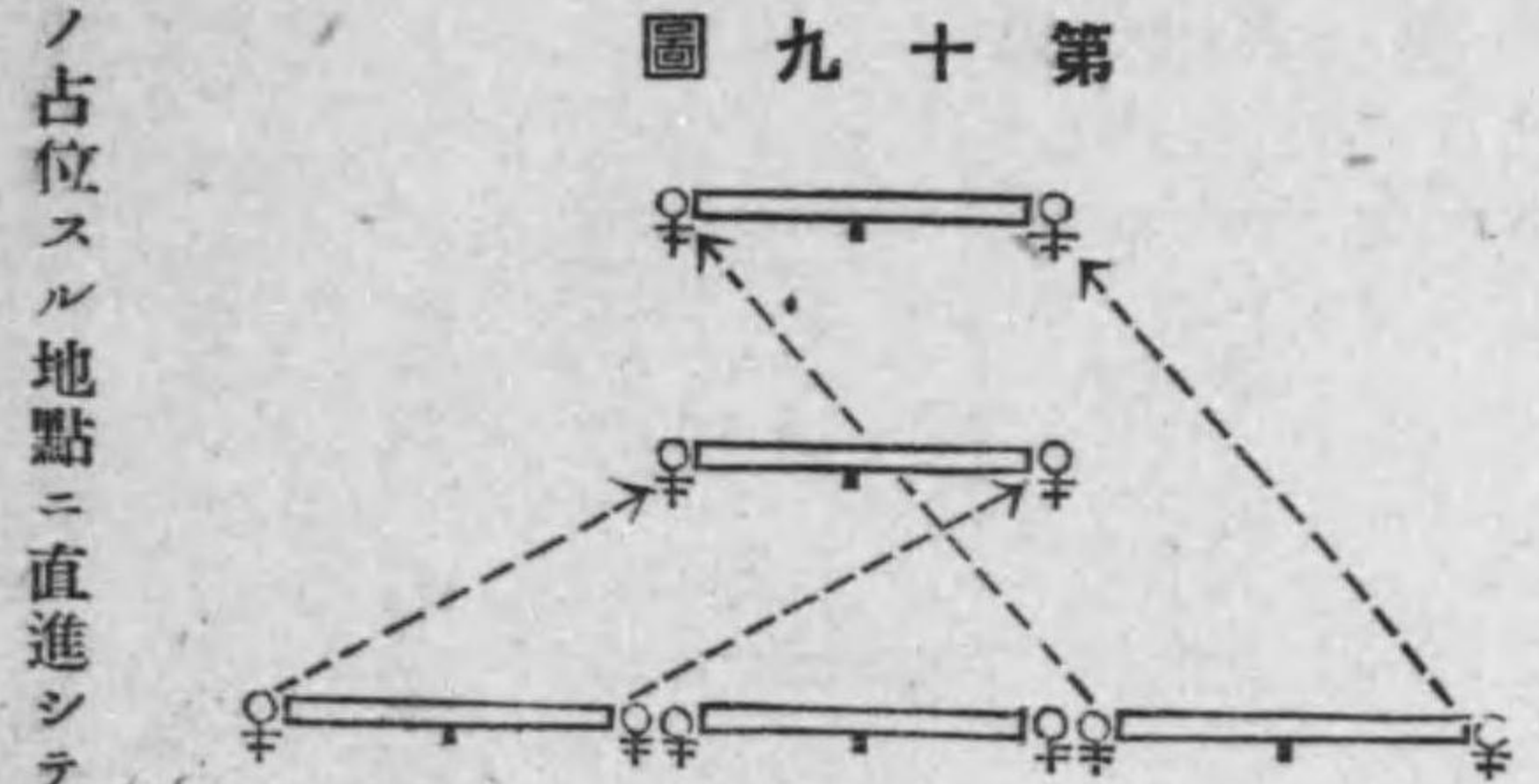
一 一側ニ横隊ヲ作ラシムルニハ「右」左「左」横隊作レ進メ」ノ號令ヲ下ス今上圖ハ左ニ横隊ヲ作リシ場合ヲ示セシモノデアアルガ中央小隊ハ先頭小隊ノ左ニ後尾小隊ハ又其左ニ向ツテ大概己レノ

中隊縦隊ヨリ横隊ノ編成(行進間)

中隊縦隊ヨリ一翼ニ横隊ノ編成(停止間)

位置ス可キ地點ヲ目測シテ其レニ向ツテ行進ヲ起スコト更ニ大ナル變化ノアルモノデハナイ。
 二 行進間ノ動作モ前項ノ要領ニ準ズ。

三八 横隊ヨリ中隊縦隊ノ編成 (停止間)



圖九十第

ノ占位スル地點ニ直進シテ定位位置ニ到リ、右方ニ整頓スルノデアル。

- 一 横隊ヨリ中隊縦隊ヲ作ルニハ號令ニヨリ、中央小隊ハ動カズ。
- 二 其他ノ小隊ハ捷路ヲ經テ右小隊ハ中央、左小隊ハ後尾トナリ、中隊縦隊ノ定位ニ到ル。
- (イ) 別命ナケレバ常ニ此ノ明文ニヨリ動作スルモノデアル勿論中隊長ノ考ヘデ右小隊ヲ後尾ニ左小隊ヲ中央ニ爲スコトモ出來ル。
- (ロ) 要スルニ中隊縦隊ヨリ、横隊ヲ作りシ逆ノ通り、實施スレハ宜シイノデアル、右(左)小隊ハ左(右)向ヲ爲シ自己

(ハ) 兩翼分隊長ハ前方小隊ヨリ八歩ノ距離ヲ保持シテ之ニ正シク重疊シ然ル後、列兵ノ整頓ヲ正ス。

(ニ) 小隊長ハ其間小隊列兵ノ動作ヲ監視シ終ラハ正面ス往々小隊長ハ距離ノ過不足明瞭ナルニ拘ハラズ之ヲ修正スル感念ニ乏シキモノガアル、勿論距離ヲ保持スルノ責任ハ兩翼分隊長ニアリト雖、過失ヲ發見セバ之ヲ直ニ修正シナケレバナラナイ。

三九 横隊ヨリ中隊縦隊ノ編成 (行進間)

一 要領ハ前項ニ準ス然レトモ先頭小隊ハ續イテ行進シ他ノ小隊ハ距離ヲ保持シ得ル迄足踏ヲナシ捷路ヲ經テ駈歩ヲ以テ定位ニ到リ行進ヲ續行ス。

(イ) 兩翼小隊ハ動令ト同時ニ足踏ヲナス。此間ノ歩數ハ各中隊長ノ意圖ニヨリテ異ルモ右小隊ハ八歩、左小隊ハ十六歩ガ普通ノ實施法デアル。

其レデ右小隊ハ八歩足踏ノ後、九歩目ヨリ駈歩ニテ左斜行ヲ以テ定位ニ到リ速歩ニ移リ定距離ヲ保持シ前方小隊ニ重疊シテ行進ヲ續行スレバ宜シイ、後方小隊モ十六歩ノ後、右斜行ノ駈歩

横隊ヨリ中隊縦隊ノ編成(停止間) 横隊ヨリ中隊縦隊ノ編成(行進間)

ヲ以テ定位ニ到ルコト右小隊ト同様デアル。

(ロ) 足踏ヨリ駟歩ニ移ル時兵卒カ胸中ニ步數ノ計算ヲシナイ結果一齊ニ踏ミ出セナイ、場合ガ多イ。

(ハ) 定位ニ到ラバ直ニ前方小隊ノ步調ニ準シテ速ニ步ヲ整ヘル様ニ注意シナケレバナラナイ。

(ニ) 予ノ嘗テ奉仕シタ某中隊長ハ右左小隊共ニ八歩ノ足踏ノ後定位ニ到ルコトヲ要求セラレタ、曰ク、隊形ヲ變換スル爲ニハ其必要ニ迫ラレテ實施ス可キモノデアルカラ努メテ迅速デナクテハナラナイ、故ニ兩小隊共同時ニ運動ヲ起スガ至當デアルトテ右小隊ハ左斜行進左小隊ハ極メテ度數ノ深キ右斜行進ヲ以テ施行シタルガ其結果ハ時間ノ猶豫ヲ存シタ前段ノモノヨリモ、僅少ノ時間内ニ整然タル中隊縱隊ヲ編成シ得タコトヲ附記シテ諸君ノ參考ニ供シテ置ク次第デアル。

四〇 横隊ヨリ一翼ニ中隊縱隊ノ編成

一 翼小隊ヲ基準トシテ中隊縱隊ヲ作ラシムルニハ「右(左)へ中隊縱隊作レ進メ」ノ號令ニヨリテ右(左)小隊ハ動カザルカ或ハ續テ行進シ其翼ニ近キ小隊ヨリ捷路ヲ經テ逐次中隊縱隊ノ定位ニ

到ル。

(イ) 停止間運動ノ要領ハ第三八ニ準ス。

(ロ) 行進間ノ編成ニアリテハ八步足踏ヲナシ中央小隊ハ右(左)斜行ヲ、外翼小隊ハ極メテ度數深キ右(左)斜行ヲ以テ同時ニ運動ヲ起シ定位ニ到リ中隊縱隊ヲ編成ス。

四一 側面縱隊ヨリ横隊ノ編成(停止間)

一 側面縱隊ヨリ同方向ニ中隊ノ横隊ヲ作ラシムルニハ先頭ニアル分隊長ハ動カズシテ兵卒ハ伍ヲ解キ捷路ヲ經テ逐次新線ニツキ右(左)隣兵ニ整頓ス。

(イ) 伍ヲ解キ捷路ヲ經テトアルガ多クノ場合伍ヲ解キツ、捷路ヲ經テ新線ニ至ルノデアアル。

(ロ) 伍ヲ解クニ當リ、著シク遅緩スル爲ニ妙ニ集團シタ状態ヲ呈シテ新線ニ至ルコトガアル。

(ハ) 新線ニ至リテ停止セルトキ番號順序即チ最初編成シタ通りニナラナイデ前後列入替ツタリ或ハ隣兵ト位置ヲ異ニシテ平氣デ居ル場合ガアル、之ガタメ爾後ノ教練ニ齊整ヲ欠ク事ガ多イカラ充分ニ注意シナケレバナラナイ。

(ニ) 其他ハ方向變換ニ於テ述べタコトヲ参照セラレタイ。

横隊ヨリ一翼ニ中隊縱隊ノ編成 側面縱隊ヨリ横隊ノ編成(停止間)

四二 側面縦隊ヨリ横隊ノ編成（行進間）

一 號令ガ下ルト同時ニ先頭分隊長ハ足踏ヲ爲シ伍ヲ解キ捷路ヲ經テ逐次新線ニ就キ右（左）隣兵ニ準シテ足踏ヲナス、次デ號令ヲ下ス。

(イ) 先頭分隊長ガ往々足踏ヲ失念シテ外翼兵ニ多大ノ迷惑ヲ及ボスコトガアルガ大ニ注意シナケレバナラナイ。

(ロ) 其他ノ諸注意ハ前項ニ同ジ。

(ハ) 步調ヲ速ニ齊一ニナス爲ニハ小隊長ノ歩ニ準スル様ニスルガヨイ。

(ニ) 前進ノ動令ハ概シテ外翼兵ガ新線ニ就カントスル場合ニ下サレルモノデアアル、此際步調ヲ速ニ整ヘナケレバ隊伍ハ動揺スルシ亦隊長トシテ動令ヲ下スニ苦シムノデアアルカラ列兵ハ此點ニ大ニ注意シナケレバナラナイ。

(ホ) 新線ニ到リシ際列兵ハ一般ニ新線ヲ踏ミ越エテ後退スルモノガ多イ是レ無鐵砲ニ駆歩ヲナスカラデアアル。

四三 側面縦隊ヨリ同方向ニ中隊縦隊ノ編成（停止間）

一 動令ト共ニ小隊毎ニ横隊ヲ作り後方小隊ハ定規ノ距離ヲ取ル。

(イ) 此際ニ様ノ作り方ガアル。

(一) 動令ト共ニ各小隊ノ先頭分隊長（先頭分隊長ヲ除ク）ハ直ニ前進ヲ起シテ定規ノ距離ヲ取ル。

(二) 中央、後尾小隊ハ畧ボ横隊ヲ作り了ルニ當リテ小隊全部同時ニ運動ヲ起シテ定規ノ距離ヲ取ル。

前者ハ停止間ニ於テ實施スルコトハ容易デアアルガ行進間ニ此ノ方法ヲ採用スル時ハ外翼ニ位置スル者ハ多大ノ努力ヲ要シ尙ホ新線ニ至ル迄ニ隊伍ノ混亂ヲ招ク場合ヲ生ジ易イ。

停止間ニアリテハ若干距離前進ノ後ハ先頭分隊長ハ停止シ外翼ニ位置スルモノハ歩度ヲ伸バシテ之ニ到達シ所望ノ隊形ヲ編成スルコト容易デアアルカラ此ノ方法モ又一法デアアル。

後者ハ前者ニ比シ整々堂々ト中隊縦隊ヲ編成スルコトガ出來ル。

此際横隊隊形ヲ形成シテ前進ヲ起ス時一齊ニナラナイ事ガ多イ、故ニ小隊長ガ記號若クハ小

側面縦隊ヨリ横隊ノ編成（行進間）

側面縦隊ヨリ同方向ニ中隊縦隊ノ編成（停止間）

聲ニテ前進ノ號令或ハ注意ヲ與ヘル様ニスレバ此ノ小言ヲ免レルコトハ容易デアル。
其他ノ注意ハ畧ス。

四四 側面縱隊ヨリ中隊縱隊ノ編成 (行進間)

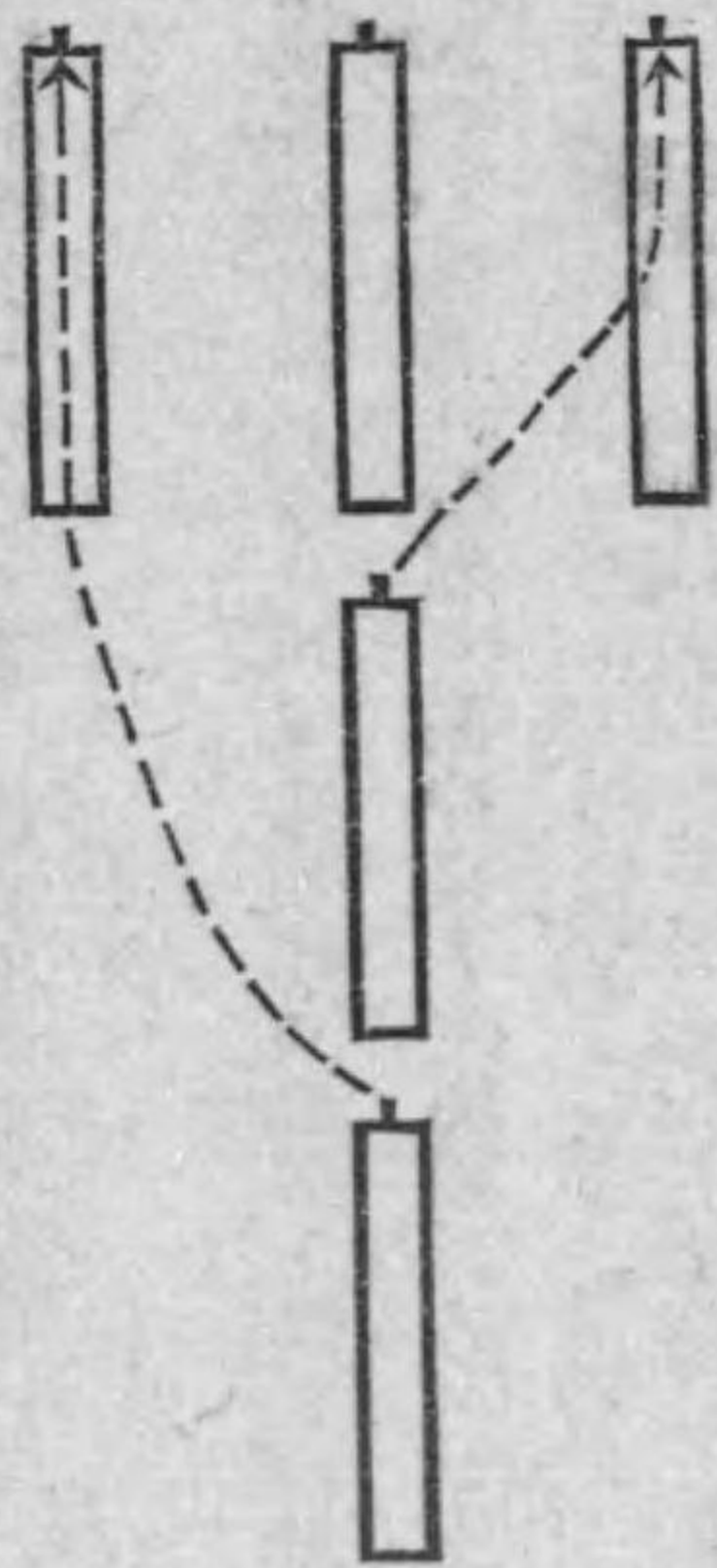
一 行進間ニアリテハ停止間ノ動作ニ同ジ、但シ足踏ヲナスコトナシ前項ノ如クニ様ノ編成法アレトモ、前者ハ軸翼ニ近キモノ歩度ヲ縮メタル駈歩ヲナシ外翼ノ者ハ歩度ヲ伸ハサナケレバ定規ノ位置ニ至ル迄ニハ横隊ヲ構成スルコトハ困難デアル。
今若シ軸翼ノ者ガ定規ノ駈歩ヲ以テ此ノ動作ヲ實施シ外翼ノ者モ規定セラレタル駈歩ヲ以テ運動シタナラバ中隊定規ノ距離ヲ取リテ速歩ニ移ル迄ハ側面隊形ノ儘前進シ然ル後ニ非ザレバ横隊ヲ構成スルコトハ不可能ノ理窟デアル、故ニ強イテ横隊ヲ構成シ了ツテ定規ノ距離ヲ保持スル爲ニハ自然ニ混亂ヲ生シ多大ノ努力ヲ要スルコト明デアル。
然ルニ後者ハ軸翼ノ者依然トシテ速歩ニテ行進ヲ續行セル爲メ速ニ横隊ヲ構成スルコトヲ得ベク、然ル後、整然タル部隊の駈歩ヲ以テ運動ヲ起スコトガ出來ルカラ多クノ中隊ハ此ノ方法ヲ採用シテ實施シテ居ル。

其他ノ注意ハ前項ニ準ズ。

四五 側面縱隊ヨリ同方向ニ併立縱隊ノ編成 (停止間)

一 側面縱隊ヨリ同方向ニ併立縱隊ヲ構成スル爲ニハ先頭小隊ハ動かズ。
二 中央小隊ハ右ニ後尾小隊ハ左ニ定規ノ間隔ヲ得ル如ク進出ス。
(イ) 此際中隊長ノ意圖ニヨリ中央後尾ノ小隊ヲ何レノ方向ニテモ位置サセルコトガ出來ル。
(ロ) 動令ト共ニ中央、後尾小隊ハ側面縱隊ノ儘先頭小隊ノ右(左)八歩ノ所ヲ目標トシテ小隊長ノ誘導ニヨリテ前進ヲ起スコト圖ノ如クデアル。

第十二圖



此際兵卒中ニ茫然トシテ居ルモノガアルト第一歩ノ蹈ミ出シガ齊一ヲ缺クコトガアル。

(ハ) 先頭小隊ト齊頭ニ至ラバ停止

シテ直ニ基準小隊タル先頭小隊ニ整頓ス可キデアルガ往々之ヲ失念シテ各列ガ一線ヲ形成シ

側面縱隊ヨリ中隊縱隊ノ編成(行進間)

側面縱隊ヨリ同方向ニ併立縱隊ノ編成(停止間)

ナイ場合ガアル。
此際基準小隊タル可キ小隊ハ整頓及列間距離ヲ正シク保持スルコトニ注意ヲ拂ハナケレバナ
ラナイ。

- (ニ) 側面縦隊ノ所デ述ベタガ殊ニ併立縦隊ヲ作リシ場合ニハ前後ノ重疊カ正シクナイ。
- (ホ) 小隊間ノ間隔ハ距離ノ保持ヨリモ困難デアルカラ熟達シナケレバナラナイ。

四六 側面隊形ヨリ併立縦隊ノ編成 (行進間)

- 一 前項ニ同ジ然レドモ先頭小隊ハ續イテ行進シ其他ノ小隊ハ駈歩ヲ以テ定規ノ間隔ヲ保持シ得ル如ク進出スルヲ異ナリトス。
- (イ) 前項ノ注意ニ同ジ
- (ロ) 先頭小隊ト齊頭ニ進出ス可キ小隊ガ未ダ齊頭ニ至ラズシテ速歩ニ移ルトキハ爾後整頓シ得ル迄ニハ困難ト勞力ヲ伴フカラ充分注意シナケレバナラナイ。

四七 一側ニ併立縦隊ノ編成

- 一 「右(左)へ併立縦隊進メ」ノ號令ニヨリテ前項ノ要領ニヨリ停止或ハ行進間之ヲ行フ。但シ進出ノ順序ハ先頭ニ近キモノヨリ其側方ニ占位ス可シ。

四八 併立縦隊ニ於ケル小隊間隔ノ伸縮ニ就テ (停止間)

- 一 練兵場或ハ野外ヲ論セズ遠距離ヨリ漸次進出シテ開豁地ニ於テ敵砲兵ノ射撃ニ出會スルノ想定ニヨリ小隊間ノ間隔ヲ擴張スルコトガアル、此ノ際小隊ノ誘導法ニ就テ一言述ベテ置キタイト思フ。
- 二 停止間ニアリテハ基準小隊ハ動かズ其他ノ小隊ハ右(左)向ケヲ爲シテ速歩若クハ駈歩ヲ以テ示サレタル間隔ヲ保持スルハ宜シイ、併シ斯カル想定ノ下ニ行フ動作トシテハ駈歩ヲ以テ行フノガ至當デアアル。
- 三 此際小隊長ハ指揮官ヨリ命ゼラレタル間隔歩數ノ目算ヲ誤リ易イカラ、大ニ熟達スル必要ガアル。

四九 併立縦隊ニ於ケル小隊間隔ノ伸縮ニ就テ (行進間)

側面隊形ヨリ併立縦隊ノ編成 (行進間) 一側ニ併立縦隊ノ編成 併立縦隊ニ於ケル小隊間隔ノ伸縮ニ就テ (停止間) 併立縦隊ニ於ケル小隊間隔ノ伸縮ニ就テ (行進間)

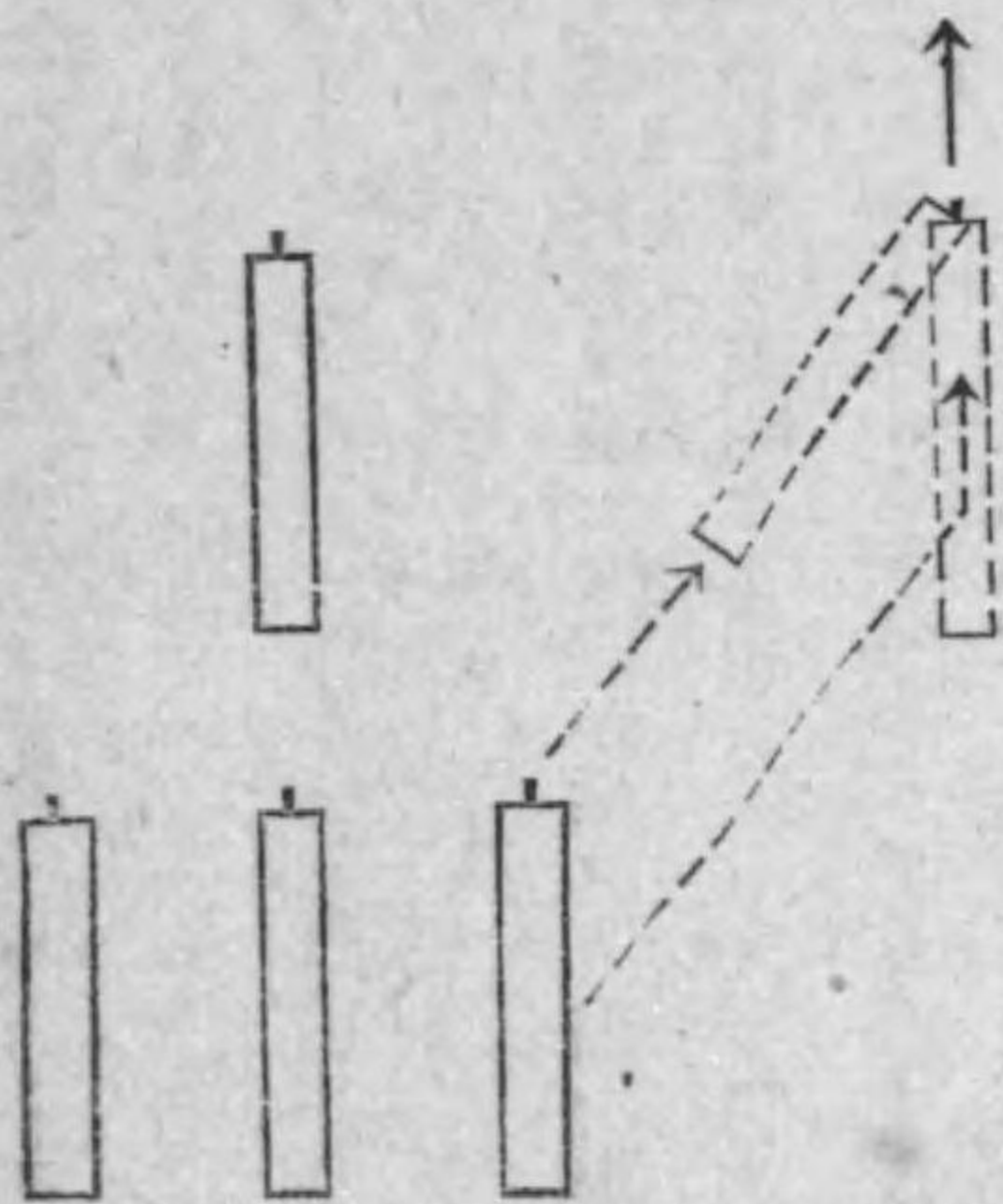
一 行進間ノ誘導法トシテハ次ノ二様アル。

(イ) 斜行進ヲ以テ所望ノ間隔ヲ保持セントスルモノ。

(ニ) 側面縦隊ノ儘誘導セントスルモノ。

前者ハ常ニ敵ニ對シテ小ナル目標ニヨリテ運動スルコトヲ得レドモ後者ハ指示セラレタル間隔ヲ保持スル迄其側面ノ若干部分ヲ敵ニ曝露シ目標大ナルヲ免レザルノ不利アルコト圖示スル如クデアアル。

圖 一 十 二 第



又前者ハ斜行進ノ號令ヲ與ヘ更ニ駈歩ニ移スカ或ハ二號令ヲ同時ニ下ス等ノ不利或ハ不制式アリテ尙速歩タラシムル爲ニハ前項同様ノ不利ヲ招クト雖後者ハ駈歩ノ一號令ヲ以テ誘導シ單調ナル一號令ヲ以テ速歩タラシムルコトヲ得ル等ノ利害關係ガアル。

(ロ) 斜行進ヲ以テ間隔ヲ保持セシメントス

ル場合ニ多クハ若干距離前進ノ後ハ側面縦隊ニテ前進セルノ状態ヲ現示スル、殊ニ不齊地ニ於テハ全然斜行ハ認メラレナイ。
要スルニ前者ハ運動、指揮及誘導等困難デアルガ後者ハ全ク之ニ反スルコト明ラカデアアル。
同時ニ側面隊形ノ儘誘導セラレル方ガ却ツテ自然的ノ様ナ感シヲ有シタ事ガアル。

又 銃

一 又銃及解銃ハ注目シテ之ヲ行フモトス。

(イ) 是レ熱達ヲ要スルニ非ズシテ正確ヲ目的トセルニヨルカラデアアル。

二 又銃ノ號令アリタル時奇數伍ノ前列兵ハ左手ヲ以テ上帶ノ下ヲ握リ銃身ヲ前ニシツツ床尾踵ヲ右足尖ヨリ床尾飯ノ三倍ダケ前ニ出シ右手ヲ放チ銃ヲ左ノ方ニ傾ク。

(イ) 往、左手デ上帶ノ下ヲ握ラズ右手ノミニテ右足尖ノ前方ニ出スモノガアル。

(ロ) 床尾飯ノ三倍丈ケトアルガ、熱練スルニ從ツテ此ノ規定ヲ無視スルヤノ感ガアル。

(ハ) 床尾飯ヲ右足尖ノ前方三倍トアルガ、往、自己正面ヨリ側方ニ出ス者ガアルカラ隣兵ノ床尾飯ト衝突スルコトガ多イ。

三 偶數伍ノ前列兵ハ左手ヲ以テ上帶ノ下ヲ握リ床尾踵ヲ左足尖ヨリ床尾飯ノ三倍ダケ前ニ出シ

又 銃

銃身ヲ後ロニシテ右手ヲ放チ、銃ヲ右ノ方ニ傾ケ隣兵ト鏢ヲ組合ハス。

(イ) 前項ノ注意ト同ジ。

四 奇數伍ノ後列兵ハ左手ヲ以テ下帶ノ上ヲ握リ、兩手ヲ以テ銃ヲ上ゲ右足ヲ踏ミ出シ既ニ組ミタル前列兵ノ鏢ニ組合シ床尾踵ヲ左隣兵トノ間隔ノ中央前ニ置ク。

(イ) 前列兵ノ鏢ヲ組ム時ニ前列兵ガ銃ヲ持テ上グル爲メ折角三倍ノ位置ニ床尾踵ヲ置イテモ又銃シタ場合ニハ其位置ト異ル様ニナルカラ此點ニハ注意シナケレバナラナイ。

(ロ) 左隣兵トノ間隔ノ中央前トアルカラ別ニ規定セラレタ位置ハナイガ通常一又銃ニ要スル前後列兵ノ對角線上ノ中點附近ニ置ク様ニ教育シテアル様デアアル。

五 偶數伍ノ後列兵ハ左手ヲ以テ上帶ノ下ヲ握リ銃身ヲ右斜ニシ左足ヲ踏ミ出シ其照星ノ下ノ所ヲ既ニ組ミタル鏢ノ左ニ寄セ掛ケ銃ハ奇數伍ノ後列兵ト銃ト平行ニス。

(イ) 照星ノ下ニ寄セ掛クトアルガ往、鏢ノ下ニ照星ヲ置ク様ナ立テ掛ケ方ヲ爲スモノガアル或ハ鏢ト照星ト相摩シテ居ル様ナコトモ認メラレル。

(ロ) 奇數伍ノ後列兵ノ銃ト平行ニスル様示サレテ居ルガ側方ヨリ寄セ掛クル者ガアル、此ノ如キ場合ニハ前列兵ガ後退スル時之ニ觸レテ又銃ヲ轉倒スルコトガアル。

六 右翼伍奇數ナルトキハ翼分隊長或ハ押伍列ニアルモノト共ニ又銃ヲ爲ス。

(イ) 此ノ如キ場合ニハ又銃スルハ面倒デアアルカラ隣ノ又銃或ハ尙ホ右翼ノ又銃ニ寄セ掛クルコトガアル。

七 一又銃ニハ五挺以上寄セ掛ケルコトヲ嚴ニ戒シメテ置クカ野外或ハ行軍等ノ場合ニハ五挺以上アルコトヲ往見受ケル、又此ノ如キ事實ヲ認メテモ之ヲ戒シメズ尙看過シテ怪マナイ隊長アルコトヲ見ルガ宜シク軍紀的破壊動作ヲ爲ス様ナ者ハ深く戒シメ同時ニ又銃ヲ改メサセナケレバナラナイ。

八 着劍ノ動作不確實ノ爲ニ又銃後脱劍シテ轉倒スルコトガアル、故ニ銃劍ノ嵌着ハ極メテ確實ニ行ハレナケレバナラナイ。

九 又銃セシ場合側面ヨリ之ヲ觀レバ床尾飯ノ位置概シテ齊一デナクテハナラナイニ拘ハラズ極メテ亂雜ナ場合ガ多イ、故ニ解散後兩翼分隊長ハ之ヲ修正スル様ニ注意ヲ與ヘテ置クガ宜シイ。

十 翼分隊及押伍列ニアルモノノ銃ハ適宜列兵ノ又銃ニ寄セ掛クルモノトス。

一 偶數伍ノ後列兵ハ左足ヲ踏出シ右手ヲ以テ其銃ヲ取り、其他ノ三名ハ左手ヲ以テ上帶ノ下ヲ右

解銃

手ヲ以テ木被ノ所ヲ握リ、銃ヲ上ゲ静ニ交叉ヲ解キ立銃ヲ爲ス。

(イ) 左手ヲ以テ上帶ノ下ヲ握リトアルカ右手ノミヲ以テ此ノ動作ヲ行フモノガアル。

(ロ) 銃ヲ上ゲトアルガ、極端ニ上グ者ヲ往認メル。

(ハ) 銃ヲ勢ヨク上グル爲ニ三銃ガ衝擊スル様ナ場合ガアル。

解散

一 「解」ノ號令下リ、又銃ニ在ルトキ兵卒ハ之ニ觸ルルコトナク解散ス可シ。

(イ) 概ニ解散前、列兵ヲ後退セシメテ然後解散ヲ命ズルヲ以テ此ノ憂ハ比較的少ナイ。

(ロ) 解散後又銃線内ニ休憩スルコトヲ戒メルガ尙往、此ノ禁ヲ破ルモノガアル。

行進間障碍物ニ遭遇セシ場合ニ就テ

一 舊操典ニ於テ此ノ如キ場合ニ於ケル處置ガ明示サレテ有ツタ曰ク「行進間障碍物ニ遭遇セシ小隊ハ其長ノ號令ヲ以テ障碍ヲ避ケ再ビ定位ニ復ス可シ」ト。

然レドモ今回ノ操典ニ於テ此ノ條項ハ取り除カレタガ此ノ趣旨ニ依ツテ機宜ニ適スル様ニ指揮シナケレバナラナイ。

中隊ノ指揮ハ中隊長ト列兵トノ直接關係デアツテ特ニ命令セラレタ時カ、或ハ制式ニ規定セラ

レタ場合ノ外ハ小隊長ト列兵トノ指揮關係ハ存在シナイノデアアル、是ニ依テ其都度號令ヲ與フルノ繁雜ヲ避クル爲ニ此ノ條項ガ設ケラレテ居タガ、新操典ニハ之ヲ省畧セラレタ是レ此ノ如キ場合ニ遭遇シタ時ハ小隊長ハ當然之ヲ廻避ス可キデアルカラダ、其方法隊形ノ撰擇等モ時ニ應ジ機ニ臨ミテ處置ス可ク、勿論障碍物ヲ通過シ了ツタナラバ原隊形ニ復スルノデアアル。

小部隊ノ一部ガ通過シ能ハザル障碍物ニ遭遇セシ場合列兵トシテノ動作ハ概シテ適當デナイ。

即チ、此ノ如キ場合ニ遭遇セシ列兵ノ多クハ左右ニ分離シテ兩翼ヲ押シ正面幅ヲ擴張シ他ノ列兵ト同様ニ行進シテ居ルガ獨立セル部隊ノ場合ニハ何等ノ影響ハナイ即チ兩翼ニ向ツテ正面幅ヲ如何ニ伸張スルモ他隊ヲ顧慮スルノ必要ガナイカラデアアル。

所ガ大部隊トナリ他隊ト連繫スル場合ハ兩翼ヲ顧慮シナケレバナラナイ、故ニ左右ニ正面幅ヲ伸張スルコトハ不可能ノ事デアルカラ自然ニ障碍ニ遭遇セシ部隊ハ足踏ヲナシテ他隊ノ通過後、適當ノ方法ニヨリテ續行シテ障碍ヲ通過シ原隊形ニ復スルカ、小部隊ト雖障碍物ニ遭遇セシ場合ハ列兵ハ足踏ヲナシテ兩翼ニ分離シテ跟隨シ然後原隊形ニ復スルコト他隊ト連繫セル場合ノ如クニナクテハナラナイ、此ノ事ニ就イテハ充分兵ニ注意シテ置クノ必要ガアル。

突擊

一 中隊突撃ヲ爲ストキハ喇叭手ハ突撃ノ譜ヲ連奏ス。

(イ) 此際、喇叭手モ部隊ト同行ス可キ筈デアアルガ多クハ喇叭ヲ吹奏スル爲ニ呼吸ノ必通ヲ覺エ、部隊ト共ニ突撃ニ参加スルコトヲ得ズシテ後方ニ佇立シ連リニ突撃譜ヲ吹奏ス、此ノ如キハ畢竟平素ノ教育宜シカラズ只單ニ吹奏ニノミ焦慮セルモノタルヲ標榜スル次第デアアル。須ラク駈歩及突撃喇叭ハ其動作ニ伴フ如ク教育スル必要ガアル。

(ロ) 練兵場ニ於テ敵線ノ無キ場合ハ敵線ヲ假想シテ之ヲ實施ス可キコト各個教練ノ部ニ述ベテ置イタカラ之ヲ畧ス。

二 敵ヲ擊退スルヤ、前線ニアル小隊ハ成ル可ク、速ニ追撃射撃ヲ始ム可シ後方ニアル小隊ハ地域ノ許ス限リ側方ニ進出シテ追撃射撃ニ加ハルヲ要ス。

(イ) 何レノ部隊ヲ問ハズ突撃前ニハ先ヅ着劍シナケレバナラナイ、往、事、急ニ屬スル場合之ヲ失念スルコトガアル。

(ロ) 敵陣地ヲ占領シタ場合何レノ隊形ヲ問ハズ第一線ニアルモノハ直ニ追撃射撃ヲ開始ス可ク、後方小隊ハ地域ノ許ス限リハ側方ニ進出シテ射撃ニ加ハル可キ筈デアアルガ兵卒中ニハ往、甚シキハ小隊長ガ此ノ條項ヲ失念シテ居ル事ガアル。

(ハ) 突撃後側方ニ進出ス可キ地域ナキ場合ハ自己ノ指揮スル部隊ヲ集合シ手裡ニ掌握シテ其後方ニ位置シ下ル可キ號令或ハ命令ニ對シテ何時ニテモ直ニ應ジ得ル如ク整頓サセテ置カナケレバナラナイ、然ルニ往、無理ニ射撃ニ加ハラントシテ射線ハ三列或ハ四列トナリ、尙ホ後方ヨリ射撃セントスルガ如キコトヲ見ルガ此ノ如キ事ハ深ク戒シメナケレバナラナイ。

(ニ) 突撃後部隊ハ混淆シテ指揮官不明ナル場合列兵ハ其附近ニアル最モ近ク位置セル指揮官ノ號令ヲ遵奉シテ動作シナケレバナラナイ。

中隊(密集)教練之小言 終

大正四年五月十日印刷
大正四年五月十八日發行

中隊(密集)教練之小言與附

正價 郵金三十五錢
稅金六錢

發行者 伊藤芳松

東京市赤坂區表町二丁目一番地

著者 木村晃

東京市麴町區下六番町十七番地

印刷者 松澤瓦三



東京市赤坂區表町二丁目一番地

◎發行所

電話芝五六〇五番
振替貯金口座二〇九八七番

兵事雜誌社

印刷所 東京市麴町區下六番町十七番地【電話三六九】同勞舍

御待兼の訂正大増補第十一版發行

將校 作戰綱要



體裁四六判半裁。頁數一千餘頁
製本本製金文字入。附圖並箱附
全一冊 金壹圓 小包料金八錢

好評噴々版を重ねること第十版に及びし本書が如何に上元帥より下下士に至るまで階級と兵科とを論ぜず指揮官たり幹部たる者に必須至便の書なるかを紹介せん爲め左に編者の自序を掲げ以て廣告に換ふ。

◎發行所

東京市赤坂區表町二丁目一番地
(電話 芝 五六〇五番)

兵事雜誌社

余ヤ不敏固ヨリ人ノ師長ヲ以テ自任スル者ニアラサレトモ機件ニシテ陸軍大學ノ門ヲ出テタルノ光榮ニ浴セルヲ緣トシ往々青年將校諸子ノ推獎ヲ受ケ學術上ノ研鑽質疑ニ贊同應答スルノ任ニ當ラン事ヲ懇請セラル之ヲ二三同學ノ僚友ニ聞クニ亦同僚ナリトイフ是ニ於テ吾人相圖リテ一個ノ打合セ研究会ヲ組織シ方今最先ノ急務トシテ屢々依頼ヲ受ケタル陣中必携ノ材料ヲ蒐集セリ其ノ範圍ハ固ヨリ軍事全般ニ亘リ原則ノ研究ニ應用作業ニ野外ノ實施ニ計畫施設ニ必須事項ハ悉皆之ヲ網羅シテ遺憾ナカラシメテコトナリ此ノ如キ事業ハ一人ノ力ヲ以テシテハ容易ニ功ヲ舉ヘ難キ虞アリトモ幸ニシテ數人ノ戮力ヲ得タル結果偏重偏傾ノ失ヲ免ルルヲ得タルハ余ノ欣喜ニ堪ヘサル所ナリ。而シテ當初ノ所期ハ勿論之ヲ世ニ公ニセントスルニアラス以テ篤學ナル知己ノ懇請ニ酬イテスルヨリ他意ナカリシガ兵事雜誌社主編ニシテ耳ニシテ來リテ余ヲ訪ヒ之ヲ秘シテ僅ニ二三子ノ便ヲ圖ルニ止ムルノ理由ナキナリ且ツ熱心ナル研究者ガ千金ノ時間ヲ費シテ傳寫ヲ爲スノ徒勞ヲ吝ミ切ニ之ヲ鉛筆ニ附シテ以テ廣ク同好者ヲ益セン事ヲ請フ余等其ノ事ノ意外ナルヲ思フト雖モ事公益ニ存ストセハ又強ヒテ之ヲ拒ムノ辭ヲ有セス即チ更ニ嚴重ナル選擇ヲ施シテ終ニ之ヲ公刊スルニ至レリ。終ニ臨ンテ余ハ表紙ニ刻セル徒歩計ヲ紹介セサルヘカラス是ハ千々和中尉ノ新案ニ成リ陸軍戸山學校ノ之ヲ採納セルモノ頃者噴々タル好評ヲ有ス本書ニ其ノ使用法ヲ附録セルカ故ニ讀者熟讀シテ之ヲ實驗セハ考案者ノ功績ノ偉大ナルヲ認ムルヲ得ヘシ即チ之ニヨリテ距離ノ測定ト距離ニ適應スル運動ノ計畫トヲ正確ニスルヲ得ヘシ余ハ陸軍戸山學校並ニ考案者ガ之ガ版權ヲ寄與サレ本書ノ價銀ニ一段ノ重キヲ加フルヲ得シメラレタル好意ヲ感謝スル者ナリ。

五月吉日

著者ノ一人識

我陸軍教育之基準書!!

陸軍教育指針 全

體裁ボケット形用字六號
文字、紙頁八百餘頁
製本革製本金文字入
全一冊 定價金八十錢
小包料八錢

教育の諸條規に通曉することは**教育を完全ならしむる基礎**なり然るに其**必要なる條規**は極めて多く到底之を**諳熟**する能はざるなり之を以てか**成規**を一括して座右に備へ必要に臨み之を繕き以て諳熟の困難に代へざるべからず是れ本**社が特に教育に關する必要成規を網羅し之に内務其他分離すべからざる成規を加へて**敢て鉛型に附したる所以なり坊間曲範令に關する此種の冊子少しとなさず其教育に關するものに至つて則ち本書あるのみ江湖の諸賢希くは一本を其座右に備へ以て國家教育に遺漏なきを期せられんことを。

◎發行所

振替貯金東京二〇九八七番
電話 芝 五六〇五番

兵事雜誌社

東京市赤坂區表町二丁目一番地

教育研究會著

豫備見習士官ノ良師友出ツ!!

士官候補生 一年志願兵 豫備見習士官用 **戰術學教程** 一卷 一冊金三十五錢 郵税金六錢

士官候補生 一年志願兵 豫備見習士官用 **戰術學教程** 二卷 一冊金三十五錢 郵税金六錢

士官候補生 一年志願兵 豫備見習士官用 **地形學教程** 全

士官候補生 一年志願兵 豫備見習士官用 **兵器學教程** 全

士官候補生 一年志願兵 豫備見習士官用 **軍制學教程** 全 金貳拾五錢 郵税四錢

軍事ノ進歩ハ益々大兵團ノ使用ヲ促シ從ツテ豫備將校ノ奮勵ヲ待ツヤ甚

補

大ナリ此時ニ當リ本社ハ士官候補生用、一年志願兵用、豫備見習士官用教程ノ編纂ヲ托スルニ天下已ニ定評アル教育研究會ヲ以テセリ而シテ研究會ハ其ノ獨特ノ蘊奧ヲ遺憾ナク發露シ以テ天下一品ノ良教

生

程 タラシムルコトヲ期セリ該教程ハ新教育令ヲ經トシ士學校教程ヲ緯トシ之ニ加フルニ教程毎ニ各種問題ヲ列舉スルコト實ニ數百而

シテ其内容ノ整然、陳述ノ正確ナルハ獨リ該教育上ノ良教程ト

シテ古今其比ヲ見サルノミナラス獨學自習ノ好同伴タル

コト實ニ軍事界ノ羅針タリ、故ニ熱誠ナル諸賢ハ速ニ一本ヲ座右ニ備ヘ以テ其研鑽ニ資セラレ人後ニ落チザランコトヲ

一年志願兵ノ福音出ヅ!!

東京市赤坂區表町二丁目一番地

◎豫約申込所

電話 芝五六〇五番 振替貯金口座二〇九八七

兵事雜誌社

研究會著 大好評の新刊(第十一版出版)

改正步兵操典詳解

卷の上
卷の下

陸軍大學出身の某々氏等が同大學入學志望青年將校諸氏の懇請黙止し難く嘗て同有志研究會の請に
應じ攻究に便しつづつ在るとは「作戦綱要」を手にせる人の既に知り給ふ所ならん。然り、同研究會の成
立や日未だ淺く其組織や尙天下の俊秀を網羅せりととは言ふべからざるも、而も其研究總べて着實穩
健にして世間多數者の渴望を醫するに十分なることは之を同書が既に第四版を重ねたるの盛況に徴
すべし。今や「改正步兵操典詳解」成る本書は即ち同會第二の所産にして某々氏等の他位たる蓋し改
正前の内容豫知に比較的便なりしが絶大の精力を以て討究を反
覆し逐條各項に懇篤なる解釋を試講話したる其の筆記なり若し夫
同に至りては訂正補修遺漏無からんことを期せり。故に其の解釋や
微霽連夜以て荷しくも難問疑義未だ以て立ちどろに氷解せずん
ば、曲詳密、其の說明や、難問疑義未だ以て立ちどろに氷解せずん
欲する諸君は直ちに一本を備へ其の歸趨を知られんことを。

●發行所

東京市赤坂區
表町二丁目一

兵事雜誌社

電話芝五六〇五番

研究會著

◎見よ看よ好評嘖々忽ち第二版發行の本書を

改正騎兵操典詳解全

體裁 菊判
頁數 三百餘頁
正價 金七十五錢
郵税 八錢

本書は讀書界に於て破天荒の大好評を博し未だ僅々 年餘にして版を
重ぬること十回の盛譽を擔ひたる改正步兵操典詳解改正野戰砲兵
操典詳解、戰略戰術詳解等と同じく研究會の産物なれば、其の解説の精
確なると其の講述の懇篤なるは今更改めて弊社が茲に喋々する
迄もなく讀者は既に了知する所ならん、宜なる哉發行早々好評嘖々たり

◎發行所

振替貯金口座二〇九八七番
電話 芝五六〇五番

兵事雜誌社

東京市赤坂區表町二丁目一番地

好評第一版第二版第三版發行

研究會著

改正野戰砲兵操典詳解

體裁 菊列
紙數 三百餘頁
全一冊 金七十錢
郵稅 八錢

改正野戰砲兵操典ハ發布セラル本書ガ最近大戦役ノ重要ナル教訓ヲ骨子トシテ改正セラレタル實典タルハ云フマデモナシ而モ條文ハ簡潔ニシテ意味極メテ深長之ヲ會得シテ其ノ神髓ヲ悟了スルニアラザレバ運用ノ妙ヲ得ル能ハサルナリ是ニ於テカ其ノ神髓ヲ味ハシムル詳解書ノ需用起ル曩ニ步兵操典ノ改正アルヤ幸ニ世人ノ敬仰セル某々有爲ノ將校特ニ會テ結ンデ之ガ攷究ニ從事セラレ研鑽頗ル力メテ得直ニ印刷發行スルヤ世人ノ歡迎果シテ目覺シキモノアリ暮年ナラスシテ五版ヲ重スルニ至レリ今ヤ本操典ノ發布アリ大方ノ望マル所亦前ノ步兵操典詳解ノ如キ良書ノ出版ニアルベキナ思ヒ前著者諸彦ニ請ヒテ茲ニ前著同様ノ詳解ヲ公ニスル光榮ヲ荷ヘリ其ノ内容ノ新界ノ渴望ヲ醫スルニ足ルベキハ吾人ノ喋々ヲ待タズシテ明ナル所苟モ最新知識ヲ獲得ニ於テ他人ニ一步ヲ讓ラザラント欲スル士ハ速ニ一本ヲ左右ヘ備ヘラレ

◎發行所

電話 芝 五六〇五番
振替貯金番號 二〇九八七

兵事雜誌社

東京市赤坂區表町二丁目一番地

軍隊教育書界ノ革命書出ツ
鯨城生著

初年兵之教育手段全

體裁 四六版
紙數 二百五十頁
全一冊 金三十五錢
郵稅 四錢

從來兵卒教育ニ關スル著書其數ニ乏シカラスト雖モ新教育令ノ發布ト共ニ諸説多クハ陳腐ニ屬シ大正ノ今日之カ參考書ヲ見ル能ハサルハ最モ遺憾トスル所ナリ本書ハ實ニ多年軍隊教育ニ從事セル熱誠ナル著者カ新教育令ニ基キテ研鑽討究セル經驗上ノ好書特ニ中隊長以下各級幹部カ則ルヘキ教育手段方法及ヒ良兵良民ノ養成ニ關スル教育上ノ蘊奧ハ細大之ヲ網羅シテ餘サス理想的ニ陳述セリ某將軍評シテ曰ク「初年兵教育ノ好指南車ニシテ暗夜ニ燈火ノ感アリ」ト嘆賞セラル以テ本書ノ内容ヲ察知スルニ足ルヘシ乞フ教育監督者タル諸上官ト又其實行者タル各級幹部タルト苟クモ軍國ノ教育ノ進運ヲ企圖セラル、諸士ハ本書ヲ座右ノ銘トセラレコトヲ。

東京市赤坂區表町二丁目一番地

◎發行所

電話 芝 五六〇五番
振替貯金口座 二〇九八七

兵事雜誌社

發行早々好評噴々再版發行

一 教 育 者 必 ず 本 書 を 見 べ る し

軍 隊 教 育 實 驗 會 著

第 四 版

新 兵 教 育 の 實 驗 全

體 裝 四 六 判
紙 數 約 二 百 餘 頁
全 一 冊 金 三 十 錢
郵 稅 六 錢

世ニ實驗ヨリ貴重ナルモノナシ典令教範ハ一字一句モスベテ過去ノ實驗ノ積集ナラザルハナシ典令ノ
典令タリ教範ノ教範タル價值固ヨリ此ニ存ス、カルガ故ニ教官トシテ典令教範ノ命ズル所ヲ完ウセン
ニハ教官自身多大ノ實驗ヲ積ミ以テ典令教範ヲ產出シタル過去ノ實驗者ノ辛苦ヲ體得セザルベカラズ
本書ハ實驗會ヲ組成セル著者數氏ガ新兵ノ教育ニ從事スル間ニ這般ノ辛苦ヲ嘗メテ積集セラレタル結
果ヲ持チ寄り更ニ之ガ是非得失ヲ攷究シテ研鑽ヲ遂ゲタルモノ其ノ實驗ノ經過ヲ著述セラレタルモノ
其ノ注意微ニ入り細ヲ穿チ一舉一動モ徹底セザルモノナシ即チ

緒論—助教助手—助教助手ノ人選及ヒ配合—助教助手ノ教育—(精神教育—學科教育—術科教育)—
助教助手ノ統御及指導—班ノ編成及古兵ノ統御—新兵ノ操縦法—教育實施一般ノ要領—精神教育—
(敬禮演習)—術科教育(體操)—各個教育—其ノ他諸教練—學科教育—新兵指導ニ關スル細件—結論
等ノ諸大項目ヨリ成リ全篇貴重ナル實驗ノ結晶ナリ今ヤ新兵教育最重要期ニ
際シ其ノ稿本ヲ請ヒ得テ印行スルヲ得ルハ斯界ニ多大ノ貢獻ヲナスモノタル
ベク本社ノ大ニ光榮トスル所ナリ。

東京市赤坂區表町二丁目一番地

◎發行所

電話 芝五六〇五番
振替貯金番號二〇九八番

兵 事 雜 誌 社

初 版 忽 ち 賣 切 再 版 發 行

大 正 軍 事 界 ノ 理 想 的 實 驗 出 づ

中 隊 家 庭 ノ 慈 母 出 づ

理 想 的 內 務 班 長 全

體 裁 菊 版 四 十 餘 頁
頁 數 二 百 餘 頁
製 本 本 製 金 文 字 入
ポ ケ ッ ト 形 携 帶 至 極 便 利
全 一 冊 定 價 三 十 五 錢
郵 稅 四 錢

中隊家庭ノ慈母タル班長ノ職責ノ重大ニツキテハ豈此所ニ喋々ヲ要センヤ然レ共此困難ニ
シテ多端ナル職責ヲ明カニシ且ツ兵卒ヲ指導シテ慈母ノ大任ヲ果スヘキ方法ニ關スル記述
ヲ見サルハ我軍事界ノ最モ遺憾トスル所ナリキ本會ハ思ヒテ此所ニ致シ班長カ職責履行ノ
各手段ト兵卒指導ノ方法トヲ理想のニ陳述シ尙之ヲポケット用トシテ携帯ニ便ナラシム而
シテ之ヲ翻クニ至ツテハ一言一句中隊成績ヲ優良ナラシムル手段ナラサルハナク特ニ内務
履行上其必用缺クヘカラサル嶄新ナル諸表十數種ヲ挿入セルカ如キ或ハ兵卒性行觀察録ヲ
附シタルカ如キハ唯ダ其ノ一例ニシテ内容ノ豊富ト代價ノ低廉トハ眞ニ之レ大正兵事界稀
ニ見ル良書寶典ノ理想タリ冀クハ熱誠ナル將校下士諸君ノ一讀ヲ惜マサランコトヲ

東京市赤坂區表町二丁目一番地

◎發行所

電話 芝五六〇五番
振替貯金口座二〇九八七

兵 事 雜 誌 社

行發版二第評好大

軍隊教育研究會著

新教育令ニ基キタル野外勤務教育 全

體裁四六判
紙數百六十餘頁
全一冊 金參拾錢
郵稅四錢

軍隊教育界一大光明放

本書は軍隊教育中最も困難とする所の野外の各種勤務に就き會員が多年實地の經驗に基き野外勤務教育の方法、行軍間の斥候、駐軍間の斥候、停止斥候、潜伏斥候、戰鬥斥候、小哨勤務、下士哨、步哨、三(四)人哨、巡察、各種外衛兵、風紀衛兵に分ち又之に關聯せる各種戰例を加へ以て被教育者の指針教育者の參考たらしめんとしたるものなり其配列及記載法の整然として系統的なること其材料の豊富なることは實に本書を措て他に之を求むべけんやされば本書は將校下士諸君の參考資料として實に一大光明を放てるものにして熱誠なる教育者の是非一本を書架に備ふべき隨一の良書なり。

發行所

電話 芝 五六〇五
振替口座東京二〇九八七
東京市赤坂區表町
二丁目一番地

兵事雜誌社

軍隊教育精神界光明

幹部用訓言錄 全

體裁菊版四十裁ち
ボリケット用
紙上等 舶來紙
全一冊 金拾錢
郵稅三錢

精神教育界革命命書

軍隊教育令ノ改正ト共ニ軍隊ノ精神教育界ニ一新紀元ヲ畫セリ此時ニ當リ將校下士諸氏ノ率先躬行ト古今聖典ノ研究トハ教育ノ本旨ニ合スル唯一ノ手段ナリ本書ハ實ニ軍隊教育界ニ於テ超然タル人格ヲ有スル某將軍ノ收錄ヲ請ヒ出版公ニセルモノ而テ其内容ヲ見ルニ畏クモ 明治天皇ノ御製ヲ始メトシ奉リ古今東西ノ金言、名將ノ訓戒先哲ノ名言、等 和歌アリ俳句アリ格言アリ 教訓アリ俚諺アリ苟クモ軍隊教育上必要ナル教訓ハ細大洩ラサス 二千有餘ヲ集録シアルガ故ニ兵卒教育上寸時モ缺クベカラサル良著ニシテ實ニ大正軍隊精神教育界ノ革命タリ又光明タリ敢テ江湖熱誠ナル將校下士諸ノタメニ一讀ヲ勸ム

發行所

東京市赤坂區表町二丁目一番地
電話 芝 五六〇五番
振替貯金口座二〇九八七番

兵事雜誌社

軍隊教育實驗會著

模範的小隊長 全

體裁 四六
文字 上製
全一冊 金三十五錢
郵稅 四錢

從來青年將校の職責を説けるもの少しとせず然れども徒らに理想に走り理論に陥り之を具體的に開陳せしものなきは聊か隔靴搔痒の感なき能は青年將校修養の材料に資せしめんとざりしが本書は著者が嘗て之を遺憾となし青年將校の模範的小隊長に就き詮衡卑く同人等の目睹せし五十人の模範的小隊長に就き詮衡卑近なる實例を擧げ以て其職責の準繩を示せしものなり故に小冊子難き小隊の座右銘 指南なるべき好著 借覽は又寫取を申込む者頻なりとの事 斯の如き有益なる書を一部人士の專用に委せんより之を公刊廣く全軍青年將校に益々向上發展の資に供し將校生徒諸君は以て將來の目標を捉へ上長官指導の參考とせられん

◎發行所

電話 芝 五六〇五番
振替貯金東京二〇九八七番

兵事雜誌社

研究會員某著

實驗に於ける夜間演習自教育 全

體裁 菊判
全一冊 金五十錢
郵稅 六錢

火器の進歩と日露戰爭の實驗は吾人に夜間行動の必要を大に感せしむるに至れり然るに夜間の行動たるや晝間の行動と異なり心理的方面の制肘妨害を受くること實に多大なれば夜間行動の教育は常に此心理的方面の研究を基礎として教育せざるべからず。

本書は即ち此方面より多年實驗致究したる其成稿にして實に此種教育書の泰斗と云ふも過言にあらずとは世評なり弊社は本書の價値に就き嘖々するを止め左に著者の緒言を掲げ以て廣告に換ゆ

緒言

日露戰役後夜間演習教育ノ必要ヲ唱フル聲年々ニ喧シ之レ其自然ノ要求是ヲ然ラシムルモノニアラスシテ何ソヤ。予亦夜間演習教育ニ多大ノ趣味ヲ有シ戰役後之ガ研究ニ焦心シツハアリ而シテ今ヤ數年ノ經驗ト先輩諸官ノ其大ナル助言ト指導トニ依リテ其經驗ヲ輯録シテ冊子ヲ作セリ本書ヲシテ更ニ良好ナルモノヲ研究シムルハ實ニ大方諸賢ノ貴重ナル實驗ノ發表ト其懇篤ナル助言トニアリ敢テ軍國ノ爲メニ忠實ナル敬意ヲ表ス。

明治四十四年八月

著者誌

東京市赤坂區表町二丁目一番地

◎發行所

電話 芝 五六〇五番
振替貯金二〇九八七番
兵事雜誌社

初版忽ち賣切再版發行

319
349

319
349

終